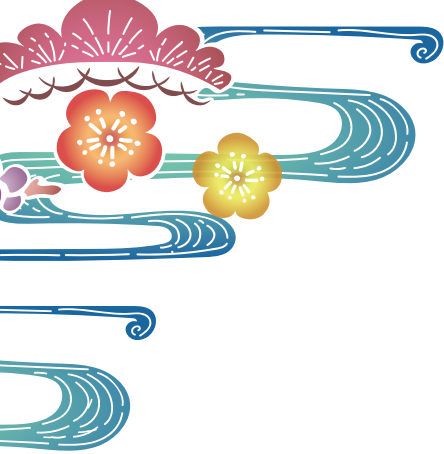




うちなー地域づくり

事例・施策集





はじめに

沖縄県では、復帰50周年事業の一環として、地域住民、地域づくり団体、企業等による自主・自立的な地域づくり活動及び関係団体、自治体と連携・協働した地域づくりの取り組みに役立つ先進的な事例を集め、広く紹介することを目的に、「うちなー地域づくり事例・施策集」を作成しました。

人口減少や過疎化など、社会構造の変化に伴う人々の行動様式の変化や価値観の多様化が進む中で、地域社会は、様々な課題を抱えております。このような中、地域の伝統・文化を受け継いだ温もりや賑わいを大切に、子ども達やお年寄りをはじめ誰一人取り残すことのない優しい社会の実現に向けた取組がますます重要性を増しております。

県内には、地域への貢献度が高く、創意工夫された地道な地域づくりを実践している団体が数多くあります。本書では、これら団体の取り組みの開始に至るまでの背景・経緯や取り組み内容、今後の展望などを紹介しております。

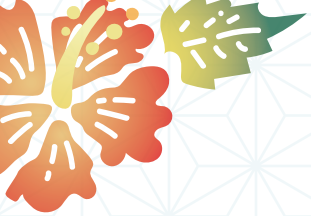
また、「地域づくりの参考となる事例」や「地域づくりに役立つ施策」は、民間企業等、市町村、国・県関係部局から提供された情報を取りまとめたものです。

この「うちなー地域づくり事例・施策集」が、地域づくりの取組を県民全体へ広げ、連携と協働による地域づくりのきっかけになれば幸いです。

最後に、本書を作成するに当たり、ご協力をいただいた地域づくり団体、民間企業等、市町村及び国・県関係部局のみなさまに厚くお礼を申し上げます。

令和5年1月
沖縄県企画部 地域・離島課





Contents

うちなー地域づくり事例・施策集

01 はじめに

03 復帰50周年記念事業 うちなー地域づくりフェスタ

05 うちなー地域づくり大賞受賞団体

19 地域づくりの事例

55 地域づくりの参考となる事例

71 地域づくりに役立つ施策

うちなー地域づくりフェスタ

わったー街に
元気に!

未来へ続く、わったーちゅらまち
～地域づくりは、きずなづくり～

2022 11.6 日 13:00～16:00
(開場12:30)

沖縄県立博物館・美術館 講堂

**うちなー地域づくり
大賞授賞式**

《受賞団体への表彰、活動ビデオの上映》

・大賞1団体、特別賞2団体、奨励賞1団体

パネル展示 地域づくりの歴史と未来

**琉球マブヤー
ステージ
アトラクション**

沖縄が生んだマブヤー文化を
一舞台に、地域づくりを盛り上げよう!

**オープニング
セレモニー**

地域づくりに貢献する
団体による華やかな
パフォーマンスで
フェスタ開幕!

**地域活性化助成事業
特別賞授賞式**

創業工夫を活かした
地域づくりを行う
団体を表彰します。

基調講演

地域は夢の宝庫
～笑顔が輝く地域づくりの未来を語る～

《講演者》

平田 大一

沖縄文化長官
総務アドバイザー

パネルディスカッション

地域資源(ヒト・モノ)を活かして沖縄を光るに!

《モデレーター》
・本村 真 琉球大学人文社会学部 教授

《パネリスト》
・平田 大一 沖縄文化長官兼総務アドバイザー
・宮里 健 沖縄県町村会会長
・山崎 定雄 公益社団法人沖縄県地域振興協会
・加藤新典 専門アドバイザー
・うちなー地域づくり大賞受賞団体

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込みを
完了させます。

観覧申し込み方法 ①お申し込みは、**11月5日**までとさせていただきます。②観覧の申し込みは、**無料**となります。

STEP 1

スマホのカメラで
QRコードを読み取り、
お申し込みを完了させます。

STEP 2

名前・性別・電話番号
を入力します。
人数を入力。

STEP 3

イベントに関する趣意・活動内容の簡潔な
説明(200文字以内)を入力し、申し込みを完了
させます。

観覧申し込み方法

QRコードを
スマートフォンで
読み取り、申し込み



令和4年11月6日(日)に 沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)で 復帰50周年記念 うちなー地域づくりフェスタ を開催!

現代版組踊「肝高の阿麻和利」やうちなー地域づくり大賞授賞式、琉神マブヤーの地域づくりショー、平田大氏による基調講演、有識者によるパネルディスカッションなど、盛りだくさんの内容で開催。お子様からご年配の方まで、たくさんの方が来場しました。





うちなー地域づくり大賞

令和4年11月6日(日)に開催しました「復帰50周年記念 うちなー地域づくりフェスタ」では、地域の活性化に取り組み、沖縄らしい優しい社会づくりの参考となる活動を行っている団体を募集・選考して表彰する「うちなー地域づくり大賞」の授賞式を執り行いました。

全部で22団体の応募があり、その中から
大賞1団体、特別賞2団体、奨励賞3団体の合計6団体が選ばれました。

本章では受賞した6団体の活動を紹介します。



うちなー地域づくり大賞受賞団体

《大賞》

特定非営利活動法人 いけま福祉支援センター (p.6-7 参照)

《特別賞》

特定非営利活動法人 地域サポートわかさ (p.8-9 参照)

あまわり浪漫の会(現代版組踊「肝高の阿麻和利」) (p.10-11 参照)

《奨励賞》

伊計自治会 (p.12-13 参照)

特定非営利活動法人 こども家庭リソースセンター沖縄 (p.14-15 参照)

ユナムンダクマ協議会 (p.16-17 参照)

うちなー地域づくり大賞受賞団体

特定非営利活動法人

大賞

いけま福祉支援センター

今日も楽しいねと笑って生きられる島づくりを目指して

「地域の高齢者や子どもたちがいきいきと暮らせる環境づくりに貢献すること」を目的として、子どもの暮らしを包み育むプロジェクトと、高齢者介護事業を柱に取り組んでいる。

子どものプロジェクトでは、放課後児童クラブ“おやこぼし学園”にて、異年齢の子ども達が集う居場所を提供し、保護者とともに遊びを通して子どもの成長を見守る「サンマ」（時間・空間・仲間）を大切にしている。また「みんなのおうち」では18歳以下のすべての子どもが利用できるように公民館を活用し、昔この地域にあった、頼り、頼られ、助け合う子育て支援を行い、子どもの心に寄り添う活動を行っている。

高齢者事業では、小規模多機能型事業所“きゅ〜ぬふから舎”を運営。「池間島から離れたくない」「住み慣れた自宅で暮らし続けたい」という島民の切実な声を受け、2006年に開所。地域密着を目指し、地域の人



地域の人を看ることができるよう、島民を採用し、働きながらの資格取得もバックアップした。

このことで、加齢による生活の不自由さから、やむなく島を出なければならない高齢者は減り、安心して島の人と一緒に過ごすことができるようになった。

他機関や団体との積極的な連携を図る



他団体との連携による取り組みも積極的だ。その一つが「すまだてい（＝島おこし）活動」。島の色々な問題（耕作放棄地、イーヌブー（池間湿原）の陸地化、景観の悪化等）に対し、島内の各種団体と連携しながら、ボランティアも含めた協力の下、継続的に耕作放棄地再生プロジェクト（収穫物を活用

カテゴリー 子どもの健全育成／健康・福祉

住 所 宮古島市平良字池間90-6

電話番号 0980-75-2870

設 立 2004年9月

人 数 30名

主な活動 子どもの暮らしを包み育むプロジェクトや介護事業等の地域福祉を通じた地域づくり活動

受賞歴 平成29年度 沖縄県地域振興協会 地域活性化助成事業 特別賞
平成30年度「沖縄、ふるさと百選」集落部門認定
平成30年度 全国「地域再生大賞」準大賞

した島の特産品づくり)や緑化活動等を行っている。

2011年から始まり恒例行事として定着している、11月3日(マーマークツツの初日)に開催する「池間島大演芸会」では、普段は池間島の外で暮らす家族や親せき、同級生たちが集合する中、池間小中学校の子ども達や老人クラブ、各種サークル等の個人・団体が競うように出演。多世代間の交流促進につながっている。

また、池間島カレンダーの売り上げを原資として「すでいがふう奨学金」を2018年に創設。返済不要の奨学金を毎年春、島から進学する高校3年生に贈呈することで、島の未来を切り開く子どもたちを島民や郷友会等が

応援する仕組みとなっている。

これらの活動母体として、「いけま島おこしの会」を自治会や漁協、老人クラブや郷友会等の関係団体とともに結成し、月1回の定例会等を通して課題を共有。「すまだてい活動」として、池間漁港周辺の緑化イベントや島おこしに関する講演会、「すまだていだより(全戸配布)」による情報共有等の取り組みによって、島民が一体的に活動・連携を図れる基盤づくりに貢献している。

未来へのビジョンは大きく、夢を持って

「NPOの仕事は基盤を作ること。事業が他でもできる状態になれば、移管するのは当たり前」と代表の前泊さんは言う。実際、民泊事業と仕事の場作り事業は、培ってきた経験や知識と共に、設備までの全てを元職員に引き渡した。「自分のものだと思おうと手離すことはできない。でも、地域づくりはそうじゃないから」

「ゆくゆくは、高齢者の事業も信頼できる所に任せ、子どもの健全な成長を促す環境作りにもっと注力したいのだ」と言う。「島の未来のためにも、子どもが力をつけられるようサポートしたい。そのために今、色んな研修を受けながら勉強しています」前泊さんの挑戦はまだまだ続きそうだ。



うちなー地域づくり大賞受賞団体

特定非営利活動法人

特別賞

地域サポートわかさ

誰もが住みよい地域にするためには、地域みんなの力が必要！



公民館＝自治公民館（生活全般に関する活動を行う、住民主体の組織）のイメージを持つ方もいるかもしれないが、若狭公民館は、行政が設置している公立公民館（条例公民館）であり、社会教育・生涯学習施設としての機能を果たすものとなっている。那覇市には7つの公立公民館があるが、そのうちの2館が指定管理者を導入しており、若狭公民館は【NPO法人地域サポートわかさ】が管理運営を行なっている。

若狭公民館（宮城館長）の管轄は広く、小学校6校に中学校2校、約54,000人（30,000世帯）が対象となっている。生活保護率が高く、歓楽街を有するため夜間に働く女性も多い。また、外国人労働者や留学生も急増しているエリアとなっている。

地域課題は多様化・複雑化し、解決には時間がかかる。何かと忙しい中で、住民に時間を割いて活動に参加してもらうことも難しい状況であるため、公民館としては「地域課題×活動の魅力」ということを意識し、地域課題に向き合いつつも、活動そのものを楽しく魅力あるものにできるよう取り組んでいる。

また、公民館の中にいると、利用者や自治会役員からの情報は得ることができるが、それ以外の方々が抱えている困りごとに気づかない場合もあるという。様々な属性の方がいることをまずはしっかり認識すること。その上で、何に困っているのか想像を働かせ、その方々と繋がっていきそうな機関や団体と連携し、支援が行き届くよう努めている。

他機関や団体との連携で、直接の繋がりがなくとも支援が可能に

若狭公民館の活動は多岐にわたり、ここで全てを伝えることは難しい。そのため、前述にある「活動の魅力」「他機関や団体との連携」がより際立った活動に焦点をあてて紹介したい。

「しんぐるまざあず・ふぉーむ沖縄」とは、公民館の講座に協力してもらったのがきっかけで10年以上前から連携している。寡婦控除（夫と死別・離別した方の税金

が控除される仕組みで、未婚だと控除の対象外だった。）の見直しを求めて勉強会を開催したり、コロナ禍の食糧支援では「提供する場所がない。」との相談をうけて、休館中であった公民館を開放し、密にならないようドライブスルー方式で渡すことができるようにした。また、この支援のニュースを見た方から「食べ物にも困っているし、学校再開にあたり子どものランドセルが準備できて

カテゴリー 子どもの健全育成／人材育成

住 所 那覇市若狭2-12-1

電話番号 098-917-3446

人 数 7名

設 立 2007年法人設立、2015年～若狭公民館の指定管理者

主な活動 那覇市若狭公民館指定管理事業

利用施策 沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業（平成29年度～31年度）、
移動式屋台型公民館を活用した「つどう・まなぶ・むすぶ」創造拠点創出事業

受賞歴 文部科学省第70回優良公民館表彰最優秀館（2017年度）、
第4回全国公民館インターネット活用コンクール金賞（2021年度）

いない。」との相談をもらった。休校中であったため、先生方も状況を把握しにくい中、たまたまこの会のことを知ってもらえたため繋がったのだ。その後、知り合いづてでほぼ新品のランドセルも用意できたり、学校から行政の支援員を手配してもらうこともできた。直接、当事者

と公民館の接点があったわけではないが、「しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄」や学校、那覇市等と繋がっているからこそ、支援に必要な団体同士を橋渡しすることができた好事例ではないだろうか。

楽しいから人が集まる！地域の公園に出現したパーラー公民館

数年前の夏、「曙地域にも公民館がほしい。」との声が届く。この地域には公民館がなく、最も近い若狭公民館へも徒歩1時間と離れており、市の財政状況を考えても、新たな公民館建設の道のりは遠いと感じられた。

そこで登場したのが、公園にパラソルと黒板テーブルを設置しただけの通称「パーラー公民館」。月に1回程度のワークショップやイベントを開催したものの、基本的には自由な場。高齢者が語らい、子どもたちがお絵描きやボール遊びをするなど、思い思いに楽しむようになった。実は、派遣した公民館スタッフには、「何もしないよう

に。」と伝えられていた。世話焼きの性質であるスタッフには当初戸惑いがあったようだが、唯一できることだった地域の方々の話に耳を傾けることを愚直に行い、「そこで掘り起こされたニーズを後押しできればいいのでは」との気づきも得られたようだ。

やがて、地域住民が主体となって活動する「入りやすく抜けやすい」緩やかな場が生まれた。施設の有無ではなく、人の輪が自然と広がっていくこと。そういう公民館本来の役割に改めて気づかされた取り組みでもあった。

何事も一人でやりすぎないこと。人材育成と地域づくりの共通点

最後に人材育成の秘訣について伺うと、若狭公民館館長いわく「色々やりたいことがあるけど、一人で全部はできない。でも、手がまわらなくなると、見かねて誰かがやってくれる（笑）。館長の自分が全部はできないからこそ、皆が主体者となり手助けしてくれて、育っていくのでは。」地域づくりについても、「公民館が牽引するのではなく、あくまでも後押し。地域の方の自治を育むことが重要。」との考えをお持ちである。人も地域も、大きく育つために必要な条件は同じなのかもしれない。



特別賞

あまわり浪漫の会

県内外に根強いファンを持つ現代版組踊シリーズを支える



うるま市で活動する【あまわり浪漫の会】は、子ども達の居場所づくりと青少年健全育成、地域の歴史文化の継承等を目的とした父母の枠を超えた支援団体であり、学校以外の学びの場として日々の稽古や本公演ま

で様々なかたちで子ども達による現代版組踊「肝高の阿麻和利」の活動を支援している。

地域の子どもがスターになる瞬間

舞台に出演するのは、うるま市内の中学校・高校に通う子ども達。勝連城 最後の城主・阿麻和利を題材にした舞台に取り組むことで、子ども達が地域の歴史を知るきっかけとなっている。歴史を知ることによって郷土愛が生まれ、地元意識の向上が自己肯定にもつながり、子ども達の健全な成長をサポートしている。週に2～3回の稽古と、成果を披露する定期舞台公演(年12回程度)に加え、地域の行事や催事へも積極的に出演している。



舞台や稽古場を「究極の遊び場」として、主役である子ども達が楽しみながら学びつつ、周囲の大人はあくまでそのサポートに徹するという体制をとっている。日々の

カテゴリー	子どもの健全育成／地域の魅力発見／文化・伝統継承／人材育成		
住 所	うるま市勝連平安名1446-1		
電話番号	098-978-0608	設 立	2001年7月18日
人 数	あまわり浪漫の会106名／肝高の阿麻和利132名（肝高の阿麻和利の子ども達延べ約500名）		
主な活動	子ども達の居場所づくりと青少年健全育成		
利用施策	うるま市シティプロモーション事業		
受賞歴	日本ユネスコ協会連盟、第一回プロジェクト未来遺産登録、サントリー地域文化賞 ティファニー財団賞 伝統文化大賞、第41回琉球新報活動賞 他		

活動の中には「チームビルディング」という体験メニューがあり、参加者が各パートの演舞の指導を受け、最後にその成果を披露する。「全員で1つの事を成し遂げる」といった体験メニューは、企業における新人教育等でも活

用されており、「人材育成」という点も重視した取り組みとなっている。



多方面にわたる波及効果

現代版組踊「肝高の阿麻和利」は、2000年の初演以来、観客数延べ19万人を動員。劇中では、「平敷屋エイサー」や「平安名のテンテンブイブイ」、「浜の京太郎（ちよんだらー）」といった地域特有の民俗芸能も取り入れ、地域資源にも光をあてることで「地域おこし」につながっている。舞台活動で得た感動体験と、郷土の誇りを持った子ども達が、その感性を活かして「地域に根差して人に尽くす」シゴトを生み出すという、地域づく

りの新たなモデルケースを目指している。

また、活動拠点であるうるま市は、地域活性化の基軸としてこの取り組みを重視している。活動開始30周年にあたる2030年を目標に、全国でも貴重な成功事例を目指して最大限のバックアップを約束しており、官民協働のパートナーとして現代版組踊「肝高の阿麻和利」の活動がまちづくりへの参画を担っていくことを大いに期待している。

「地域に根差して人に尽くす」シゴトを生み出す

現代版組踊「肝高の阿麻和利」の子ども達は【あまわり浪漫の会】の支援を受けながら活動を続け、その取り組みを更に広げるべく「教育で地域を、文化で産業を興す」を理念に、2005年4月に一般社団法人TAOFactoryが設立される。現在では、卒業生が中心に運営をしており、TAO Factoryとして「肝高の阿麻和利」の運営に関わることで、次代を担う子ども達の後進育成や、新たな演劇や企画、感動体験メニューの創出等一過性ではない継続的な活動の組織化が図られている。

また、TAO Factory は2022年4月からあまわりパーク歴史文化施設の維持管理運営業務を受託する等、企業理念に合致した事業活動を展開しており、現代版組踊「肝高の阿麻和利」の活動を通じた雇用創出にも大きく寄与している。初演から20年以上が経過し、毎年増える卒業生のネクストステージ（起業や就労）づくりと共に、世代交代や時流に対応できる運営組織の基盤の強化が次なる大きな目標と皆が心している。

奨励賞

伊計自治会

住民による、住民のための自治運営！
独自の取り組みで、地域特性を活かしながら課題を解決。



車で行ける離島として、県民や観光客のドライブスポットとして有名な伊計島を活動拠点にしている【伊計自治会】。さとうきび畑が広がり、のどかな時間が流れる人口約250人ほどの区域になる。うるま市与那城伊計区の活性化と福祉の向上を図る目的で、アメリカ統治下時代に設立された。地区内には多くの人々が訪れる伊計ビーチをはじめ、リゾートホテルやインターネットを活用した通信制高校がある。ホテルや学校については地域や自治会、区民の意見を尊重し、理解を示すことを条件に受け入れており、良好な関係が保たれている。また、区報公民館だよりではほぼ毎月行われる自治会行事を紹介し、“風通しの良い”自治体制を構築している。

自治会の知名度向上につながった、「区民が主役の自治会」による活動

2022年には、島内の拝所荒らしやオーバーツーリズムに対処するため、4回のワークショップや住民アンケートを経て伊計島憲章を制定し、区民総会において承認された。

また、島の将来を見据えて先人がやってきたことを受け継ぐと、長らく休止していた区の観月会や区民運動会を約29年ぶりに復活させて、移住者と既存住民同士の交流促進を図るとともに、島から出て行った出身者にも関心を持たせることで、帰省やUターン等につながるよう活動をしている。

約5年前から小麦栽培を復活させて、春先の収穫時には、移住者と区民との交流を目的に大人から子どもまで、麦を刈り取る収穫体験を行っており、島の行事として定着している。

さらに、昨年、島の入り口から北側の海岸に立地するホテルまでの市道約1.5キロの道路沿いにヒマワリ約10万輪を植え、通称“フラワーロード”と呼ばれる取り組みをスタートさせるなど、様々な取組の継続による島の活性化を図っている。

カテゴリー 地域の魅力発見／文化・伝統継承／観光・地域交流

住 所 うるま市与那城伊計237番地

電話番号 098-977-7373

設 立 1966年4月

人 数 15名

主な活動 麦づくりや共同店の存続維持に向けた取組
島の環境・文化を守る「伊計島憲章」の制定と普及浸透

利用施策 ふるさとうるま自治会活動応援事業
令和3年度 地域活性化助成事業

受賞歴 平成21年度「沖縄、ふるさと百選」集落部門認定

これからの自治会モデルとしての発展性に期待

市や企業まかせではない、自分達で地域の活性化の方法を考える自治性を重んじ、移住者の受入等も市ではなく、自治会が主体的に考えていく方針を持っており、他の過疎地域の参考となる発想がある。その一例として、今年、「伊計島憲章策定」の取組を新聞報道で知った本部町瀬底自治会が、憲章づくりの経緯等について学びに来ている。瀬底島においては、大型リゾートの建設や一周道路の開通に伴い、様々な課題が出てきているとのことで、過去の当該地区の状況と類似する点も多いことから、他地域にとっての模範的な取り組み事例として期待される。



自然とともに生きる伊計島を後世に伝えるために



「引き継いでいくこと」の大切さと「変わっていくこと」の重要性を守りながら、うるま市与那城伊計区の住民、区民を増やすこと。そうすることで、地域は栄え、次の世代へとこの地が受け継がれていく。そのためには、誰から見ても魅力的で注目に値する活動を続けていくことが肝心となる。

今まで培ったノウハウは、必要とするところには提供したいとして、伊計地区の発展がうるま市の発展、強いては沖縄県、そして日本へと全国に波及していくことを目指す。

うちなー地域づくり大賞受賞団体

特定非営利活動法人

奨励賞

こども家庭リソースセンター沖縄

こどもと家族全体のウェルビーング(幸せ)が、
よりよい社会づくりへとつながる好循環を未来へつなげたい。

「愛されて育てば人を愛する大人になる。社会に愛されて育てば社会の大事な人財となる。」こどもと家族全体のウェルビーングを理念に、沖縄の家族福祉活動を実践している。

2000年にスタートした保育サービス「ていーだ」の自主活動が、沖縄県初の沖縄市ファミリーサポートセンターの誕生に寄与。また、さまざまな課題解決のために「ていーだ基金事業」や「ファミサポ相談室アンダンテ」等を実施。他にも、こども正月、子ども体験プロジェクト等の活動を幅広く展開することにより、沖縄市内はもとより、沖縄県の子育て家庭の支援に取り組んでいる。



ゆいまーる精神旺盛なマンパワーで沖縄の宝を守り育てる

保育サービス「ていーだ」の活動から早20年以上となり、利用している子どもや子育て家庭だけでなく、地域の居場所となる等まわりにも影響を与えている。将来を担う子どもや子育て家庭が幸せに暮らしていけるようサポートしており、現在のみならず将来にわたり沖縄らしい優しい社会形成に貢献。

ファミリーサポートセンターの事業継続のために、賛助会員などNPO活動への賛同者を増やすことにも積極的に取り組んでいる。

・「ていーだ基金」

子育て支援が必要な経済的困難家族が、ファミリーサポートセンター利用料を、独自発行したチケット(ていーだチケット)で支払う仕組み。会員からの支援金や寄付を資金としている。

・「こども体験プロジェクト」

水着でプールに入ることがない等、経済的理由によりさまざまな経験ができていないこどもたちに、水着の提供、プール、畑仕事、にわたりの世話、バーベキュー、自転車の練習等、幼少期に体験してほしいコンテンツを提供。

・「こども正月」

お年玉をもらうことができないこども達がいることを知ったことをきっかけに、お年玉やランドセル、入学用品を贈呈。ロック経験やエイサー・ダンス・三線の観賞等、地域の人や文化を受け入れながら活動している。

カテゴリー	子どもの健全育成／健康・福祉／地域の魅力発見／観光・地域交流		
住 所	沖縄市中央3丁目15番5号(1F)	電話番号	098-938-9244
設 立	活動開始: 2000年9月21日 法人設立日: 2007年3月30日	人 数	150名
主な活動	沖縄市内はもとより、沖縄県の子育て家庭への支援取り組み		
受賞歴	2012年 タイムス地域貢献賞 2019年 沖縄タイムス社会活動賞		

県内初のファミリーサポートセンター事業を設立

沖縄市は多様な文化の集合体であり、人を活かす素地が備わっていると捉え、他地域にはないこどもと家庭との関わり方を模索。エイサーのまちを謳う沖縄市で、子どもたちはエイサーの真似をし、楽しみながらセンターを利用している。

また、当該センターは親子の安全基地、垣根の低いみんなの居場所としての役割も果たしている。多くの親子が利用しやすい環境を提供することにより、子育て支援地域として地域の魅力創造の一翼を担い、所在地のパークアベニュー通りに人々が増加した経緯の一要因となった。当該センターの活動は、沖縄県全体の社会問題にもなっているこどもの貧困対策として力を入れている虐待の未然防止、保護者の就労・自立支援、こどもの体験学習支援等につながっている。



夢と希望と思いやりが好循環するやさしい社会を目指して

こどもたちが夢や希望をもって生きていける社会にするためにできること。それは、命の始まりを大切にすること。どんな環境下で生まれたこどもに対しても「愛ある家庭」を築き上げ、「社会全体で子育てする意識変革」を実行する。そのために子育て支援施策を作りたい。「子どもの貧困」は世代間連鎖が要因。自己肯

定感が低い子どもの多さ等の実態を知り、分析・研究し、次世代の健やかな育ちに役立てる仕組みの再構築につなげる。

また、外国籍の子どもも多いことから、多言語・多文化を理解し、こどもたちの遊びに活かすことができる国際的保育士養成を始めることも視野に入れている。

国頭村与那区

奨励賞

ユナムンダクマ協議会

地域を盛り上げるユニークなイベント盛り沢山！
若者が住みたくなる地域づくりへの取り組み



今から15年ほど前、「このままじゃ与那はなくなる。」という当時の区長の言葉を機に、何となく抱えていた未来への危機感が現実のものとなった。戦後復興期は林業で栄え、最盛期には3か所の製材所があった集落だが、雇用減少で人口流出・少子高齢化が進行し、地域活力が薄れてきていた。人口ピラミッドのバランスも崩れて、20～40代の子育て世代と10歳以下の子どもの数が極端に少なくなっていた。

先人たちが繋いできたものを、これからも

「20年後、集落から子どもがいなくなる。今動かないと、あとで後悔しても遅い…」と、集落運営の中心を担っていた世代が奮起し、翌年の2008年、【ユナムンダクマ

協議会】を立ち上げた。さらに、国交省の補助事業を活用し、集落散策ガイドマップの作成や、タカヒラ（宿道）の散策コース活用に向けた整備に着手した。（※宿道とは…琉球王朝時代に首里から地方への行き来のために作られた道路のことで、与那入り口のタカヒラは険しいことで有名で琉歌にも詠まれていた。）

オーバーのX's会に釣り大会！

その後、子育て世代の若者が住みたくなる地域づくりを目標に、協議会として活動の幅は広がり「地域を盛り上げる」そして「地域にお金を落とす」ためのイベントが続々と開催された。「集落に潤沢な資金はないが、それならば！」と住民が知恵を絞り、他にはないユニークなイベントを次々に生み出した。まさに、与那に人文あり！（＝ユナムンダクマの意）という語り草の通り、アイデアを形にして実行してきた。

イベント名だけ聞いても笑みがこぼれそうになる「オーバー達のX's会」は、以前から繋がりがあった沖縄大学の学生たちと連携した企画。サンタ帽をかぶったおばあ達によ

る何ともほっこりするクリスマスイベントで、学生からは歌のプレゼントがあり、サンタクロースも登場！集落を彩ったイルミネーションはTVでも取り上げられ、集落のPRにも繋がった。

「釣り大会」は集落の成人会が企画運営を担っている。協議会の年配者たちは下手に口出しすることなく全面的に任せているため、若者が主体性を発揮し、世代間交流の促進にもつながっている。

他の地区からも参加者があり、地域の枠を越えて楽しめるイベントとして秘かな人気で、釣り場所は特定せずそれぞれの穴場で行うため、開始と同時に散り散りになっていく。重量や数量など部門ごとの表彰（賞金もあり）もあるので皆真剣そのものだが、釣れるポイントを見つけるところから戦いは始まっているようだ。大会終了後には、釣った魚

カテゴリー	地域の魅力発見／文化・伝統継承／観光・地域交流		
住 所	沖縄県国頭村字与那68(よんな～館内)	電話番号	0980-50-1356
設 立	2008年	人 数	15名
主な活動	与那集落を活性化し、若者が住みたくなる明るい集落作り		
利用施策	地域を担う人材づくり調査事業(H20年度)、NPO等支援事業(R1年度)、地域づくりイノベーション事業(R1～2年度)		

が激安で放出されるため、地元のおばあたちは大喜びでセリに集う。(写真のひと山でなんと500円！)

地域の宝である子どもたちのためにと、英語教室や屋号版作りも行った。屋号には住民同士の繋がりとともに過去の地形などが反映され、ここには川が流れていた、蔵が建っていたということなどを知ることのできるため、いい学びの場になった。子供たちが屋号を調べ、木版に書いて色を付け、大人が各家に取り付けた。集落散策のツアーで訪れる方々からの評判も良い。



よんな～館でお待ちしております

楽しいイベントの他にも、タカヒラ登り体験ツアーや集落散策ツアーなどを受け入れている。

また、宿泊施設「よんな～館」稼働率UPのため、WEB上での予約システムやWi-Fiの整備も行った。結果、宿泊予

約の3割程度はWEBからとなり、システム整備の効果が徐々に表れている。但し、よんな～館には3部屋しかないので、やみくもに告知はできない。「自由気ままに、自分の時間がたっぷり過ごせる施設」としてターゲットを精査しながら、年間300人泊ほどの宿泊を目指している。



第二の故郷を目指して…



今後を見据え、住民だけでは難しい問題を解決するために、関係人口作りについても思案中。集落に人を増やしたいが、移住は人生の転機となる大きな決断であり、そう簡単なことではない。まずは、集落のファンを増やすこと、そして何らかの形で関わってくれる方を少しずつ増やしていきたいと考えている。「例えば、月500円程度の字費を負担してもらうことで、地域の行事に参加できたり、地元の青年と酒を酌み交わしたり。よんな～館の宿泊費も割引価格で提供して、気軽に遊びに来られるようにしたい。みかん狩りやホテル・星空観賞等、地域の魅力を活かしたプログラムの準備も進め、第二の故郷と思えるような仕組みが作れたら。」会長の大城さんは展望を語ってくれた。

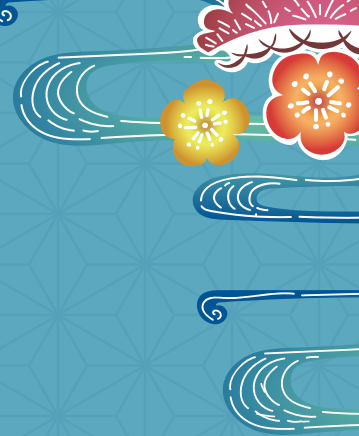
そして、次の世代へ

与那集落からは、先人たちが繋いできたものを途切れさせまいと奮闘する様子が伝わってくる。しかし、住民1人1人が持つ危機感にはまだ温度差があり、雇用の創出とい

う課題も残されている。先述のイベントに加え、共同売店での1,000円飲み会や、子どもたちとの朝のラジオ体操など、住民1人1人と積極的に関わる機会を作り、近い将来、次の世代にパトナリシップできる体制の構築を進めていく中で、持続可能な取り組みを目指している。

Contents

地域づくりの事例



- 20 久高島 結回の会
- 22 石垣市北部農村集落活性化協議会(ゆんたみ)
- 24 南風原平和ガイドの会
- 26 VONS(学生団体)
- 28 一般社団法人 りっか浦添
- 30 恩納村農山漁村生活研究会
- 32 特定非営利活動法人 バリアフリーネットワーク会議
- 34 松田区鍾乳洞観光協会
- 36 特定非営利活動法人 おきなわグリーンネットワーク
- 38 一般社団法人 まちづくりうらそえ
- 40 真地団地自治会
- 42 特定非営利活動法人 1万人井戸端会議
- 44 狩俣自治会
- 46 本部町各字老人会(並里、野原、谷茶)／にぬふぁぶし
広報人材育成プロジェクト実行委員会／うるま市比嘉区自治会
- 48 特定非営利活動法人 首里まちづくり研究会／一般社団法人 渡名喜村観光協会
久米島ホテルの会／宜野湾市女性団体連絡協議会
- 50 たんぽぽ会(南城市つきしろ自治会)／名護市大浦区
白保魚湧く海保全協議会／特定非営利活動法人 Okinawa Hands-On NPO
- 52 Ryu愛スポーツ／島尻パーントゥ購買店





久高島 結回の会

神の島より祈りを込めて…おばあが紡ぐ平和の輪

きっかけは、市が管理する案内所での観光ガイド募集。久高島では70歳まで現役という考えがあるが、その年まで続けられる仕事がないという状況でもあったため、「これは、いい機会だ!」とひらめく。島のことに詳しいおじい・おばあをガイドとして雇用できないだろうか。そして、古くから島に伝わる民具作りを習い、次の世代に受け継ぐ場としても活用できたら。観光のネタにもなるし、どうだろう…。アイデアが形になり、企画書に

まとめあげて申請したところ、晴れて採用となった。こうして事業がスタートしたが、やがて市の事業の期限が切れ、活動が継続できなくなることに。せっかく見つけたおじい・おばあの生きがいであり、島の伝統を次世代へ繋ぐ大切な取り組みである。このままなくしてしまうのは惜しいし、もっとやりたい。それならば自分たちで動いてみよう!と奮起し、「結回の会」が結成された。

生活に根差した大切なお守り「ガンシナ注連縄(しめなわ)」

おじいさんが縄を編みながら「これは久高島のお守りなんだよ。」と観光客に声をかけると、しばし立ち止まり、お守りの由来についての説明に熱心に耳を傾ける。

島の植物(カヤ、レモングラス、月桃)で編まれたまあいガンシナは、その昔、水の乏しかった久高島で女性たちが毎日の水汲みをし、頭に掛けて運ぶ際に身体を守り安定させていたもの。それは道具であると同時に、天の恵み“水”を通じて神様と自分たちとを結んでくれる大

切な存在であり、日々の生活の営みを守る大切な「お守り」でもあった。

また、ガンシナを注連縄(しめなわ)に仕立てるには、島の麦とクバを使う。麦は、大きな実りをもたらしてくれるもの、クバは神の木にも例えられるものであり、その1つ1つに由来やストーリーがある。それらを、健康と平和の祈りを何十年も繋いできたおじい・おばあが丁寧に作りこんでいるのだ。



ガンシナ注連縄作りの作業場もある、会の拠点

見守りにも繋がる毎週水曜日の集い

ガンシナ注連縄はオンラインでの購入も可能となっており、新聞やTVの取材が入ったのを機に問い合わせは驚くほど増え、去年は200個を用意したが、希望する全ての人には届けられなかった。日々、島を守ってくれている植物を使うため素材にも限度があるし、全て手作業で作られているので、無理もできない。それでも、「購入はできなかったけど、ガンバってね。」と応援してくれる方もいて、とてもありがたい。

カテゴリー 文化・伝統継承／観光・地域交流

住 所 南城市知念字久高231-4

設 立 2019年

人 数 6名

主な活動 ガンシナ注連縄(しめなわ)作りを通した高齢者の生きがい・居場所作り

利用施策 地域づくりイノベーション事業(R2～3年度)

毎週水曜日に作業場で行っている活動に皆で集まること自体、おじい・おばあの見守りに一役買っているが、丹

精込めて作り上げたものを心待ちにしてくれる方がいることは、大きなやりがいや生きがいにも繋がっている。

命の恵みにみんなで感謝!「ハタスの学校」

島の中央付近にあり、かつて島に流れ着いた麦が播かれたと伝えられている「ハタス」。島にあるものから学んでいくという思いを込めて「ハタスの学校」と命名し、ここでは麦の生産を行っている。

種おろしから麦踏み、収穫、そして麦をいただくまで、島の子どもたちに学校の先生、診療所の方や、おじい・おばあ、ていーがしー(=手を貸す)隊と呼ばれる島外ボランティアの方も混ざって、共に汗をかいている。

収穫した麦を使って、健康の源である神酒やパン・クッキーなど、まずは島で消費されるものを作り、ゆくゆくは、島の学校給食でも食べてもらえるオリジナルレシピの準備も進めていきたいのだそう。



汗をかきながら皆で取り組んだハタスの種まき

おじい・おばあが健康で輝いていること、それが島の幸せ

島を訪れる観光客は年々増えているが、観光に向けた積極的なPRは今後も予定しておらず、「おじい・おばあ健康=島の幸せ」という考え方に変わりはない。健康で長生きできる幸せを分けてあげたいと思っているし、そういった魅力的な精神文化に、多くの人が惹きつけられているのだろう。

また、おじい・おばあとの会話を楽しんでもくれる方達も多くいるため、縁側にやかんとお茶碗を置いて、「少し休んでいきなさい～」といった昔ながらの「ゆくいどころ

(=休憩所)」を設置して迎えることができれば、とも考えている。

会の中心メンバーである副会長の古堅苗さんは、島の伝統継承のため、日々の活動を振り返って最後にこう語ってくれた。「島を守ってくれた、おじい・おばあの言葉を大切に。そして、いちゃりばちょーでー(=一度会ったら皆兄弟)、ゆいまーる(=助け合う)、命どう宝(=命こそ宝)を胸に、これからも皆で一緒に輝いていきたいですね。」



石垣市北部農村集落 活性化協議会(ゆんたみ)

幅広い世代が集う。皆で考え取り組む農業で地域を盛り上げたい！

石垣市北部にある13の公民館で「石垣市北部農村集落活性化協議会」なる組織を立ち上げるにあたり、それぞれの地域で代表メンバーを募集した。多くは公民館長が選出されていたが、ここ伊野田では、移住してきたばかりの宮城奈美子さん(当時30代)が「是非、仲間に入れて下さい。」と手を挙げた。

元は石垣市街地で暮らしていたが、農業に関心があっ

たこともあり、出産を機に義理の祖父母が畑を持つ伊野田への移住を決めたのだった。しかし早々に、保育園の休園問題へ直面する。「このまま何もしなければ、地域の教育にお金が使われなくなり、皆の暮らしに影響が出てくるのでは…」強い危機感を持ち、自分にできることをやりたいと思ったそう。この限界集落の自然の中で、まずは「当たって砕ける!」の気持ちもあったという。

もう一度、農業を!

取組みが始まった1年目はビジョン作りを行った。活用できる助成金もあったため、地域のおばあちを集めて「何かやってみたくない?」と話し合いの場を持った。色々な案が出たが、最終的には「農業をやりたい。もう一度、畑を学んでみたい。」という意見で一致。畑の開墾に散々苦労した開拓世代であるのに、その前向きな発想には正直驚いたという。

また、畑とは不思議なもので、その中では大人も子供も関係なく皆同じ目線で学ぶことができる。若い人も巻き込むことができれば、地域活性化の要になりうるのではないか。そんな確信が芽生えたのだそう。

しかし、活動が軌道に乗るまでは大変なことも多かった。助成金の申請等にかかる書類作成では、慣れない事務作業に悩まされ、畑で獲れた野菜を直売する際は、素人が作った野菜を買う人がいるの?と心配する声もあった。今となっては笑い話だが、そうやって様々な困難を乗り越えてきた。



イベント時の様子。マーニの葉を組み立て秘密基地に(左)
月桃の葉を使ったおむすびづくり(右)

市街地の親子に向け、食育イベントを開催

ゆんたみの現在の活動は、①無農薬の野菜作り、②学校給食への野菜納品、③葉っぱ包装や真空パックでの商品ブランド化、の三本立て。給食については、地産地消を推進する意味でも、自分たちの手で作った安心安全な野菜を食べて欲しいとの思いを込めている。

これに併せて、市街地在住の親子へのアプローチとして食育活動も実施中。写真で紹介しているのは「親子でトマト植苗会さばいばる講座」というイベント。3組の親子の参加があり、トマト植苗や秘密基地づくりの他にも、薪

カテゴリー 環境保全／地産地消・食育

住 所 石垣市字真栄里672(石垣市役所 農政経済課内)

電話番号 0980-82-1307

設 立 2015年

人 数 10名

主な活動 農業を通じた地産地消と食育の取り組み

利用施策 地域づくりイノベーション事業(R2～3年度)

割りや火起こし、月桃の葉を使ったおむすび作りなど、自然での体験を楽しんでもらった。北部地域での循環型の暮らしを発信して興味を持ってもらうことで、ゆくゆ

くは移住に繋げることができればと思っている。

それぞれの役割で活動を支える、個性豊かなメンバーたち



活動の中心メンバーである
宮城奈美子さん

子供と女性が輝く地域に！という考えのもと、ゆんたみでは、30代～80代までのパワフルな女性が中心となって活動しているが、男性陣からの心強いサポートもある。「伊野田の太陽」と呼ばれる清正さんは「自由に使い〜」と所有している畑の一部を提供してくれた。チャレンジ農園と名付けられ、前述のイベントもこの畑で開催された。

メンバー最年少のゆいちゃんは、真面目で頑張り屋。1年前から養鶏に取り組み始め、今では170羽を飼育している。そして、熟女三姉妹(通称)といわれる経験豊富なメンバーの存在も大きい。精神的な支柱として、ゆんたみの活動に積極的に参加しながら、温かく見守ってくれているのだ。

主役は、地域を支えてきた方たち

「今後は、学校給食へのより安定的な供給を目指し、野菜のバリエーションももっと増やしたい。熟女三姉妹のけいこさん(次女)が手作りする味噌と旬の野菜をコラボさせた野菜バスケットも考案中で、ネット販売にも着手するつもり。」と、中心メンバーである宮城さんは笑顔で語る。「でも、あくまでも私は縁の下の方。ずっとここに住んできて、歴史を沢山持っている方たちを幸せにしたいから。」お互いが尊敬し合い、歩み寄る姿が地域の原動力になっているようだった。



毎週日曜日、自分たちで作った野菜等を直接販売している。
当所は「ナナンガーラ」の愛称で憩いの場にも



南風原平和ガイドの会

子どもたちに伝えたい…
未来へ続く平和のために私たちができること

2007年、沖縄陸軍病院南風原壕群20号が一般公開されるのを前に、南風原町が第1回「南風原平和ガイド講座」を立ち上げると県内各地から59名の参加があった。その後、講座修了生のうち43名で「南風原平和ガイドの会」が発足された。会は、病院壕の説明を行うことを中心に活動を始め、戦争遺跡と見学者をつなぐ活動をしてきた。2009～2013年の期間中はNPO法人として活動

し、補助金を活用して陸軍病院が所在する黄金森や町内12字のガイドマップ作製などを行った。NPOを解散した現在では、再び病院壕の説明を活動の中心とし、要望があれば町内の小中学校に赴き平和学習を行っている。戦争と平和をテーマに自主的な学習会なども行い、ガイド技術を高めることにも余念がない。

壕を体験することで感じる、戦争の悲惨さ



ガイドの様子。地中に隠すように埋められていた医薬品類の数々。(写真提供：南風原文化センター)

緊急事態宣言が明けた後、屋外で見学できる戦争遺跡のガイド案内は再開しているが、これまでに行ってきた壕内を通過しての見学はまだ再開の見通しが立っていない(2021年10月時点)。感染症対策で換気を行った場合、風の通過や

湿度変化が起こり、壕内の地質が痛んでしまうためである。未来へ戦争遺跡を継承することを考えると、容易に見学を再開できない状況だ。

コロナ禍以前は、修学旅行等も含め年間1万人ほどが訪れており、会のメンバーである約50名のガイドがフル稼働で案内していた。実際に壕内を見学すると、「こんな所が病院だったの?」と驚きの声上がる。壕内部のわずか1.8mの幅にベッドが置かれ、その脇を看護婦などが行き来し治療していた。壕内にトイレもなく、現代の明るく清潔な病院と比較すると、あまりの違いにショックを受ける人も少なくない。足を踏み入れると、肌で感じるものが必ずあるし、ガイドの説明でより伝わるものがある。ガイドをする際には、戦争は二度と繰り返してはいけない、と命の尊さを強調し、参加者1人1人に関心や問題意識を持って欲しいと願っている。

全国で初めて文化財に指定

戦争の悲惨さを伝える場として、南風原町が黄金森の第一外科壕群・第二外科壕群を町の文化財に指定したの

は1990年。第二次世界大戦の戦争遺跡が文化財となったのは全国で初めてのことであり、町独自の文化財指定基準をつくり指定された。その後、調査と検討を重ね20

カテゴリー	観光・地域交流／人材育成				
住 所	島尻郡南風原町字喜屋武257				
電話番号	098-889-7399	設 立	2007年	人 数	50名
主な活動	壕のガイド、町内学校での紙芝居読み聞かせ（平和学習）				
利用施策	沖縄県雇用再生特別基金事業				
受賞歴	第36回琉球新報活動賞（2014年）、第14回タイムス地域貢献賞（2021年）				

号壕の公開に至るも、人が入るとその分壕は傷んでしまう。1度に壕に入る人数は10名までと制限を設けて案内してきたが、年月の経過による亀裂などもあり、保存と公開のバランスは検討し続けなければならない問題で

ある。

戦争を自身の体験として語れる方が減少する中、当時を伝える貴重な場所をどうにかして守り続けたい。そのために何ができるのか、思索の日々が続いている。

平和の尊さを次世代へ継承



毎年続けている、町内小学校での読み聞かせ
（写真提供：南風原文化センター）

平和ガイド養成講座は、南風原文化センター主導で定期的に実施されており、これまでに延べ137名が修了し

た。受講生の年齢層も様々である。仕事をリタイアした世代も多いが、以前に受けた平和学習がきっかけで講座に参加した高校生もいた。また、同会オリジナルの紙芝居を活用し、会のメンバーが手分けして町内小学校での読み聞かせにも出向いている。そのため、地域に平和の尊さは浸透していると思うが、今の子どもたちにとって、戦争はどこか遠くの昔話になっているように感じるという。平和のバトンを次の世代に繋いでいくためにも、学校や地域との連携を深め、活動を続けていきたいとの方針だ。

身近な場所から戦争を学び、平和を創造する

最後に、今後の取組みについても語っていただいた。

一沖縄陸軍病院に「ひめゆり学徒」らが看護補助要員として動員された経緯もあり、ひめゆり平和祈念資料館などとなつながりがあるが、各資料館や戦跡、平和ガイド団体などと連携を強めて平和学習を発展させていきたい。戦争を知らない世代には、これまでと同じ伝え方は伝わりにくくなっていると感じるので、工夫し、事実を

きちんと伝えたいと、自分に引き寄せて考えてもらえたら。実際に現場を体感して欲しいというのが大前提ではあるが、壕の状態を考えると、オンラインの活用も検討するべきだと思う。ここに来るきっかけ作りや事前学習にも展開できるのではないかな。これから先も、戦争遺跡を守り伝える一員として私たちができる活動が続け、地域から平和の心を育て発信していきたい。



VONS (学生団体)

沖縄のために私たちができること
踏み出した小さな一歩が、大きなうねりになっていく



今回のフードプロジェクトも沢山の寄付が集まった。
ボランティアも全員揃っての1枚

2020年、当時高校生だった2人で団体を立ち上げた。2人ともアメリカ留学を経験し、現地の高校生の郷土愛やボランティア精神に触れ、刺激を受けていた。「困っている人がいるから。」と、段ボール片手に食料を集めに行くようなことを、ごく自然にできる同世代の子が沢山いたという。

コロナの影響で、留学を3カ月前倒して日本に戻ることにしたが、帰ってみると状況は一変していた。休校で給食が食べられない、子ども食堂にも材料がない…とにかく食料が足りないという話を至る所で耳にした。それならば…と、アメリカで目の当たりにしたフードドライブ(家庭で余っている食料等を持ち寄り、地域の福祉団体や施設等へ寄付する活動)を自分たちもやってみよう!と。

沢山の支えや協力の下、実現できたフードドライブ

近隣の小禄自治会が同じような活動に取り組んでいたため、まずは話を聞きに行くことに。学生主体で自分たちもやってみたい旨を伝え、丁寧にアドバイスしてくれたのだそう。大人サポーターのバックアップもあり、準備は着々と進んでいったが、いざフードドライブを実施しようとなると、その場所探しに苦戦した。ネームバリューや実績も何もない学生団体であるため、なかなか話が進まず、場所を提供してくれるところは見つからなかった。

そこで、各市町村の社会福祉協議会へ相談してみることに。募金活動等で繋がりのある企業や店舗を紹介してもらうことができ、困っている方が今必要とするものをヒアリングすることもできた。例えば、シングルマザーが多いエリアでは、粉ミルクや紙おむつのニーズが高かったため、そのような実状に合わせた支援ができるよう告



食料の寄付を呼び掛ける学生の様子

知の内容等を工夫した。

この他、食料を仕分けするためのダンボールを提供してくれる企業もあり、色んな方面から支えてもらって自分たちの活動ができていると実感している。

カテゴリー 子どもの健全育成／健康・福祉

住 所 — 連絡先 vons.mug20@gmail.com (公式メールアドレス)

設 立 2020年 人 数 14名

主な活動 食料品等を集め、団体へ寄贈し、必要とする人の元へ届けるフードプロジェクト

利用施策 市民活動チャレンジ助成事業(2020年度)

受賞歴 未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー内閣総理大臣表彰(2021年度)

ボランティア活動を通して、1人1人感じてくれるものがあればいい

取材当日は、小学生から大学生まで多くのボランティアが食料の寄付を呼びかけ、丁寧に消毒をした上で受け取った食料の仕分けを行っていた。1回あたり平均1,000食ほどの寄付が集まるため、和気藹々とした中でも手際よく作業が行われていく。ボランティアの面々は、大人サポーターやVONSメンバーからの声掛けを機に参加し、その後も複数回手伝ってくれることが多いという。初めは、内申点や推薦に有利になるからという理由

だったのも、「人のために動くのっていいな。」と、また手伝いにきてくれる。「きっかけは何でもいいので、ここに来ることで自分なりに感じてくれるものがあれば嬉しい。」と代表の島袋さん(琉球大学)は言う。「行動したいと思った時、VONSのことを思い出してくれたら。あの人たちがやっていたから、自分もできるかも。そう思う気持ちが育まれていく団体になればいいな。」とも。

受け継がれるVONSのチャレンジ精神

VONSとしての活動の幅は、今後益々広がりを見せそうだ。来年度は、高校生に自分たちの活動を伝え、沖縄にある課題を共に考える勉強会も開催予定。各地域の社協とも話をし、学生が地域のために活動できるような仕組み作りを進めているという。この他、フードドライブの規模も拡大していきたいし、SDGsに賛同する企業とのコラボ企画も考えているそうだ。

学生団体のため、進学等でやむなく卒業していくメンバーもいるが、帰省のタイミングで活動に参加したいと、名簿に名前を残している人もいう。また、VONSの仲間に入りたい、ここで新しいことをやってみたい。そんな後輩の声に応えるため、これからもずっと続いていけるような団体にしたいのだそう。「代表を早めに引き継いで、後輩をどんどん育てていきたい。」と島袋さん。

まーさん、うちなー、ごはん、それぞれの頭文字をとり「MUGムグフードプロジェクト」と名付けたフードドラ



VONSの中心メンバー。
写真左上の表彰状を持っているのが、代表の島袋さん

イブの活動。学生達の主体的な行動で始まったこの活動を通して広がりつつあるチャレンジ精神は、今後大きな進化を遂げ、沖縄の未来を担う若き世代に受け継がれていくことだろう。



一般社団法人 りっか浦添

浦添への愛・想いがぎゅっと詰まった30日間。
りっか(行こうよ)! 浦添!!

浦添は琉球王都発祥の地であるにも関わらず、その歴史に誇りを持っている市民が少なく、そもそも知らないという人が多い。観光客が素通りしている現実と、大型商業施設や交通インフラの開発が計画されながら効果を最大化する具体策が不在という状況に浦添商工会議所は危機感を抱いていた。

そんな折、全国で地域振興の手伝いをしていた、現・代表理事である前田さんとの出会いがあり、補助事業へエントリーする機会を得た。この時点では課題解決につながる具体策はまだ見出せていなかったが、仮説として

琉球王都発祥の歴史を何らかの形で活かせるのではないかと考えていた。

その後、浦添市内の50近い事業者が集まって、まずは目線合わせのワークショップを開催。浦添の良さって何だと思う?ということ突き詰めるうち、ここにいる人そのものが資源だと気づく。浦添市内の全域を舞台として捉え、期間限定とすることで特別感を設えるなどの工夫を凝らしながら、歴史×事業者=りっか! 浦添という独自の事業モデルが形づくられていった。

事業者と共に作り上げた体験イベント



こうして出来上がった、浦添を楽しむ地域体験イベント「りっか! 浦添」は、第1回目から820名を集客するなど大成功を収めた。何より37もの事業者が参加してくれたことが嬉しかった。

また運営サイドは当初より、「補助金が無くなった後も継続しなければならない。たとえ自己負担が発生することになっても、自分たちの地域を何とかしたいと思う方だけ残って下さい」と伝え続けており、2回目のイベント

を迎えるタイミングで、商工会議所事業からスピンアウトし、志を共有するメンバーとともに法人を立ち上げ。(補助金は最大3年間申請ができたが、2年間で卒業。) 補助金から離れることによって、参加事業者に利益を還元できるというメリットもあった。イベントパンフレットに広告を入れ、協賛金を募ることで収支を確保し、赤字を出さずにイベントを成り立たせることができた。

イベントの反響続々…! 地域経済にも貢献

イベントに参加する事業者は、商工会議所のネットワークを通じて声掛けしているが、第2回のイベントからは口コミでも拡散されていった。代表の前田さんが中心

となって1件1件細かく事業者を訪問し、趣旨や目的、将来に向けた展望などを丁寧に説明した。小手先のトークややり方ではなく、真摯に寄り添う姿勢が相手の心に響い

カテゴリー	地域の魅力発見／文化・伝統継承／観光・地域交流／人材育成		
住 所	浦添市伊祖3-4-12 伊々寿スポット302号		
電話番号	098-975-5390	設 立	2019年
		人 数	9名
主な活動	地域体験型イベント「りっか！浦添」を通じた地域づくり		
利用施策	日本商工会議所 地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト(2017、2018年) 浦添市まちづくりプラン助成金(2020年)		

たのではないだろうか。

歴史をテーマとしたイベントで何ができるか分からない…という事業者も多いが、法人メンバーは、「一緒に考えましょう！」と背中を押す。

ジェラート店では、浦添の特産品としてシルバー人材センターでも栽培している桑の葉を使った商品を開発してもらった。イベントでの販売が始まると、店の看板メニューであった抹茶ジェラートよりも人気となり、今では定番商品となっている。

お酒の飲み歩きツアーも評判の高いプログラムの1つ。初めてのお店にはなかなか入りづらいが、そのきっかけ作りにと地元のビール会社とタイアップで企画した。加盟した30店舗それぞれで配られているコースターを合わせると、1枚の絵が完成するという仕掛けがあり、2名の強者がコンプリートした。絵が完成せずとも複数のお店を訪れた人が多く、地域経済にも大きく貢献できた。



開発商品は店の定番メニューに

一番大切なことは、地元の人・事業者が町を愛していること

イベント後のアンケートからは、「浦添の魅力に気付くきっかけをつくってくれてありがとう！」「浦添に生まれてよかった！」という嬉しい反応をもらえた。この気持ちが郷土愛に繋がり、地域が持続するための担い手が育ってくれるのではないだろうか、と法人メンバーは期待を寄せる。

今後「りっか！〇〇」といった形で、県内の他市町村への横展開を目指している。毎月どこかの市町村でイベントが行われている状態が作れば、県全体の観光としても更なる底上げとなるだろう。そのためにも、イベントと一緒にサポートしてくれる法人の仲間も増やしていきたいところ。

第3回のイベントにお客さんとしてやってきた浦添出身の又吉さんは、イベントの趣旨や内容に感銘を受け、自分も何か手伝いたいと、法人のメンバー入りをした。今では、なくてはならない心強いメンバーだ。



りっか浦添メンバー。浦添の事業者を全力サポート

彼のようなハートを持った方に、もっと仲間に加わってもらえるよう、法人としても積極的にアプローチしていくつもりだという。合言葉は「地元を盛り上げたい人と事業者のために」。気になる方、まずはイベントに足を運んでみて欲しい。(毎年11月頃に開催)



恩納村農山漁村 生活研究会

元気の源は食にあり！沖縄を支えてきた美味しい調理法を未来へ

恩納村には15字あり、戦後は「生活改善グループ」という婦人を中心とした公衆衛生を学ぶ活動が各字に存在していた。食糧難時代には保存食の作り方や、地域の生活水準の向上へ向けて普及所からの指導も行われていたとい

う。その後、1974年に沖縄県の補助金にて活動拠点「恩納村婦人の家」が設置され、伝統的な味を継承していくことを目的に恩納村農山漁村生活研究会が発足。40代から90代の有志婦人会員による意欲的な活動が始まった。

ずっと語り継がれてきた、村独自の調理法



現在37名いる会員の中で最高齢者は90歳を超える。各々の身体状態や体力に合わせ、声かけしながらできる作業を分担し、活動参加している。行事での販売商品はモズクやアーサ天ぷらやひじき佃煮、田芋パイ、村内で栽培される安富祖米使用の無添加味噌等、25種類程のラインナップがあり、おんなの駅なかゆくい市場に納品するとリピーターが殺到するほどの人気ぶりだ。

恩納村や沖縄県の特産品コンテストで受賞歴のある商品も多数ある。農海産物の特徴を活かし、研究開発後に手作りで愛情込めて楽しみながら製造しており、万能たれやパッションフルードレッシング、オリジナル珈琲、惣菜や漬物、菓子等、恩納村の家庭の味を彷彿させるものばかりだ。

今や料理のレシピはアプリでいくらでも調べることができるが、長年世代間を受け継がれてきた調理法は村独自のものがあ

る。モズク天の衣には牛乳を入れるとか、相性の良い野菜の組み合わせ。カラリと揚げるための練り方は実際現場で習わないと素人では難しい。そして、7月に開催されるうんなまつりの目玉である“1000人牛汁鍋”。独自に冬瓜を加え、丹念込めて作った熟成味噌で味を調えたもので、購入者からも笑みがこぼれる。調理前からの下処理の大切さが沖縄料理には不可欠で、その奥深さを学ぶ場にもなっているという。



ボランティア活動を通して、1人1人感じてくれるものがあればいい



出店先では多くの人々が足を止めた

うんなまつりや産業まつり、ムーンビーチホテルでのやちむん市等に出店し、会員自ら来店者に商品の特徴を説明しながら直接販売を行っている。

やちむん市では、単価数百円の商品が3日間で50万円ほどの売り上げになる。ただの売り買いではなく、会のメンバーが素材や調理法についても丁寧に説明するため、イベント後に問合せの電話が鳴りやまないことも多い。

カテゴリー 子どもの健全育成／地産地消・食育

住 所 国頭郡恩納村字恩納419-3 恩納村婦人の家

電話番号 098-966-1202

設 立 1995年

人 数 37名

主な活動 地元特産物を活用した加工品開発や無添加味噌づくり、郷土料理研究。道の駅や地域イベントでの販売。村内学校の家庭科実習サポート。

受賞歴 沖縄、ふるさと百選（生産部門、平成30年度）

その他にも、村内小中学生の家庭科実習で沖縄そばの調理を手ほどきしたり、地域の加工場でのパート手伝い、また、東京のサンシャイン池袋で開催される物産展で天ぷらや沖縄そばの実演販売を行ったりと精力的に活動を行っている。



作り手の顔が見えることがおいしさの理由のひとつ

次の担い手に届くよう、自分たちができることは発信し続けること

40代～90代の会員が意気投合し、支え合って活動している有志団体ではあるが、今後の課題として「担い手不足」が浮き上がってくる。10年前は、会員の子ども達も惣菜作りを手伝い、イベントの際には「いらっしやいませ、美味しいですよ」と声をあげ一緒に販売する姿もあったが、成長と共に村を離れて、そういった風景は見られなくなってしまった。多世代が時間に追われ、手軽なファーストフードやインスタント食品で食事を済ませるようになった現代。食に手間をかける人は減少しているかもしれな

いが、イベント会場で製造者が元気にPRし、無添加・手作りのものに触れてもらう機会を持ち続けることで「食の大切さを次の担い手となる子育て世代に気づいてもらえるのではないか」と期待を込めている。

また、役員は「イベントに限らず、住み慣れた地域で自分たちの活動を発信できる場をもっと作っていかねければ」との使命感も燃やしている。

沖縄の食文化を残し、地域を盛り上げていきたい

会員の中には、村内にある様々な団体（婦人団体協議会、更生保護女性会、商工会女性部等）を兼務し、役員レベルでその活動を牽引する方もいる。会長の大黒さんは、行政で地域づくりの生活支援コーディネーターをしており、前述した発信できる場作りの一環として、村内の名嘉真区と宇加地区での事例を紹介してくれた。

会員が農産物をおんなの駅なかゆくい市場に出荷している名嘉真区については、事業所や地域住民、特に農業を営む高齢者が中心となってここで獲れる野菜のブランド化を検討している。会員が率先して、オリジナルシールを貼った野菜販売など既に実験的にスタートしているが、うまく実現できれば1つの地場産業が興り、若い人が活躍できる場を作れると期待されている。

宇加地区に関しては、人権擁護委員として会員と共に地域貢

献を惜しまない区長が中心となり、平日8:30～17:00まで公民館を喫茶サロンや憩いの場として開放している。美味しいコーヒーと利用者がこぞって持ち寄った島バナナで情報交換にも花が咲き、マスターの区長と共に時には猫も出迎えてくれる。気軽に集える場があることで、相互の介護予防にも繋がっている。

「こうしたモデル的な地域を作っていくことで、村全体でも自分の地域をもっとよくしたい！何かできることはないか？という気づきになっていけばいい。」と大黒さんは語る。

沖縄が長寿の県として全国1位を誇っていたのは、もう10年以上も前のこと。現代社会の中で失われつつある食の大切さを次の世代へ残していきながら、地域を盛り上げていけるよう根気よく活動を続ける会の姿がそこにはあった。



特定非営利活動法人 バリアフリーネットワーク会議

福祉のノウハウを観光に活かし、誰もが平等に楽しめる沖縄へ

「観光地における危機管理事業に取り組み始めたきっかけは偶然であった。」と代表の親川さんは話す。元々は障がい児施設を運営する団体であったが、ある時ふと、人工透析の患者に向けたサービスができないか、と思い立ったという。透析患者は2日に1回通院しないといけないため、2泊以上の出張や旅行は難しかった。観光地である沖縄で受け入れることはできないかと、県内の透析病

院を片っ端から調べ、受け入れ可能であるかのアンケートを実施。当時は透析用のベット数等に制限もあったが、今ではどこでも自由に透析の治療を受けることができるようになった。

その後、観光というキーワードが引っ掛かり、何か手伝いできることはないかと考えている頃に、ちょうど行政側からもアプローチがあって、現在の活動に至ったそうだ。

観光案内所の開設に、冊子の発行。バリアフリー観光のサポート体制を整える

2007年、県の支援を受けて、那覇空港内にしょうがい者・こうれい者観光案内所をOPEN。ここは、障がい者・高齢者等の沖縄旅行をサポートするワンストップ相談窓口であり、バリアフリーに対応する観光地等の情報提供や、車いす・ベビーカー等の貸し出しを行っている。当初、問合せ件数は年間1,600件ほどだったが、コロナ禍前の2018年は過去最高の20,000件を超えていた。

また、バリアフリー観光ガイドとなる「そらくる沖縄」という冊子も発行し、全国の福祉機器展等へ出向き、配布を行っている。フリー冊子のため、スポンサーに広告料をいただいているが、38ページで始まったものが、今や160ページものボリュームになった。広告を出すということは、



企業にとってもメリットがあるからで、それだけ観光地としてのバリアフリーに力を入れている証なのだろう。

観光施設やホテルの従業員に向けた講座を開催

障がい者や高齢者に楽しんでもらうには、ストレスをいかになくすかが大切だという。そのため、車いす利用や高齢者の身体の具合についての疑似体験をし、必要な

サービスを模索する講座も開催している。

いざ災害が起これば、観光客は逃げ場所が分からないため情報弱者となり、さらに、障がい者や高齢者が高層



カテゴリー	健康・福祉／観光・地域交流	住 所	沖縄市松本2-30-1		
電話番号	098-929-1140	設 立	2002年	人 数	38名
主な活動	障がいのある児童、また高齢者、その他の手助けを必要とする人々の、生活や余暇活動時における介助等を包括的に支援。				
利用施策	地域振興研究助成事業（2016年度）				
受賞歴	沖縄県福祉のまちづくり推進功労者 県知事賞受賞（2009年）、「災害時における観光者、外国人、障害者の避難誘導方法に関する調査研究」として神奈川県知事賞受賞（2010年）、那覇市観光功労者 団体賞受賞（2012年）、那覇市新庁舎建設事業功労者 表彰（2012年）、第8回 国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰（2014年）、「内閣府バリアフリー推進功労表彰」特命担当大臣表彰 優良賞（2019年度）、共同通信社 地域再生大賞優秀賞（2019年度）、地域貢献支援財団 社会貢献者表彰（2020年度）、観光庁長官表彰（2021年度）				

階に宿泊していた場合、エレベーターが使えなければどうやって避難させるのか、という問題に突き当たる。入口（受入れ）のバリアフリーはもちろんだが、出口（避難）のバリアフリーも命に直結するため、非常に大事になってくる。講座の中では、参加者に対し「災害が起きた際、障がい者も高齢者も安全に避難所まで逃がすことができますか？」との投げかけを行う。災害になると電気も止まりエレベーターは動かない。どうやって助ければいいのかだろう…そういった気づきを得て、後日、具体的な対策への相談をもちかけてくれる施設は多いようだ。



講座の中で、車イスや、高齢者の身体の具合を疑似体験する様子。

蓄積したノウハウは惜しみなく提供。未来を支える若い力を育てたい

琉球大学で非常勤講師も務める親川さんは、学生の論文に協力することもあるという。ホテルで実証実験を行った「逃げるバリアフリー」について興味を示した学生には、資料を渡し、惜しみなく情報開示しているそう。こうした所から小さな意識が芽生え、未来に繋がってほしい、との考えがあるからだ。

また、離島が多い沖縄において、船での実証実験も是非やりたいと思っているそう。マニュアルへ落とし込めるくらい検証を重ね、肢体不自由者向けの浮き輪（通常の浮き輪だと、麻痺の程度によっては力が入らず捕まることができないため）の設置も働きかけていくつもりだという。

誰もが住みやすい地域＝ストレスのない観光地に必要なこと

「バリアフリーという言葉は、あと10年もするとなくなっているだろう。黙っていても、ユニバーサル社会になっていく。今は過渡期でもあるので、あまり難しく考えず、知っている人から学んでいけばいい。」と親川さんは言う。「ハンデがあり弱い立場にいる人が、自分の住む町に誇りを持って住みやすいと思えるのなら、何もなくて

も、そこはストレスのない観光地になります。」とも。

バリアフリーや観光危機管理等は、何も特別なことではない。自分の身の回りにあるものを受け入れて、大切にしていくなかで、自然と必要なことが見えてくる。そんな気づきを与えてくれる言葉がとても印象的であった。



松田区鍾乳洞観光協会

自然のままの鍾乳洞は、皆に愛される飾らない松田そのもの

水汲み、洗濯、お風呂など生活に欠かせない場であったメーガー洞（鍾乳洞）は古くから地域住民に大切にされてきたが、降雨時に土砂が流れ込み堆積していくという問題を抱えていた。「何とか整備できないものか、そして、せつ

かくな村の貴重な観光資源としても活用できないか。」そんな発想から、区で鍾乳洞観光協会を設立。ガイドの養成やツアーコースの設定、ガイドブック作成に乗り出すこととなった。

散策ツアーのガイドはみんな、地元LOVE



自然のままを残す鍾乳洞で
ライトの灯りを頼りに探検！

メーガー洞は、2012年頃から観光としての活用が始まり「自然のままの鍾乳洞」として徐々に口コミで広がって

いき、コロナ禍前までは年間1,000名ほどの散策ツアー参加者を抱えるまでになっていた。

現在、ガイドとして登録しているのは地元愛に溢れる10名程の面々。新規の募集には苦労しているが、興味のある人を見つけては一本釣り！の作戦で、なんとか確保ができています。ツアー立ち上げ時には、皆で集まって月1回の勉強会を行い、マニュアルを作成し案内の手順を整理していたが、今ではそれぞれがよい具合に個性を発揮しており（笑）、プロではないからこそその味のあるガイドを行っている。高齢のガイドは「訛っていたらごめんね～」と愛敬たっぷり、商売っ気は感じられない。楽しんでやっているからこそその大らかな雰囲気がそこにはある。

専門家が次々繋がる人脈がスゴイ！

ガイドブック作成の際に、人文地理学の専門家に地域資源の掘り起こし調査を依頼したところ「他の分野の専門家も紹介するよ。」と、その場で連絡を取ってくれ、洞窟学や動植物学、人文社会学等の専門家へと次々繋がり、瞬く間に専門家チームが結成された。このように人脈を引き寄せる不思議なチカラが、松田にはあるようで…。現在

もチームは継続されており、分からないことが出てきたら都度連絡を取り合っているそうだ。

専門家の調査によって、他ではなかなか見ることのできない光鍾乳石群の発見もあった。それは、鍾乳石に付着するバクテリアの影響で光の方向に曲がっていくという現象で、通常同じ方向に向かうのだが、松田のそれは、水に

カテゴリー	地域の魅力発見／観光・地域交流			
住 所	国頭郡宜野座村松田78			
電話番号	098-989-8100	設 立	2013年	人 数 2名
主な活動	鍾乳洞や集落の観光案内、ガイド養成等			
利用施策	地域づくりイノベーション事業(R1～2年度)			

光が反射し様々な方向に伸びている。村の中で長年静かに眠っていた“タカラ”が今まさに芽を出そうとしている。

琉大生による高齢者への聞き取り調査では、「藍壺」というものの存在が明らかになった。藍染の染料を入れておく水槽のようなものだが、村史等の文献を探しても、松田で藍染めがされていた記述はどこにもなく、これまたスゴイ発見！現在も調査が進められている。

その道の専門家が次々に引き寄せられ、集結している集落が他にあるだろうか。そしてこれまで公にならずに、ひっそりと息づいていた貴重な文化財や資源の数々。松田に秘められたとてつもないパワーを感じずにはられない。



集落の大切な水場であったメーガー洞。現在は御嶽として拝まれている。

奮闘する2人の集落支援員

この協会には、2人の集落支援員が常駐している。好奇心旺盛なパワフル女子と、松田で生まれ育ち松田をこよなく愛する男子。対局なようで、とてもバランスのとれたコンビである。鍾乳洞を中心とした観光事業に日々奮闘しているが、今後を見据え、より安定的な自主財源の確保にも手をつけ始めた。

エコツーリズム推進のため大人数での受け入れは難しく、どうしても個人向けの案内になるが、草編み体験やキャンプ場での宿泊を交えたプログラムも検討中。恵まれた観光資源だけに頼らない独自の取り組みにも力を入れていきたいと考えている。

月1で通う松田ファンの存在も

いい意味で欲がなく、利があれば皆で分け合う、そんな風土の松田に引き寄せられるのは専門家だけではないようで、月に1度、環境整備の作業に欠かさず参加してくれる琉大生の「松田ファン」もいる。同学生日く、松田の魅力は「何もないところ。でも1度来ると、また来たくなくなってしまう。」

う。」なんだとか。

集落外からの温かな人脈にも支えられ、これからも集落の末永い存続と、どこにもない魅力を活かした地域づくりの両立に向けて、同協会のチャレンジは続いていく。



特定非営利活動法人 おきなわグリーンネットワーク

農家の視点で赤土等対策に挑む！
子どもたちへの環境学習で繋ぐ沖縄の未来。

代表の西原さんは、元々は漁協勤め。その後、不動産関係の会社に転職するが、思うことがあり、県・水産課事業の臨時職員に応募し再び海の世界へ。と思いきや、赤土等対策に関わる業務に就くこととなり、水産課にいな

がら陸地の仕事に携わることに。地域協働でグリーンベルト植栽に取り組んだことがきっかけで、水産課事業の任務終了後NPO法人を立ち上げ、現在の活動に至っている。

赤土等流出による影響

美しい海に囲まれた沖縄で、サンゴ礁の保全を突き詰めていくと、実は、大地の問題へと行き着く。

赤土等の流出は、雨が降り、土壌が侵食されることによって始まる。やがて、雨水とともに河川に流れ込み、海へと流入して拡散。赤土等が堆積するとサンゴは光合成ができなくなり、生きているサンゴが減少、そこに隠れ棲

む魚たちも姿を消してしまうことに。漁業・水産業では、濁りによるもずく収穫の減少や定置網へ付着する被害もみられ、沿岸部などが赤く染まり、景観が悪化する問題も起こっている。さらに、陸域（農地）からの赤土等流出は、土壌の劣化による農業への影響も懸念される。



農家の視点を大切にしたい



赤土等は84%が農地からの流出と言われているが、その対策には労力や費用などもかかり、農家負担が大きいため普及はなかなか難しい。実現に向けては、対策がメリットに繋がるよう農家の視点も必要だと感じ、当初那覇に構えていた事務所を、農業の盛んな八重瀬に移し農業の勉強にも取り組んだ。その中で農家やJAおきな

わとの接点も増え、そこからつながったグリーンベルト植栽も始まっている。（グリーンベルトとは…裸地や畑の周辺、斜面の下側などに、樹木や草木などの植物を帯状に植えることにより、水の流れを弱めたり、濁水中の土粒子を補足し、赤土等の流出を防ぐ解決方法。）

農家とのやりとりで分かったメリットがある。かぼちゃは、敷き草と風よけが必要で、ススキを刈り込んで土に置くことが多い。その代用として、かぼちゃ農家がグリーンベルト植栽に適したベチバーという植物を試したところ、とても使い勝手がよかったそうだ。対策が農家のメリットになれば、普及の加速化に繋がるかもしれない。農家のニーズに合わせて取り組みが持続できたら、それが1番いいと考えている。

カテゴリー	環境保全／子どもの健全育成			
住 所	島尻郡八重瀬町富盛301 コーポ富盛201号			
電話番号	098-943-3223	設 立	2013年	人 数 13名
主な活動	赤土等流出防止対策活動の普及・啓蒙活動、人材育成			
利用施策	地域づくりイノベーション事業(R2～3年度)			
受賞歴	沖縄都市緑化月間 亜熱帯緑化事例発表優秀賞(2013年)、 沖縄県環境保全功労者表彰(2018年)			

赤土等の問題はもう終わったこと？

“おきなわSDGsパートナー”として取組みを推進するJAとも連携できればと、直接話に行ったことも。そこから、クラウドファンディングと一緒にやろうと発展したが、結果は達成率30%となかなか厳しい結果となった。

「もしかすると、赤土等の問題は昔のことで、もう終わったのだという認識が県全体にあるのかもしれない。県民への周知・啓蒙活動にも改めて力を入れなければ。」と決意を新たにできたそうだ。

未来を担う子どもたちとの環境学習

沖縄の未来に向け、子どもたちへの環境学習にも積極的に取り組んでいる。赤土等は沖縄の文化や農業に欠かせない宝物、決して赤土等が悪いわけではなく、大切なのは、色んな視点や人の立場になって考えてみるということ。事前アンケートでは、赤土等流出について知らない、との回答が7割にも及ぶが、子どもたちは飲み込みも早い。「自然環境と自分たちの暮らしは繋がっているんだ。」「赤土等や農業の大切さがわかった。」「学んだことを、おじいおばあにも教えてあげよう。」と柔軟に受け止めてくれている。沖縄の未来は明るい？！のではないだろ

うか。

県内小学校でのこういった取り組みは、8年間で100校以上に及ぶ。「人材育成などと偉そうなことは言えないが、環境を守りながら地域活性に貢献できる大人になってくれたら。」との願いを込めている。

また、県外の子どもたちに対しても、民泊体験の中にグリーンベルト植栽と農業体験を組み込んだプログラムを提供しており、旅行会社からの問い合わせも増えている。「沖縄で起こっている赤土等の問題を、自分事として捉え、考えてくれたら嬉しい。」と話す。



出前講座の様子。この取り組みは8年間で100校以上に。

持続的な活動にするために

環境保全と暮らし、そして教育がリンクする持続的な社会を目指し活動しているが、そのためには自立できるだけの収益を確保する仕組みづくりが必要だ。沖縄県の赤土等流出問題の普及啓蒙活動等を目的としたマスコットキャラクターの「もっちゃん」を活用し、環境に優しい農産品としてブランド化を図り、販路までセットで提案できないかといったアイデアを検討している。「難しい課題だとは思いますが、これからも農家さんや地域と二人三脚で挑みたい。」と最後に力強く語ってくれた。



一般社団法人 まちづくりうらそえ

スーパーボランティアにカレーパーティー！？
みんなで支える子どもの未来！

代表の大城さんは、以前は別の団体で地域づくり活動に関わっていたが、そこを退職した後、地元浦添市の児童センターで募集を見つけ、応募。職員として採用され、森の子児童センターに配属となった。

配属の翌年2015年からは、児童センターの運営が指定管理に切り替わることが計画されていたため、その応募に

向けて動くことに。申請の準備等、大変なことも多く、正直、勤めているだけのほうがラクだという思いもあったが、同僚からの「大城さんについていきます！」という心強い言葉もあり、決意が固まった。そして、浦添市内の児童センターで指定管理となった初めての民間団体となり、子どもたちのためによりよい運営を目指す新たな体制作りが始まった。

私は2番手、のスタンスで人材育成

児童センターについて触れる前に、まずは代表である大城さんの人柄に着目したい。

元々、和裁士の仕事をされていたそうだが、「縫う人は、織った人の作品を生かすことが役目であり、あくまでも2番手。」との考えがあった。それは、「人の長所を見つけ活躍できる場を作る。その際、いくらかは自分が前に出ても、すぐ後ろにまわりポンと人を前に出す。」という、現在も仕事する上での基本スタンスに繋がっている。いつまでも自分が中心に立つのではなく、若い芽を

育て任せていく。

適度な量とタイミングで物事を任せてもらえると、人は一気に視野が広がりメキメキと力を発揮していくものだ。そのいい例としてあるのは、30代の若き館長が、同世代の職員らと取り組んだセンターとしての新たな理念の作成だ。元々あった法人の理念がベースにはなっているが、今の状況や自分たちの想いを込め、皆で再構築したという。こうして組織が活性化することが、センターに通う子どもたちにもいい影響を与えているのだろう。

地域との接点作りから始めた、児童センターの運営

児童センターを運営するにあたり、まず始めにしたことは、近隣の企業や団体、自治会への挨拶まわり。

まずは、自分たちが何をしているか知ってもらうことが大切だと思ったそう。それがきっかけで、勢理客自治会と合同での防災訓練を実施したり、スーパーボランティアとして、毎日の掃除や力仕事を手伝ってくれる頼もしい協力者もできた。市更生保護女性会との繋がりもそ



市更生保護女性会からの差し入れで
カレーパーティー！沢山召し上がれ！

カテゴリー 子どもの健全育成

住 所 浦添市勢理客1-7-2

電話番号 090-2512-3026

人 数 30名

設 立 2015年「まちづくりNPOうらそえ」⇒
2017年「一般社団法人まちづくりうらそえ」に団体名変更

主な活動 浦添市(森の子/宮城っ子)児童センター指定管理、
浦添市母子生活支援施設浦和寮指定管理、浦添市グッジョブ連携協議会事務局

利用施策 琉球銀行ユイマール助成会、NPOどんどこプロジェクト
(子どものための児童館とNPOの協働事業)

の1つで、昨年は児童のためのカレー350食分の差し入れがあった。すぐに食べきってしまったため、今年は500食分をお願いしてみたところ、少しビックリされた

ようだが、快く提供して貰った。

子どもファーストな関わりで、あたたかな居場所作りを目指す

ここでは、否定しない・受け入れるスタンスで子どもたちと接している。子どもの口から「どうせ自分の言うことなんて…」という言葉が出た時は、その背景に想像を巡らせる。もしかすると普段、自分の話や言い分を聞いてもらえないのではないかと、だったら、まずはこの子の言葉をしっかり聞こう。このように、1人1人の状況や対応策を職員全員で共有し、寄り添っていく。

児童センターの利用は18歳までとなっているが、子どもとの関係はその後も続いていく。里帰りをした際に、菓子折りを持ってふらりと寄ってくれる子もいれば、保育士になってここに勤めたい、と夢を語りにきてくれる子もいる。自己肯定感が低く自信を持てなかったことや、暴言等があった昔の姿を思うと、「成長したなあ。」と思わず目頭が熱くなるという。



代表の大城さん(右) 0～18歳までの子どもが集う。大人になった後も訪ねてくれる子がいるそう。

根底にあるのは、地域づくり

夜間開放もされており、22時まではサークルや会議など地域の方の利用もある。大人の出入りがあるのは、とてもいいことで、お互い顔が分かるからこそ、児童センターの外で気になることがあった時には「気を付けてよー」と声をかけることができる。知っている大人であれば、子どもたちも反発することはない。むしろ、心配されている、気にかけてもらっている、と素直に受け取ることができるようだ。

ここでは児童センターの職員やボランティアはもちろん、各種団体、企業、そして地域の方々が連携することで、子どもたちを見守り、自立をサポートしている。「大事なのは、地域の色々な大人たちが子どもに関わること。だから児童センター運営の根っこは、地域づくりにあるんです。」と、大城さんは語ってくれた。



真地団地自治会

野菜たっぷり!愛情たっぷり!
100円弁当が支える、安心な暮らし。

1980年に建てられた真地団地は高齢化が進み、様々な問題を抱えていた。そんな中、高齢者の健康面を気にかけ、安否確認の意味も込めて、ある一人の女性がおかずを作って団地内で配り始めた。2010年、それを知った当時の自治会長の声掛けで、自治会として取り組もうということになり、毎週金曜日の昼食を、団地自治会集会会場に1食100円で提供する「百金食堂」が誕生した。

現在(2021年)はコロナ禍での三密回避のため、食堂方式からお弁当に切り替えて運営している。(100円弁当

として、第1・3金曜日に実施。)

調理を取り仕切るのは、団地に住む7名のご婦人方。大人数の食事作りは経験がなく、参加するのに躊躇する気持ちもあったが、「みんな初めてだから、大丈夫よ～」という声に押され、何となく始めてみたそうだ。活動は、当日の金曜日はもちろん、水曜日に買い出し、木曜日には下ごしらえ、と3日がかりの作業となるため大変なことも多いと思うが、楽しいから続けているのだという。

高齢者の健康作りの一助になれば



取材当日のメニューはカレーライス!玉ねぎ、冬瓜、じゃがいも、かぼちゃ、ニンジン…色とりどりの野菜がたっぷり入っている。高齢者向けの食事ということで、固さや味付けに気を配り、野菜中心のメニューを心がけている。

食材費については、他団体からのおすそ分けや、差し入

れしてくれる方の協力もあり、自治会からの持ち出しが出ないよう工夫してやりくりしている。用意した100食分はここ最近だとほぼ完売しているので、1万円の売り上げも担保でき、何とか赤字を出さずに成り立っている。

顔を合わせることで、見守りにもつながる大切な場所

時刻はAM11:30。「百金食堂よりお知らせします。お弁当の準備ができました。どうぞ、ご利用下さい。」というアナウンスを機に、お弁当を求める方が続々と集まってくる。いつも30分ほどで売り切れてしまう盛況ぶりで、食堂の時には(恥ずかしくて?!)なかなか参加してくれなかった一人暮らしの男性も、お弁当を買うことはハードルが低いのか、頻繁にやってくるようになった。また、大体決まった顔ぶれが買いに来てくれるので、いつも来ていた方を見かけないことがあれば、隣近所から情報収集したり、自治会長が直接自宅を訪ねて状況確認するなど、見守りの一環としても機能している。



「この間のお弁当も美味しかったよ～」など、楽しい会話も生まれる販売風景。

カテゴリー 健康・福祉

住 所 那覇市真地277番地

電話番号 098-854-4721

設 立 1980年

人 数 655名

主な活動 百金食堂(百円弁当)の運営

利用施策 那覇市自治会活動事業補助金

日々の生活にも広がる交流の輪

頻繁には外出しづらい高齢者にとっては貴重なゆんたくの場にもなっているようで、お弁当を買った後、木陰に集まり「久しぶり～、元気だったね?」と声を掛け合う様子も見られる。

こうした場での接点がきっかけで、日常的にお互いの

家を行き来したりと、住民同士の交流も活発になってきているようだ。孤立しがちな高齢者の生活を相互に支える輪が広がっていることは、自治会としても非常にありがたいことだと捉えている。

共に活動してくれるボランティアも大募集!

真地団地は、約300世帯ある中のほぼ半数にあたる145世帯が70歳以上となっている。見守りや安否確認にも繋がっている百金食堂を今後も継続していきたいが、ボランティアの担い手不足という課題を抱えている。自治会だよりでも募集をかけているが、なかなか厳しい状況だ。

現在活動を支えているメンバーからは、「家に引きこもりがちになっていたが、ここに来るようになって生活に張り合いができた」「色んな調理法を学べるので、ためになっている」と前向きな発言が多く聞こえてきたし、「百金食堂の発足時から、もう10年以上関わっている。」というベテランもいれば、「孫の世話があるから、来られる時だけ手伝っている」と無理のない範囲で参加している方も。

「100%に近い自治会加入率を誇るこの団地は結束も強く、お互いを思い合う気持ちも十分にあるはず。自分にできることは何だろう、と一歩踏み出す勇気を持つこと



で、今後も安心して生活できる団地になっていったら欲しい。」最後に、自治会長は思いを込めて語ってくれた。



特定非営利活動法人 1万人井戸端会議

日頃からのつながりが非常時の支えとなる。
地域と歩む公民館。

「1万人井戸端会議」その名前の由来は、日々のミッションに直結するものである。まず1万人とは、生活圏を意味している。子供も高齢者も自分の足で歩ける範囲。この生活していく範囲の中で、支え合ったり高め合ったりすることが持続可能な地域づくりに繋がると考えた。

また、繁多川周辺は湧き水が豊富だったため、洗濯したり飲み水を汲みに来たり、みんなが自然と集う共有の場があった。他愛もないおしゃべりや、困りごとを相談する中で知識を得て、それは誰もが持ち帰れるし、誰にでも伝えることができる。そういう開かれた学びの場を象徴するものとして、井戸端会議という語句を取り入れた。



皆で学び、よりよい地域を作っていく！
とびきりの笑顔でハイチーズ。

2014年にNPO法人1万人井戸端会議を設立。繁多川公民館の運営を通した新たな地域づくりが始まった。

先が見えない中でも豊かな暮らしを示していく、すぐりむんの功績

まずは、コロナ禍でのすぐりむん活動について紹介したい。(すぐりむんとは、豊富な知識や経験を持つ地域の人材を、優れた人として認定する取り組み。)やーぐまい(=家こもり)生活の中、親子で作れるちらし寿司のレシピを広報誌に載せたり、地域について学びながら健康作りができるよう、YouTubeに散策の紹介動画をあげたり。公民館としては、ちょっとした声掛けと、広報誌やYouTubeというツールを提供しただけであったため、コロナ禍以前からの関係性がいきた取り組みであった。

ただ、すぐりむんを中心とした60代以上の高齢者や、中高生によるジュニアボランティアの活躍は顕著だったが、それだけではカバーできないこともあった。経済活動の見通しも暗かった中、「働き盛りの20～50代が地域での暮らしを想像できるムーブメントを起こしていないといけない。お店の継続や、事業を発展させることができないとwithコロナ時代の地域活動は持続できなくなる。」との危機感を抱いた。



完璧じゃないから楽しい!? 揚げ物喫茶へようこそ

そこで立ち上げられたのが若手会だ。まずは、顔見知りのメンバーに声をかけ30人ほどが集まった。自治会や地域の方の期待も大きく、みんなで応援しよう、若手会なんだからムラがあってもいいじゃないか、という機運

が高まっていった。

この取組みの1つに「揚げ物喫茶」がある。油の卸売をしている若手会のメンバーが手を上げ、油を販売しつつ、食材を持ってきたら無料で何でも揚げますよ、とい



カテゴリー	健康・福祉／観光・地域交流			
住 所	那覇市繁多川4-1-38			
電話番号	098-917-3448	設 立	2014年	人 数 14名
主な活動	那覇市繁多川公民館指定管理事業、いどばた学童クラブ運営事業など			
受賞歴	文部科学省優良公民館(2回受賞)、優良公民館相互評価特別賞 2020年度第8回全国公民館報コンクール銀賞			

う仕立てだ。喫茶だから昭和歌謡曲を流します、飲み物は用意できないので自動販売機で買って下さい、と多少粗い企画のイベントだったが、近くの園児が30名ほど遊びにきたり、通りすがりの方も立ち寄ったりで、想像以上に多様な世代の人が集まった。

なお、社会教育法には「もっぱら営利を目的とした事業」は禁止とあるが、孤立を防ぐ・集いをやめない、という主目的があったため、公民館としては問題ないと判断した。結果、若手メンバーの自主的な地域活動の実践につながったのだ。まずは始めることが大事、足りない部分はやりながら修正していく。そのほうが地域の人みんなで作り上げる楽しさがあるのだろう。



揚げ物喫茶・店長。
「美味しい油でカラッと揚げます!!」

地域声を拾う、拾えない声にも耳を傾ける

また、コロナ禍では「地域の人の声(困りごと)を拾いに行く」ということにも力点を置き、地域包括支援センターとも連携し、来館する人にヒアリングをかけていった。生活リズムが崩れた、孤独を感じた、認知症がすすんだ…など、世代・男女別に整理して張り出し、みんなの困りごとを見える化した。

公民館としては、拾えた声や拾えなかった声からも推測し

て講座を組み立て、次の事業の展開に生かすということをした。そのような活動は、平日頃から地域を思い、一緒に活動してきた基盤があったからこそ実現できたことだった。役に立ちたいという気持ちで色んな人と関わる中で、地域をよくするための学びやきっかけが作られていく。こうして地域としての力を高めていくことが、長い目で見ると大切になってくるはずだ。

希望を持てる地域社会を目指して

自分たちの住んでいる沖縄に、もっと希望を持てる子育て環境を作ることが今後の課題だという。別で運営している井戸端学童等の取り組みもあり、このあたりの小学生とはお互い顔が分かった上でのコミュニケーションが取れるが、できればもっと前の段階からこういった関係性を築いておきたい。例えば出産後～保育園に入れるまでの期間。ここで孤立してしまうケースも多く、公民館としての接点

もまだ十分ではない。今回のコロナ禍でも突きつけられたが、一気に生活が変わってしまうリスクは今後もはらんでいる。「そんな中にあっても、希望を捨てず自分への期待さえ持つことができれば、力に変えていけると思う。チャレンジしたいという子供たちの可能性を広げることができるよう、これからも地域一丸となって邁進していきたい。」館長の南さんは笑顔で語ってくれた。



狩俣自治会

狩俣版SDGsで、ずっと住み続けられる地域を目指したい

40代で狩俣自治会の会長に就任した國仲さんは、生まれも育ちも狩俣で、青年会長やPTA会長も務めてきた。会長に就任する直前、市の主催で狩俣の課題を考えるワークショップが開催されたが、そこに参加していた中学生の発表を聞いて衝撃を受ける。今から30年近く前、市議会議員も参加した座談会の場で、当時21歳だった自分自身が指摘した課題と全く同じだったからだ。「僕らは何もしてこなかったのか…」と。

中学生たちからは、将来狩俣に帰ってきたい、という声もあったため、「その時まで狩俣は存続していなければならない。」と強く感じたという。その時に出了課題のほとんどを盛り込んだ事業計画書を作成し“狩俣版SDGs”として、自治会活動の存続と発展のための活動方針を住民に示した。自治会の幹部2名も同じ40代が就任し若返りが図られたこともあり、スピード感を意識しながらの持続可能な地域づくりがここから始まった。

みんなで楽しく集まれる、そんな場を増やすことから始めたい

まずは優先順位を「幼・老・青・般」とした。助けが必要な、小さい子どもやお年寄りを最優先。そして、若者層を地域に呼び込むためには、とにかく自分たちが楽しんで取り組むこと。そうでなければ続かない。初の試みであったクリスマスのイルミネーションや花火大会に対しては、「若い人だけで盛り上がってるんじゃないの。」という意見もあ

るにはあったが、地域が盛り上がりればそれでよし！という考えでいるそうだ。この辺りには「まない(=残念だったね)」という方言があるが、「なんで来なかったの?まない!(とても楽しかったから、残念だったね。)」と言えるような、楽しい集まりやイベントを増やし、もっともっと色んな世代を巻き込んでいきたいという。

電気自動車の相乗りで脱炭素!地球にも優しい地域へ

早くも形になった新規事業の事例としては、EVシェアリング事業がある。狩俣から市街地までは約11km、車で20分ほどだが、通学や通院等の送迎が時間的・金銭的に負担となっている人が多かった。そこで自治会有志が中心となり、EVを導入し、地域内で共同利用する実証実験に取り組んだ。結果、1年間で延べ1,368人が利用し、49万7348kgの二酸化炭素削減にもつながった。また、乗り合いの時間になっても現れないおじいちゃんが心配になり、家まで様子を見に行ったら、熱中症で倒れているのを見つけ、すぐに救急車を呼び、事なきを得たこともあった。このように、地域の高齢者の見守りにも一役買うという副次的な効果も得られたそうだ。



EVシェアリングから始まった好循環

カテゴリー	子どもの健全育成／健康・福祉／観光・地域交流			
住 所	宮古島市平良字狩俣1255-1			
電話番号	0980-72-5051	設 立	1902年	人 数 450名
主な活動	地域の祭りやイベント、防犯活動から青年会活動、子供会活動まで幅広い活動を行っている。			
利用施策	小さな拠点づくり支援事業			
受賞歴	全国過疎地域連盟会長賞（2021年）			

小学校の空き教室に幼稚園が再開！



次に狩俣幼稚園の再開について。子育て環境の改善は、必ず地域活性化につながるとの思いで取組みを行ってきた。再開させるためには5名以上の園児に職員、そして教室の確保等、課題が山積みであったが、小学校や保護者、市教育委員会と話し合った結果、小学校の空き教室を活用することなど

で解決した。

今後、学童や保育園への展開も見据え、地域の中心拠点である狩俣集落センター内の厨房施設を活用し、給食を提供することができるよう準備も進めているそうだ。

様々な世代がごっちゃまぜで集う“小さな拠点”

前述した狩俣集落センターの厨房では、園児への給食だけでなく、高齢者への配食や、住民・観光客向けのお弁当作り等も視野に入れている。材料は地元の漁師等から仕入れることで収入を安定させ、調理する人材の雇用も生む。地域内でよい循環ができる、その名も“地域食堂（仮称）”。運営が開始できるまで、もうあと僅かだという。

また、それと同時に“ツリーハウス”の建設も進行中。狩俣小学校内にあるガジュマルの木を中心に、子どもが遊び、高齢者も集う、ごっちゃまぜの交流ができる場作りを目指しているそう。

この2つの小さな拠点に、人・物・文化が集まることで様々な波及効果が表れ、楽しく助けて暮らせる地域が続いていくように。そんな願いが込められている。



笑い声が絶えない
みんなの憩いの場

これからも大切にしたい、地域住民との対話

地方の小さい田舎だからこそ、SDGsの先駆者と言われるくらいのことをやろう。そんな勢いで走り始めた取り組みだったが、結果的にはそれが「狩俣自治会、面白そうなことやっているな。」と注目を集めることに繋がった。すると面白いもので、「こんな事業あるから、やってみない？」と声がかかるようになり、“EVシェアリング”や“小さな拠点”はそうやって誕生したそうだ。

全国過疎地域連盟会長賞（2021年度）も受賞し、県内団体としては12年ぶりの快挙となったが、「自分たちの考えや取組みが、住民にどこまで浸透しているかと聞かれたら、ちょっと自信がない。もっともっと対話が必要。」と國仲会長は言う。

1人1人に向き合い、地域の将来について共に考えたい、という姿勢を持ち続けているからこそ、チャンスを見逃さず、先進的な取組みにつながっているのかもしれない。



本部町各字老人会(並里、野原、谷茶)

住所 国頭郡本部町東5

TEL 0980-47-2165(本部町 福祉課老人福祉班)

カテゴリ 健康・福祉

ヤギの飼育で、高齢者の健康づくり!

本部町の各字老人会では、高齢者の健康増進・介護予防の観点からヒージャー(=ヤギ)の飼育に取り組んでいる。町の農福連携健康づくり交流事業の一環で、ヤギ舎の整備と雌ヤギ2頭が無償譲渡されるというもの。

2020年に2か所、2021年には1か所で始まっているが、予算(補助金)の都合がつけば、希望する地区での飼育が可能になるという。そのため、今後も手をあげる地区があれば、さらなる広がりを見せそうだ。

2020年11月からこの事業に取り組む谷茶地区では、ヤギの出産などもあって地域の話題を集めている。公民館前の谷茶公園に設置されたヤギ舎には、現在4匹の親ヤギと1匹の子ヤギが飼育され、土日は家族連れが様子を見に来るなど、賑わいをみせる。

ヤギの世話は、5名ほどの高齢者が担当の曜日を定めるなどして順番に行っているが、皆楽しみながら取り組

んでいるという。外に出てお互い会う機会も増えるため生活にハリが出る上、掃除等で身体を動かすことがちょうどいい運動にもなっている。地域の若い方や消防団もボランティアで草刈りに参加するなど、世代間交流の場としても機能しているようだ。

区長の宇根さんは「みんなのペットとして可愛がっている。毎年のように子ヤギも産まれるので、近くに来た際には是非見に来て下さいね。」とこやかに話す。

今後は、子どもたちにもヤギにまつわる産業・食文化を伝え、畜産振興にもつなげたい考えだ。ヤギの飼育を通して、子どもから高齢者まで地域が一つになっていく、心あたたまる活動がそこにはあった。



にぬふあぶし

カテゴリ 環境保全／子どもの健全育成／地域の魅力発見／文化・伝統継承／観光・地域交流

地域の自然を楽しんで。親子で参加するワークショップ開催!

代表の仲間さんは、あまり外で遊ばなくなった近所の子どもたちに、自然と触れ合う場を作りたいという思いを持っていた。そこで、地域の素晴らしい自然を子にも親にも体験してもらえるようなワークショップを企画。仲間さんの人脈も含め、地域の中で得意分野を持つ人等に協力を仰ぎ、テーマを設定し、講師も務めてもらうことに。

2018年から宜野湾市地域づくり推進事業基金の助成を受け、「ましきわくわく!まちたんけん」として、ワークショップをはじめ、出前講座、防災まつりを開催。真志喜地域を中心に伝統文化や自然を体験し、地域の方々との交流を深めながら、親子で一緒に“歩き、学び、つくる”事業。

3年目の開催となった2020年のワークショップは、「リュウキュウツミの観察会」「クバの葉を楽しもう」等を

テーマに5回の開催。参加者から、「身近な場所に興味がわき、親子で楽しく散歩できるようになった。」「自然からは、色んなことを楽しく学べるということがわかった。」との感想の声が寄せられた。

出前講座「しめ飾りをつくろう」では、華やかなしめ飾りを完成させ、防災まつりでは、「地域の方々と顔を合わせる機会こそが、防災の基本という学びもありました。」という大切な気づきもあった。

自治会や学校、地域のボランティア団体、行政、大学など多様な組織と連携し、地域に目を向けるきっかけとなったこの活動は、今後も様々な団体と連携・情報交換等しながら継続していく予定とのこと。



広報人材育成プロジェクト実行委員会

住所 宜野湾市喜友名1039 2階

TEL 098-943-0094

カテゴリ 地域の魅力発見

広報活動を活発にすることで、地域の情報発信力を高めたい

同じ宜野湾市で開催された、地域の課題を発見し解決策を考える「地域コーディネーター養成講座」の参加者から、市内の広報力が弱いとの声があがり、広報に長けた人材を育成していこうとの話から「広報人材育成プロジェクト」事業が展開されることとなった。

広報技能やツールを習得した人材が増えることによって、市内各地での広報活動を活発にし、地域の情報発信に繋がりたいとの思いから、広報にまつわる講座を5回にわたり開催。YouTubeやZoomの仕組みを知り、効果的に活用するための集客方法や周知方法を講習する「動画活用講座」や、現役新聞記者から事実を伝える文章構成や記事の書き方、印象的な写真の撮り方を学ぶ「市民ライター講座」など、各回20～30名ほどの参加があった。

新型コロナウイルスの影響で急遽オンラインでの開

催となったが、受講生の年齢層は23歳～67歳と幅広く、職種も学生や個人事業主、市議会議員、観光関係など多岐にわたり、受講後、積極的に広報活動を行う受講生が増加。動画を活用した広報を行う自営業の方や、YouTubeチャンネルを作った福祉事業者の職員も出てきて、自治会広報に新たにSNSや動画を取り入れるという大きな動きもあったのだそう。

事業は自治会や社会福祉協議会と連携して実施しており、今後も、これまでの受講生を対象に勉強会を開催予定。宜野湾市で広報委員会を組織することで、地域の情報発信力をより高めていきたいとの考えだ。引き続き、これらの活動に注目していきたい。



うるま市比嘉区自治会

住所 うるま市勝連比嘉125

TEL 098-977-7227

カテゴリ 地産地消・食育

耕作放棄地が花畑に変わり、ジャガイモや玉ねぎの収穫も！

地域の耕作放棄地を有効活用したい、そして、農業に関心を持ってもらうことで担い手不足を解消したい、との思いから、2017年より県のふるさと農村活性化基金事業を受諾。年間100万円（事業開始時は、50万円／年）の補助を得て、耕作放棄地を伐開しコスモスやヒマワリの種を植え、野菜作りにも取り組むという活動が始まった。

まずは水の確保からということで、自治会が中心となって井戸を掘り、それぞれが責任を持って管理できるよう農地を個人に振り分けた。自分の担当となるとやはり気になるようで、こまめに畑に出向き、丹精こめて世話をする姿があちこちで見られたという。

地域で元々農業を営んでいた方からのアドバイスやサポートもあり、収穫時期には無事、ゴロリとした美味しそうなジャガイモや玉ねぎ、にんじんが獲れた。老人会や婦人会、子供会、青年会など多くの人たちが参加した収穫祭では、野菜たっぷりの力

レーが振舞われ、皆で美味しくいただいた。青空のもと会話も弾み、地域コミュニティの活性化にも繋がったそうだ。また、コスモスやヒマワリは地域の環境美化だけでなく、農村景観が向上し「神の島」とも呼ばれる浜比嘉島へ訪れる観光客を喜ばせているとのこと。

今後は、5年間の事業が切れた後もいかに活動を継続していくかがポイントになってくるが、別の補助事業を探してみる、もしくは自主財源の捻出方法を考える等、検討の必要があるのだという。

耕作放棄地を解消し、農業への関心を高めてもらうことには引き続き力を入れながら、子どもたちが食の大切さを学ぶ場にもしていけたら、よりよい地域づくりに繋がっていくのではないだろうか。





特定非営利活動法人 首里まちづくり研究会

住所 那覇市首里池端町34-2F(首里スタジオ内)

TEL 050-5309-5336

カテゴリ 地域の魅力発見／観光・地域交流

住民主体で進める、首里ならではのまちづくり

2005年にNPO法人化した当初から、龍潭通り沿線の景観について沖縄県建築士会首里支部と共に行政に提言を行ってきた首里まちづくり研究会(すいまち研)。以来、王都首里らしい風格とうるおいのあるまちをめざし、さまざまなシンポジウムやワークショップなどを行ってきた実績が評価され、2017年には那覇市で第一号となる景観整備機構に指定された。

2015年からは地元の養蜂園とのコラボで「首里ミツバチ花いっぱいプロジェクト」を開始し、ミツバチの生態を通して環境問題や緑化を考えるワークショップやまちあるきイベントなどを開催した。田場事務局長によると「同時期に始めた首里緑化まちづくりコンテストでは、花や緑でいっぱいの素敵な庭先や店先などの写真を公募し、オーナーや管理者を勝手に表彰しています」という。ユニークなコンテストだが、受賞者からは「先祖から受け継いだ庭なので、これからも大切にしていきたい」など前向きなコメントが寄せられ、緑化に対する住民の

モチベーションアップにはプラスになっている。2022年を目処に、表彰された地域をマップ化しHP内で紹介するという取り組みも進行中のようだ。

2019年の首里城火災は住民にも衝撃を与えた。すいまち研では再建・復興を叫ぶ論調の中にオーバーツーリズムに悩む視点がないことに危機感を持ち、他の地域団体と連携し、地域目線での提言書を取りまとめて沖縄県知事と那覇市長に手渡した。首里城公園を管理する沖縄美ら島財団とも連携し、観光客向けとは異なる、地域住民参加型のイベントも手がけている。「首里はもともとシビックプライドが備わっている地域。次世代に首里の文化を引き継いでいけるよう、50年後を意識したまちづくりを考えています」と田場事務局長は語る。



一般社団法人 渡名喜村観光協会

住所 島尻郡渡名喜村1917-3 **TEL** 098-996-3758

カテゴリ 地産地消・食育

もちきびを始めとした、渡名喜産の商品やサービスを多数展開中！

元々、渡名喜産のもちきびを使ったクッキーやお餅、ちんすこう等の商品は島内にあり、離島フェアや観光客にも美味しいと評判であった。しかし、渡名喜オリジナルの土産をもっと増やしたい、もちきびの活用方法が広がれば農家の生産意欲も向上するのではないかとこの考えから、新しい商品開発に向けて動き出すこととなった。

開発については、もちきびを用いたスコーンを提供している那覇の喫茶店オーナーに監修を務めてもらうこととなった。この方は、県が主催するモニターツアーで渡名喜島を訪れた際、もちきびと出会い興味を持ったのだという。

賞味期限や製造方法については無事クリアできたことになったため、売り出し方法やレシピを、監修元および生活改善グループらと模索し、継続して販売するための値段設定、材料調達方法、パッケージデザインなどを決定。役場職員や村長、村議員、住民の一部にも試食を実施し、意見をまとめ「もちき

び黒糖スコーン”そして、島の野草・ハマボウフウとチーズ入りの“島ハーブスコーン”を完成させることができた。

販売の際には新聞やSNS等で告知し、島内はもちろん、島外からも通販での注文が多くあったそう。

スコーンのおいしい食べ方や、特産品の活用に関する意見も島内外から活発に出ており、特産品そのものについて考える1つのきっかけにもなっているという。

今後は、島外の顧客をより増やしていくべく通販の活用方法をテコ入れする予定とのこと。また、スコーンの他にも、常温で保存できる商品がもっと欲しいという声もあり、島にんじんやフクギの葉で染色した製品作りや、体験ツアーについても着々と準備が進んでいるようだ。



久米島ホテルの会

住所 島尻郡久米島町字大田420

TEL 098-896-7100

カテゴリ 環境保全

久米島のホテルを守りたい! 15年続く子どもたちによる環境活動

久米島ホタレンジャーは、環境省のこどもホタレンジャー活動(小中高生が中心となって取り組む水環境保全活動を奨励し、優秀な取り組みを表彰するというもの。2018年をもって終了している。)の呼びかけに応える形で、2007年に7名で結成した。

土曜日の午前中に集まり、在来植物の生育や赤土の除去などホテルが住める環境作り活動を年間50回ほど行っている。その甲斐あって、活動の拠点である久米島ホテル館周辺には、活動当初ホテルは飛んでいなかったが、少しずつ姿が見られるようになり、活動が5年目を迎えた頃には沢山の数が飛び始めた。

2021年で15年目となる久米島ホタレンジャーには毎年新たなメンバーが加わっており、現在では幼稚園児から高校生までの総勢42名と、当初に比べると大きく成長した所帯となっている。

また、結成当初のメンバーも今では25歳となり、それ

ぞれが目指した場所で活躍中。リーダーを務めていた佐藤君は、茨城県の会社でSDGsを推進する仕事に就いているという。ホタレンジャーの活動で培われた地球環境を守りたいという心が、今尚育まれているのだろう。

人と自然のつながりの大切さを知ってもらうため、川や湿地の循環を再生できるアクティビティのプログラムも複数提供されている。人が川に入ることによって赤土が拡散し、酸素も行き渡り活性化するため、生息する生き物にとっても住みよい環境作りに繋がるのだという。

ホテル館の館長は、「地域の子もだけでなく、沖縄本島の子や修学旅行生にも是非、川遊びを楽しんでもらい、ホタレンジャーの環境活動を体験して欲しいと思う。」と語ってくれた。



宜野湾市女性団体連絡協議会

住所 宜野湾市志真志1-15-22(人材育成交流センターめぶき内)

TEL 098-896-1215

カテゴリ 健康・福祉

学生等のサポートを受け、高齢者のスマホ教室を開催!

ICTに触れることなく仕事を引退した世代も、スマホ等に慣れ親しみ、人生100年時代を有意義に過ごしてほしいとの思いから、シニアのスマホ教室を企画。コロナ禍と時期が重なったこともあり、アルバイト先を失くした学生の雇用にも繋がればと、シルバー人材センターパソコン指導者に加え、沖縄国際大学の学生にもサポートしてもらうことに。

大学との接点は元々なかったが、宜野湾市・市民協働推進課の紹介で、地域の公民館でサークルの練習をしている彼らに連絡をとり、協力をお願いすることができたという。

4か月に渡り、週1ペースで開催した教室には、10名ほどのアルバイトが参加し、インターネットを使った検索機能や動画視聴、LINEのグループ通話などを手ほどきした。

参加者からは、「孫とLINEできるようになった」「何回やっても覚えられない」など様々な感想が寄せられたが、

皆楽しんで取り組んでいたようだ。

また、「勉強する場がない」「身内には遠慮して聞きづらい」といった声に応えるためにも、繰り返しの取り組みが必要であると感じるが、当初受託していた助成金も終了となり、どういった形で再開できるかを模索しているところだという。

ただ、総務省の方針もあり、スマホショップや行政もはや足で動き出しているので、「どの団体が取り組むことになっても、この活動が継続し普及していけたら嬉しい」と代表を務める崎原さんは語る。

今後も、地域活動や男女共同参画に係る啓発、市民と行政が手を結び合った街づくりにも積極的に参加し協力していきたいとのこと。高齢者、そして地域の元気のため、会の活動がどのように展開していくのか楽しみである。





たんぽぽ会(南城市つきしろ自治会)

住所 南城市佐敷字佐敷1678-202

TEL 098-948-3829

カテゴリ 健康・福祉

地域の高齢者を招き、手作り料理でもてなす交流会を開催

平均年齢70代、22名のメンバーで構成される(2021年12月現在)つきしろ区の健康づくりボランティアサークル“たんぽぽ会”。いつまでも健康で安心して暮らせる地域づくりを目指し、県社会福祉協議会が推進する“ゆいまーる拠点カフェ”に申請。これまでの実績が認められ、活動費100万円の補助金交付が無事に決定。2017年から活動を開始した。

会の拠点である“友愛の里つきしろ”で行われた開所式では、志喜屋会長が「自治会をはじめ多くの事業所の協力を得て、みんなが集い語り支え合えるカフェ事業に取り組んでいく。」と挨拶。自治会の役員も加わった会のメンバーが、地域の高齢者を招いて手作り料理でもてなすという交流会の取り組みがスタートした。

週1回の開催で、毎回20名程が参加。交流会の他にも、地域の環境美化に取り組むことで身体を動かしたり、社協から講師を招いて認知症予防の勉強会も行っている。

活動の中で会話も弾み、それぞれの状況も分かるようになってきたため、日常生活の中でもお互い声を掛け合う等、地域コミュニティの活性化にも繋がっているようだ。

そのため、補助金の交付が終了した後も、地域の企業等からの支援を得て活動を継続しているという。(現在はコロナ禍の影響を鑑み休止しているが、再開を求める声も多くあるため、状況をみながら調整中とのこと。)

「今後も課外活動に積極的に取り組み、高齢者の外出支援等をサポートし、さらなる住民同士の関わりや高齢者の健康支援を目指したい。」2010年からつきしろ自治会長を務め、会の活動にも参加している新城さんは語ってくれた。



名護市大浦区

住所 名護市字大浦160 **TEL** 0980-55-8606

カテゴリ 観光・地域交流／地域の魅力発見

地域活性化の拠点として、コミュニティセンターの建設を計画中！

自主財源の確保や担い手・住宅不足など、区の課題について住民みんなで話し合うワークショップを2019年から2年間で10回ほど開催している。その中で、住民が自発的に“経済チーム”と“暮らしチーム”を結成。経済チームは、空いた土地を活用しバナナや野菜を栽培。区内にある“わんさか大浦パーク”の直売所で販売を始め、少しではあるが収入を得ている。暮らしチームは、地域の高齢者の孤立防止や防災、子供育成等について、若者を中心に議論を重ねているそうだ。

地域の文化や自然、防災、子育て、そして前述した課題解決のための拠点として、老朽化している集落センターを次世代型コミュニティセンター(2階建て)として再建させる計画が進行中であり、ワークショップを元に区主体で基本構想計画作成し行政へ要請も行った。災害時の避難所を想定している2階フロアは、平常時に宿泊施設として運営ができれば収益にもつながる。イベントや日々の活動により、地域のさらなる活性化も期待され住民が待ち

望む再建計画だが、大きなお金も動くため、すぐに着工とはいかない。現在は名護市議会での継続審査という形でやりとりが詰めの段階に入っているそう。

移住定住の先進地である東村への視察も行った。移住者からのニーズや住宅の間取り等学べき点は多く、大浦区での移住定住者向け住宅の建設に向けて、方向性を固めることができたようだ。

ただ、「コミュニティセンターや住宅等を建てるのがゴールではない。住民1人1人が楽しいと思えることに共に取り組み、持続していける地域にしなければならない。」と宮里区長は話す。“住み続けたい、帰ってきたい大浦”というスローガンの実現に向け、地域が一つとなりチャレンジを続けている。



白保魚湧く海保全協議会

TEL 090-6863-1717

カテゴリ 環境保全

白保サンゴ礁を守るための集落一丸となった取組み

白保の海とその周辺の自然環境・生活環境の保全・再生と、サンゴ礁資源の持続的な利用による地域振興の両立を図ることを目標に、2005年「白保魚湧く海保全協議会」が設立された。

白保サンゴ礁海域の利用に関する自主ルールの制定や、伝統的漁具「海垣」の復元・活用、白保サンゴ礁での赤土堆積量調査。毎回20～30名ほどが集まる月1回のビーチクリーン活動、先人からの教えを子どもたちに繋いでいくための出前授業・自然体験等、様々な活動を行っている。

子どもたちには、「電気のムダ使いはやめよう。」「ゴミのポイ捨てはダメだよ。」等、日常の場面に即して分かりやすく伝えるよう心掛けています。近頃では、SDGsの考え方がメディアでも取り上げられているため、子どもたちの環境への意識は高く、飲み込みも早いと感じるそうだ。

そして、環境保全＝手つかずではなく、活用するからこそ守られる。という考えの元、観光の推進にも取り組んでいる。以前は特に規制もなく自由であったが、前述した自主ルールは観光客向けにも定められており、海や集落内での注意点を守ってもらうことで、環境への負荷は減ってきているそう。

協議会には、漁業者やシュノーケリングを中心とする観光業者が関わっており、みんなで考えながら取り組んでいるという。「トップとは言葉だけで、実際リーダーは1番下から支える存在だと思う。」と代表の新里さんは言う。今後も、大切な海を守り地域の持続的な発展に寄与するため、集落をあげた活動は続いていく。



特定非営利活動法人 Okinawa Hands-On NPO

住所 沖縄市宮里3-17-25 (2F) TEL 098-936-6868

カテゴリ 子どもの健全育成／地産地消・食育／観光・地域交流／人材育成

受賞歴 平成29年度 沖縄県地域振興協会 地域活性化助成事業 特別賞

うさがみそ〜れ〜！子ども菜園野外レストランでSDGsを学びながら地域と交流。

コロナ禍で行動が規制される中であっても、人や地域とのつながりを大切にしようと、雑草の生い茂った放棄地を活用し、菜園が作られた。地域のボランティアのサポートを得ながら、子どもたちが水やりに訪れ、無農薬の野菜を育てているという。

そこでの野菜を収穫し、地域の人たちと一緒に調理して食べるという「子ども菜園野外レストラン」と題された取り組みが、子どもたちにSDGsを考えてもらうためのきっかけになればと開催された。

地域の人々やボランティア、子どもたち50名ほどが集まり、シンメナービ（沖縄伝統の大型の丸底鍋）でカンダパー（葉かずら）ジュシーやウンチエパー（空心菜）のにんにく炒め等を作り、「うさがみそ〜れ（お召し上がりください）」と、しまくとうばで声を掛けながら配膳した。

参加した子どもたちからは、「地域の方の助言のおかげ

で美味しいご飯ができた。」といった喜びの声や、「自分たちもSDGsに取り組める一人だと分かった。友達にも伝えていきたい。」という前向きな声、「もっと色んなことを話せるようになって、昔のことを教えてもらいたい。」と、交流の深まりを期待する声もあった。家に帰ってからも、食品ロスの削減等、学んだ内容を意識して取り組む姿も見られたとのこと。

イベントを担当した具志堅さんは、今後も、子どもたちが生まれ育った地域に関心を持ち、異世代交流の懸け橋ともなれるよう、民生委員と共に活動を継続していく予定だという。「子どもたちの成長に合わせて、学びのプログラムも開発できたら。」との意気込みを語ってくれた。





Ryu愛スポーツ

カテゴリ 人材育成

スポーツの健全な発展を通して、大好きな沖縄に貢献！

代表の渡名喜さんは、県外の大学で野球部のキャッチャーとして活躍していたが、時のケガでプロを目指すことを断念。沖縄に戻り、現在は琉球大学に籍を置いている。自身のケガにより、身体のケアや過剰な負荷をかけないトレーニングの重要性を痛感し、同じ思いを抱く理学療法士の友人と共に任意団体を立ち上げた。地域スポーツの健全な発展を通して沖縄に貢献したい！という情熱をカタチにするべく、指導者向けの勉強会とスポーツ塾の運営に係る活動に精力的に取り組んでいる。

一部の強豪校は別だが、部活動や地域スポーツの指導者が、身体やトレーニングに対する専門知識を持っているかということ、現状はなかなか難しく県外との情報格差を実感してきた。沖縄でも多くの指導者に正しい知識を普及させ、その価値を周知していくこと。そして、ジュニアアスリートが自らの身体と向き合いスポーツに取り組める環境を作ること。この2つの目標実現を目指し、トレーニング理論と方法を学ぶ指導者向け勉強会と、母校での

ボランティアと実践を兼ねたジュニアアスリート向けスポーツ塾を定期的開催している。開催にあたっては、プロやメジャーで経験を積み、今でも繋がっている心強い仲間の協力も得ているようだ。

活動も2年目を迎え、勉強会に当初から参加したメンバーの多くが社会人となり、それぞれの持ち場で影響力を発揮することが今後期待されている。

また、現状ボランティアでの活動となっているが、勉強会予算の確保や、講師への適正な謝礼金など、持続可能な運営の仕組みを作ることが次のステップだという。「仲間と共に、スポーツを通して日本や世界と戦える力を持った沖縄を目指したい！」と、渡名喜さんは熱く語ってくれた。



島尻パーントゥ購買店

住所 宮古島市平良島尻533 TEL 0980-72-5258

カテゴリ 健康・福祉／観光・地域交流

購買店を起点に、地域一丸となった活性化への取り組み

転機が訪れたのは、2018年～の3年間、“購買店を中心とした地域活性化につながる仕組み作り”をミッションに活動した地域おこし協力隊の井上さんが来てからだろう。当初、購買店の運営母体は自治会が担っていたため、ここに注力できる人材が不足していた。そんな中、着任した井上さんは、「まずは、私1人でもできることから始めてみよう。」と、集落内の地図を作成。道に迷う観光客の姿をよく目にしていたからだ。また、うまくPRできれば、観光客にも購買店を利用してもらえるかもしれない、との考えもあった。併せて、看板を作り、SNSでも発信してみると、少しずつ来店が増え始めた。そしてこの頃から、井上さんの取り組みが地域住民に認知され、徐々に信頼関係が構築されていったという。

それからは、パーントゥ(厄払いの来訪神)をモチーフにしたTシャツをデザインしたり、購買店の一角に食事スペースを作ったり。地域のためになると思ったことは積極的に動き、その結果、地域の協力もスムーズに得られて形

になっていった。食事スペースはその後、軽食を提供する食堂にまで発展したそうだが、開店直後は「地域にこんなに人がいたのか。」と驚くほどお客さんが押し寄せ、てんてこまいな状況だったそう。

また、地域のハブ的な役割も担っているため、いつもの時間に来店しないおじい・おばあがいれば状況を確認しに行くなど、見守りとしての機能も果たしてきたという。

今後は、買い物に不便な近隣地域へ移動販売の協力や、隣の集落にある購買店との連携も模索されているそう。家の冷蔵庫代わりのように日に何度も来店するおばあのためにも、購買店を起点とした、よりよい地域作りが期待されている。



Contents

地域づくりの参考となる事例

- 56 宜野座村オープンガーデン実行委員会／宜野座村文化のまちづくり事業実行委員会
特定非営利活動法人 雄飛ツーリズムネットワーク／金武町商工会
- 57 一般社団法人 金武町観光協会／金武町教育委員会社会教育課(図書館)
金武町青年団協議会／金武町体育協会
- 58 金武町青少年健全育成連絡協議会／辺土名大通り会
大宜味村商工会／伊江村字西江上区
- 59 一般社団法人 アトリエみらい／名護市青少年育成協議会 羽地支部
沖縄地域公共政策研究会 自治会コミュニティ研究・支援チーム／喜仲自治会
- 60 南風原区自治会／宮前区自治会
うるま市ヌーリ川桜会／花と緑のまちづくりコンクール実行委員会
- 61 一般社団法人 中部地区婦人連合会／長田川清流会
うるま市勝連南風原集落／特定非営利活動法人 防災サポート沖縄
- 62 「地域に花と緑を」イッペー会／沖縄市 山内自治会
平安座自治会／天願生き活き会
- 63 石平家人衆(やーにんじゅ)会／地域むすびくらぶ
南大東村 青年連合会／南大東村 婦人会
- 64 南大東村 体育協会／STEMおきなわ
一般社団法人 災害プラットフォームおきなわ／那覇市協働によるまちづくり推進協議会
- 65 米須自治会／特定非営利活動法人 かなえ
公益社団法人 沖縄県工業連合会／おきなわアジェンダ21県民会議
- 66 社会福祉法人 八重瀬町社会福祉協議会／株式会社 沖縄ファミリーマート
バーキの里うくく会／一般社団法人 南風原町観光協会
- 67 おもろまち自治会／八重瀬町字東風平エイサー保存会
マヒナジーモ854／新城自治会
- 68 美ぎ島宮古グリーンネット／博愛の里上野地域づくり協議会
竹富町小浜集落／平久保サガリバナ保存会
- 69 干立公民館／石垣市久宇良地区
八重山ヒト大学／石垣島ニライキャンパス(石垣市公営塾)



北部

宜野座村オープンガーデン実行委員会

事例概要 花の村づくり(オープンガーデン)による景観美化及び観光振興

カテゴリ 環境保全／経済の活性化／まち／観光交流 **TEL** 098-968-5125

【活動の内容】 オープンガーデンの実施。観賞券に付属するパンフレットに村内の観光資源及び飲食店情報を掲載。

【活動の成果や周りへの影響】 村内で花いっぱい運動が浸透し始めているとともに、ガーデニングをする家庭が増え続けていることから、景観美化に繋がっている。

【他の団体や人材との関わり】 村観光協会、村商工会、村緑化振興会、各区事務所と連携し、庭主の発掘や観光振興を図っている。

北部

宜野座村文化のまちづくり事業実行委員会

事例概要 文化の魅力発信及び人材の育成

カテゴリ 子どもの健全育成／まちづくり／スポーツ文化／観光交流／人材育成 **TEL** 098-968-5125

【活動の内容】 村民が質の高い芸術公演に触れる機会の確保や、文化を通じた交流の機会を提供する。

【活動の成果や周りへの影響】 新聞や雑誌などに事業紹介されることが多々あり、村の知名度向上及び村外からの誘客率が増加傾向となっている。

【他の団体や人材との関わり】 国内外の著名なアーティストや芸術家とのネットワークの構築ができ、ホールでの公演、学校や観光・福祉施設へのお出かけ公演が可能となっている。

北部

特定非営利活動法人

雄飛ソーリズムネットワーク

事例概要 金武町の豊かな自然を活用したイベント「金武町たんぼフェスタ」

カテゴリ 環境保全／子どもの健全育成／まちづくり／観光交流／人材育成 **TEL** 098-968-6117

【活動の内容】 自然体験学習施設ネイチャーみらい館をメイン会場に、たんぼ遊び体験やマングローブカヌー体験等、本町の魅力ある自然・文化を体験、発信する活動を行う。

【活動の成果や周りへの影響】 毎年、5000名以上が参加するイベントとして県内外に定着している。本町の人口の約半数が1日で来町しており地域産業への効果もあると考えられる。

【他の団体や人材との関わり】 各種体験の講師は町内事業者であることからPR活動の場となる他、地域の青年会や専門学校のボランティアも毎年100名程参加している。

北部

金武町商工会

事例概要 新開地クリスマスイベント：「社交業のど自慢大会」「新開地野外スペシャルコンサートライブ」

カテゴリ 経済の活性化 **TEL** 098-968-2491

【活動の内容】 金武町社交飲食業組合の構成組員店舗のお客様やキャンプハンセン、一般企業や町民等、多様な出場者によるのど自慢大会と、バンド演奏やヒップホップダンス等のステージパフォーマンスによるスペシャルコンサートライブ。

【活動の成果や周りへの影響】 毎年このイベントを楽しみに問い合わせをして訪れる方々もあり、認知度が増したことが伺える。

【他の団体や人材との関わり】 多数の来場者があり、地域交流のイベントとして定着してきている。

北部

一般社団法人 金武町観光協会

事例概要 スポーツコンベンション事業：金武町ヘプロ・アマチュアのスポーツ競技者・団体を誘致

カテゴリ スポーツ文化 **TEL** 098-989-5674

【活動の内容】 スポーツを通し、金武町ヘプロ・アマチュアのスポーツ競技者・団体を誘致するなど、積極的な受入体制を推進することにより、本町の魅力ある文化、観光、産業、特産品のプロモーション活動を行う。

【活動の成果や周りへの影響】 昨今のコロナ禍の影響を踏まえ波及効果はコロナ終息後に現れると考えられる。

【他の団体や人材との関わり】 今後は、行政のみならず商工会、観光協会等の連携強化を目指し、横断的な組織（例：協力会）の設立が必要。

北部

金武町教育委員会社会教育課(図書館)

事例概要 金武町の景勝地、名物等を「かるた」にして、町内外及び海外交流先へ配布

TEL 098-968-5004

【活動の内容】 沖縄県や金武町の歴史、民俗、文化、人物、史跡、名勝、産業、自然、くらし、伝統行事などを盛り込み、町内五つの区を網羅したオリジナルのかるたである。

【活動の成果や周りへの影響】 幅広い世代が楽しく遊びながら学ぶことができ、地域への理解を深めることができる。また、県内外へ金武町をPRすることができる町の新たなツールを作成することができた。

【他の団体や人材との関わり】 町内の学校や各区学童等における活用をはじめ、県内外の交流先や海外町人会の方との交流に活用し、本町への興味・関心が高まることを期待する。

北部

金武町青年団協議会

事例概要 町内各区青年会を取りまとめ、各区青年会の成長に必要な、様々な事業を展開

カテゴリ 人材育成 **TEL** 098-968-8996

【活動の内容】 各区青年会に活躍の場を提供するため、町内外の様々なイベントへの出演手続きや、町青年エイサー祭りの開催を主催して実施している。

【活動の成果や周りへの影響】 町青年エイサーまつりは、開催して20年目を数え、主催する青年団協議会の会員は、事業を成功させるための手段や資金繰り等、自ら企画し、実施することにより、各会員の成長に繋がっている。

【他の団体や人材との関わり】 県の青年団協議会や他市町村の青年団と交流しており、各市町村の青年会の活動内容等、情報交換を行っている。

北部

金武町体育協会

事例概要 球格技大会の開催

カテゴリ スポーツ文化 **TEL** 098-968-8996

【活動の内容】 各種競技の開催、郡体協の事業への参加、体育行事の普及振興等。

【活動の成果や周りへの影響】 国頭郡球格技大会において平成26年から令和元年まで3連覇を含む総合優勝を4回成し遂げた。また、沖縄県民大会では国頭郡代表として町内から毎年40名選出されている。

【他の団体や人材との関わり】 金武町各区スポーツ振興会と連携し、若い世代へ各種目への参加を促す。



北部

金武町青少年健全育成連絡協議会

事例概要 青少年の健全育成のために、関係機関と連携し、様々な事業を実施

カテゴリ 子どもの健全育成 **TEL** 098-968-8996

【活動の内容】 不審者情報があった際等には、各区支部と連携し、児童・生徒の帰宅する放課後に、青色回転パトロールを実施している。

【活動の成果や周りへの影響】 昨年の年末には不審者情報が多発したが、その後毎日青色回転パトロールを実施したことにより、不審者情報がなくなった。

【他の団体や人材との関わり】 うるま市石川警察署や各区事務所、PTA等の関係機関と連携し、情報交換を行っている。

北部

辺士名大通り会

事例概要 情報発信や、イベントの企画立案

カテゴリ 経済の活性化／まちづくり／観光交流 **TEL** 0980-41-5116(国頭村商工会)

【活動の内容】 辺士名大通り祭りや花いっぱい運動、クリスマスイルミネーションなどのイベントを実施。地域資源を生かしたワークショップの開催や、商店街のパンフレット作成など精力的に活動を行っている。

【活動の成果や周りへの影響】 中心地域である辺士名大通りが盛り上がることにより、地域住民が商店街に集い賑わいが増した。

【他の団体や人材との関わり】 辺士名商店街の中心拠点である辺士名大通り会案内所は、国頭村民同士の交流拠点や観光案内拠点となっており、村内外問わず交流を深めている。

北部

大宜味村商工会

事例概要 防風林帯の植樹・育林活動

カテゴリ 環境保全 **TEL** 0980-44-3442

【活動の内容】 防風林帯の植樹・育林活動を会員、関係機関、地域住民などで行う。

【活動の成果や周りへの影響】 災害に強い島づくりへの基盤形成に向けた意識づくりや、防風林の重要性を再認識し、安定した生産活動の充実、そして地域の環境教育の場として普及啓発が図られている。

【他の団体や人材との関わり】 植樹・育林後の維持管理等を地域住民の方々と協同で実施している。

北部

伊江村字西江上区

事例概要 高収益作物の導入によるUターン新規就農者、後継者の増加

カテゴリ 経済の活性化／観光交流／人材育成 **TEL** 0980-49-2246

【活動の内容】 「進取の精神」(イーハッチャーの気質)による農業用水の確保で、高収益農業の発展を図り、地域の所得向上、担い手の確保、定住促進を目指す。

【活動の成果や周りへの影響】 村内人口が減少傾向から横ばいとなってきている。

【他の団体や人材との関わり】 県内外からの修学旅行などを対象とした農林水産業体験型の民泊が盛んに行われている。

北部

一般社団法人 アトリエみらい

事例概要 地域のスポーツクラブの子供達に農業体験を実施

カテゴリ 子どもの健全育成 **TEL** 0980-52-4848

【活動の内容】無農薬で水稻を行っている農家をお願いをして、農業への理解を深めるお話をしてもらったり、実際に鎌を使用しての稲刈り収穫体験を提供している。

【活動の成果や周りへの影響】親子のコミュニケーションを取りながら、一緒に農作物を収穫する楽しさを学ぶことが出来たとの報告や、自分の畑を提供してみたいとの農家からの申し出など、周辺に色々な影響を与えている。

【他の団体や人材との関わり】沖縄農福連携協議会という団体と協力して色々な農作物の収穫体験を行うことで、子供達が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることが出来るよう、積極的に食育に取り組んでいく。

北部

名護市青少年育成協議会 羽地支部

事例概要 羽地子ども豊年祭 **カテゴリ** 子どもの健全育成／スポーツ文化／人材育成

TEL 0980-58-1221 **受賞歴** 平成29年度 沖縄県地域振興協会 地域活性化助成事業 特別賞

【活動の内容】羽地地域では、行政区15区中12区が豊年祭を開催しており、文化・芸能が盛んな地域である。各区に引き継がれている郷土芸能の継承促進と、羽地地域の文化芸能の推進を目的に、「羽地子ども豊年祭」を実施しており、演舞や演出等実行スタッフのほとんどが子ども達を中心に構成されている。

【活動の成果や周りへの影響】司会・舞台演出等、実行スタッフに子ども達を交え、文化体験学習の場とし、子どもたちにしっかりと伝統芸能が引き継がれており、伝統文化継承のモデルとなっている。

【他の団体や人材との関わり】司会のための方言、演舞のための指導を地域の大人から受け、地域の人とのコミュニケーションが構築された。

中部

沖縄地域公共政策研究会 自治会コミュニティー研究・支援チーム

事例概要 自治会におけるオンライン会議の活用を支援

カテゴリ まちづくり／人材育成

【活動の内容】オンライン会議活用を支援するため、zoom講座や地域活性化を考えるオンラインイベントを実施した。

【活動の成果や周りへの影響】自治会、老人会や婦人会等の方々にもオンライン活用ニーズがあることが分かった。

【他の団体や人材との関わり】大山自治会の協力を得て、ニーズ調査や参加呼びかけ、事業の実施まで行った。

中部

喜仲自治会

事例概要 3世代交流で地域活性化

カテゴリ 子どもの健全育成／まちづくり **TEL** 098-979-0503

【活動の内容】夏休みに親子で参加する陶芸教室。遺跡、史跡ガイドによるフィールドワークなど。

【活動の成果や周りへの影響】地域の素晴らしさを知ること、愛郷心が育まれ、誇りを持つことができ、住民同士の絆が生まれる。

【他の団体や人材との関わり】世代間交流。



中部

南風原区自治会

事例概要 南風原区ガンヤー祭保全事業

カテゴリ スポーツ文化 **TEL** 098-978-2235

【活動の内容】 ※ガンヤー祭は、12年に1度しか行われない祭事です。

前回開催(平成20年)時の経験者及び近年開催した近隣区より講師を招き、12年前に開催された内容を確認、また、本来の在り方等を確認する。映像及び画像等による資料を専門家に依頼し作成する。

【活動の成果や周りへの影響】 次回開催(12年後)に向け、当該事業に対する区民の意識を高め、参加者の増加を狙う。

【他の団体や人材との関わり】 青少年や地元子どもたちに12年後の開催に向けて意識を高めていく。

中部

宮前区自治会

事例概要 宮前区自治会創立70周年地域活性化事業

カテゴリ 環境保全／健康福祉／経済の活性化 **TEL** 098-965-1113

【活動の内容】 創立70周年記念のグランドゴルフ大会。

【活動の成果や周りへの影響】 地域の絆構築を合言葉に、区民全員が集える70周年記念宮前区祭りを計画するも、新型コロナ感染症拡大ため、宮前祭りを断念。屋外行事に転換し、30名以内のグランドゴルフ大会を3回実施。自粛生活の中、区民が笑顔で楽しんだ。創立70周年記念式典は、ガイドライン順守で時短・規模縮小で実施。功労者への感謝状贈呈を完了できた。

【他の団体や人材との関わり】 青大会に参加した区民、式典で感謝状を受け取った功労者。

中部

うるま市ヌーリ川桜会

事例概要 桜並木めぐりや桜若木の植栽

カテゴリ 環境保全／まちづくり

【活動の内容】 桜並木めぐりや桜若木の植栽を行い、参加者の環境保全・美化に関する意識を高めつつ、参加者同士の交流を図る。

【活動の成果や周りへの影響】 桜若木の植栽や桜並木めぐり、そしてカヌー体験教室を開催したことで、デイサービス利用者、市、県民観光客との交流が活発になった。

【他の団体や人材との関わり】 桜の開花状況について観光ホテルや県民からの問い合わせが増加した。

中部

花と緑のまちづくりコンクール実行委員会

事例概要 花と緑あふれる街づくり

カテゴリ まちづくり **TEL** 098-939-1122

【活動の内容】 中部広域市町村圏内の9市町村が美化・緑化活動を行う方々を推薦、主催者による審査を経て、入賞校を表彰する。

【活動の成果や周りへの影響】 コロナ禍において地域の人々が集まる機会が少ない中、工夫を凝らし個々人の活動を中心に緑化活動に取り組んでいた。

【他の団体や人材との関わり】 入賞された団体を、沖縄タイムスにて発表。

中部

一般社団法人 中部地区婦人連合会

事例概要 日常生活や活動で感じたことを島くとうばで発表

カテゴリ まちづくり

【活動の内容】参加者は、日常生活や活動の中での自身の思いをジェスチャーなどを交えて熱弁を振るった。

【活動の成果や周りへの影響】各地の島くとうばに接する機会を創出しすることにより、島くとうばの良さを学び、会員相互の親睦と和を深めた。

【他の団体や人材との関わり】幅広い世代の参加者。

中部

長田川清流会

事例概要 河川環境保全活動及び親水環境の形成を通じた子供たちへの環境教育

カテゴリ 環境保全／子どもの健全育成

TEL 098-956-1207

【活動の内容】河川沿いの草刈り清掃活動、植樹、育樹活動、親水環境の形成。

【活動の成果や周りへの影響】長田川沿いの河川環境の改善が進んでおり、親水性が高まる。将来的には子供たちの自然環境教育を実施する予定。

【他の団体や人材との関わり】地域住民への活動参加の呼びかけ、環境改善による子供たちへの教育効果について啓発し、活動の普及を目指す。

中部

うるま市勝連南風原集落

事例概要 オクラを中心とした地域づくり

カテゴリ 子どもの健全育成／経済の活性化／観光交流

TEL 098-978-2235

【活動の内容】地域リーダー育成のため、栽培技術を支援し、オクラを中心とした地域活性化に取り組む。

【活動の成果や周りへの影響】県立中部農林高校と連携して「オクラ麺」を開発。メディアで取り上げられるなど反響を呼び、日本学校農業クラブ全国大会でも高い評価。周辺地域にも影響を及ぼし、中部地域のオクラ作付け面積増加。

【他の団体や人材との関わり】県立中部農林高校の女子グループ。

中部

特定非営利活動法人 防災サポート沖縄

事例概要 「災害時避難行動要配慮者・災害時避難行動要支援者避難支援事業」の実施

カテゴリ まちづくり

TEL 098-923-4442

【活動の内容】消防・警察OBで構成され、長年の職務経験を活かし、自主防災組織の結成と育成、災害時における自主防災サポートのあり方などを指導助言している。

【活動の成果や周りへの影響】災害時避難行動要配慮者対策は地域内で組織した自主防災組織が行う事になる為、各地域から取り組むたいとの申し出がある。

【他の団体や人材との関わり】地域住民・自治会・市町村社協等。



中部

「地域に花と緑を」イッペー会

事例概要 美化・緑化活動

カテゴリ 環境保全／まちづくり **TEL** 098-964-3206

【活動の内容】 雑草や雑木が伸び、粗大ごみ・生活ごみが捨てられていた市道東山11号線沿いの除草作業、花木と樹木の植栽活動。

【活動の成果や周りへの影響】 沿道は日常生活の道路としても愛着の持てる道として「心豊かな花のあるイッペーちゅら道」に変わった。

【他の団体や人材との関わり】 地域の企業や自治会には、大がかりな枝打ち作業や整地の際には重機を出し、肥料、水の提供もしてもらっている。また、台風対策用パイプ支柱打ち込み作業時は、警察学校の生徒たちがボランティアで協力してくれた。

中部

沖縄市 山内自治会

事例概要 ヤマモモの里復活で地域活性化

カテゴリ 環境保全／経済の活性化／まちづくり **TEL** 098-933-4792

【活動の内容】 山内は昔からヤマモモの産地として名を馳せた。伝承では約500年前に尚円王の子と言われる山内昌信（山内大名神としてお宮に祀る）が中国留学の際、苗を持ち帰り、山内の地に植え広めたという。戦後は色んな開発等によりその殆どが消滅し、現在は屋敷内や公園等でしか見かけなくなったが、種からの発芽や取り木、接ぎ木等で苗を作り、地域に普及させる取り組みを行っている。

【活動の成果や周りへの影響】 実を食べるだけでなく、地域の方とジュースやゼリーに加工した。

【他の団体や人材との関わり】 地域住民

中部

平安座自治会

事例概要 わくわく共和国IN平安座島・ウフバンタ構想策定事業

カテゴリ 観光交流 **TEL** 098-977-8127

【活動の内容】 昔の生活道であったウフバンタ石畳道を復元整備し、活用することにより地域活性化を目指す。また、特産品であるびサングッチポーポー（伝統菓子）のブランド化。

【活動の成果や周りへの影響】 ウフバンタ石畳道を整備し、山道脇に桜・椿の花木等を植樹予定。今後、ウフバンタ石畳道を観光資源として、さらに避難道として活用していく。また、自治会館横にサングッチポーポー販売店舗を開設したことで、島外からの購入者が増加し地域が賑わいを見せている。地域住民雇用・収入の場の創出に寄与した。

【他の団体や人材との関わり】 県麦生産組合に協力をいただき、サングッチポーポーの原材料である小麦栽培を島内の畑で開始した。今後、近隣島しょの自治会とも連携し新商品の開発に取り組む予定。

中部

天願生き活き会

事例概要 「自然環境の保全、緑化、河川愛護」の活動を通して地球温暖化防止を叫ぶ

カテゴリ 環境保全 **TEL** 098-972-3573

【活動の内容】 地域の景観は、地域の人々の「顔」と「アイデンティティ」の表れであるという認識の下で本会を立ち上げた。河川や道路沿いを「緑いっぱい、花いっぱい」に整美し、区民、市民に散策と「安らぎ、癒し、憩い」の場を創り出すため、毎月第2土曜日に緑化活動を続けている。

【活動の成果や周りへの影響】 環境保全、緑化活動を通して現在最重要視されている地球温暖化問題を住民1人1人が意識し、低炭素化社会への取組みに向けた足がかりとすることを本会の最終目標にしている。

【他の団体や人材との関わり】 環境問題に関するシンポジウムの自主開催、視察研修会や他団体との交流会などを行っている。

中部

石平家人衆(やーにんじゅ)会

事例概要 石平家人衆会 桜小路まつり **カテゴリ** 環境保全／まちづくり／観光交流

受賞歴 平成30年度 沖縄県地域振興協会 地域活性化助成事業 特別賞

【活動の内容】 普天間川沿い管理道路を桜小路と命名し、「桜小路まつり」を開催。地域に癒しの空間を提供し、中部の桜の名所として観光にも役立てている。

【活動の成果や周りへの影響】 地域の絆がより深まり、地域への誇りと地域愛の強化が図られた。

【琉歌】石平ぬ川に 桜花咲きゆい 島人ぬ心 思い深さ

【他の団体や人材との関わり】 まつり終了後も村内外から多くの方が訪れている。また、桜小路を普天間川流域の市町村へ発信し、交流を行っている。

中部

地域むすびくらぶ

事例概要 配食・学び事業を通した、子どもたちの応援活動

カテゴリ 子どもの健全育成

TEL 090-4357-5100

【活動の内容】 フードパントリーmam(ひとり親世帯と就学援助世帯対象の無償配食支援事業)、くがにっ子MANABI(スPOCHャ体験、クリスマス会など児童の体験活動事業)、学生スマイルマルシェ(企業、団体、県社協と連携し18歳以上の学生へ食品や生活用品を無償配布するイベント事業)

【活動の成果や周りへの影響】 配食支援やイベントは、コロナ禍で厳しい状況が続いている児童家庭や学生の応援になっている。体験活動事業は、多忙な保護者に代わって多岐にわたる活動体験を行っており、児童の心身を育む一助になっている。

【他の団体や人材との関わり】 フードバンクセカンドハーベスト沖縄、おきなわ子ども未来ランチサポート、その他、県社協や様々な企業と連携。

南部

南大東村 青年連合会

事例概要 島の文化活動 **カテゴリ** 子どもの健全育成／まちづくり／人材育成

【活動の内容】 島の文化活動である、エイサー、江戸相撲(豊年祭)、各種行事の手伝いなど重要な役割を担い、地域活性化の起爆剤となった。

【活動の成果や周りへの影響】 島外へ出た青年が、島の青年会活動に参加することで、帰郷するきっかけづくりとなった。

【他の団体や人材との関わり】 島内各種企業、組織(役場含む)

南部

南大東村 婦人会

事例概要 婦人会活動 **カテゴリ** 健康福祉／まちづくり

【活動の内容】 老人家庭への弁当作りや、地域文化継承活動。

【活動の成果や周りへの影響】 女性の得意とする文化活動を研究・維持・継承することができた。

【他の団体や人材との関わり】 島内各種企業、組織(役場含む)



南部

南大東村 体育協会

事例概要 体協活動

カテゴリ スポーツ文化

【活動の内容】 職域大会、南北親善交流大会、全島運動会、島一周駅伝大会等。

【活動の成果や周りへの影響】 定期的に運動する機会を作るためにも、重要な活動となっている。特に南北親善交流大会は、総務として重要な役割を受け持っている。

【他の団体や人材との関わり】 島内各種企業、組織（役場含む）。南北親善交流大会は、北大東島との唯一の交流となっている。

南部

STEMおきなわ

事例概要 COVID-19第2波においても学びを止めない教育チャレンジ事業

カテゴリ 子どもの健全育成／人材育成

【活動の内容】 新型コロナウイルス感染症対策で県内の学校は休校を余儀なくされた。休校でも、オンライン授業で子ども達の学びを止めないようにするため、教員へのICT指導力養成出前授業を行った。

【活動の成果や周りへの影響】 児童が貸し出し端末を持ち帰れることで、端末を持たない児童でも自宅学習が可能となり、グループプレゼンテーションなど遠隔学習が展開できた。

【他の団体や人材との関わり】 教員がシンポジウムに登壇し、実践事例紹介と成果報告を行った。

南部

一般社団法人

災害プラットフォームおきなわ

事例概要 アンダーコロナにおける地域防災モデル調査事業

カテゴリ 環境保全／子どもの健全育成／健康福祉／まちづくり／スポーツ文化

【活動の内容】 コロナ禍の中、大規模災害が複合的に発生した場合を想定し、地域における学校施設（指定避難所）を広く活用する地域防災モデルの調査・検証を行った。

【活動の成果や周りへの影響】 小学校区まちづくり協議会や市内小学校、社会福祉協議会とも連携体制を確認することができた。

【他の団体や人材との関わり】 コミュニティラジオFM那覇で「Okinawa B-camp」の放送開始。本事業での取り組みやその他防災関連の発信を行った。

南部

那覇市協働によるまちづくり推進協議会

事例概要 地域美化活動

カテゴリ 環境保全／まちづくり

TEL 098-955-2282

【活動の内容】 那覇市民憲章推進協議会との共催で、豊かな人間性を育み、住み良い都市環境づくりに寄与することを目的とした、「沖縄県クリーン・グリーン・グレイシャス（CGG）運動」と連動して、市内において、地域美化活動を行った。

【活動の成果や周りへの影響】 協議会の活動を周知することが出来た。

【他の団体や人材との関わり】 那覇市民憲章推進協議会との共催を行った。

南部

米須自治会

事例概要 米須村丸ごと生活博物館、地区環境協定によるふるさとづくり

カテゴリ 環境保全／まちづくり **TEL** 098-997-4566

【活動の内容】 米須地域全体を博物館とみなし、地域案内コースとマップを設置し、地域の紹介を行っている。また、花いっぱい運動等による美化活動、綱引、エイサー等の伝統文化活動に取り組んでいる。

【活動の成果や周りへの影響】 地域住民が交流する場の増加、若い世代の住民の増加により、地域が活性化している。

【他の団体や人材との関わり】 博物館利用者は、他地域の生徒・児童、大学生、建築士会と幅広く、様々な利用者と地域との交流が行われている。

南部

特定非営利活動法人 かなえ

事例概要 地域の子どもたちへ健全育成のための支援

カテゴリ 環境保全／子どもの健全育成／まちづくり **TEL** 098-996-2510(まつみ福祉会内)

【活動の内容】 下校時の見守り活動／地域の美化活動／七夕やキャンドルナイト等のイベント開催／食事・学習支援を通じた居場所作り

【活動の成果や周りへの影響】 交通安全とともに顔見知りの関係を築いている／同様の活動をする団体が増え、植栽によりきれいな花が咲いている／子どもたちの思い出作りと、商店街との連携強化／挨拶ができるようになるなど、子どもに変化の兆しが見え始めた。

【他の団体や人材との関わり】 豊見城団地通り会、団地自治会役員、沖縄県緑化推進委員会、社会福祉法人まつみ福祉会・ゆたた福祉会、豊見城市社会福祉課

南部

公益社団法人 沖縄県工業連合会

事例概要 学校へ講師を派遣して行う職業講話

カテゴリ 子どもの健全育成／経済の活性化／人材育成 **TEL** 098-859-6191

【活動の内容】 依頼のあった学校に、企業の代表者や技術者等をゲスト講師として派遣し、講話を行う。

【活動の成果や周りへの影響】 講話後の児童・生徒からのアンケートで、職業について考えるきっかけ、地場産業への理解を深める機会となっていると窺える。

【他の団体や人材との関わり】 企業の代表者・技術者等の方々に講師登録していただき、各学校に派遣している。

南部

おきなわアジェンダ21県民会議

事例概要 みんなでつくる清ら島おきなわ

カテゴリ 環境保全／まちづくり／人材育成 **TEL** 098-945-2686

【活動の内容】 行政、企業、市民団体が連携して、環境保全の推進、地球温暖化防止活動、生物多様性の構築、循環型社会の構築、環境教育の実施・推進、SDGsの推進について実践。また、お互いの活動を支援する。

【活動の成果や周りへの影響】 徐々に活動は浸透し、企業からの寄付も広がりつつある。

【他の団体や人材との関わり】 会員同士や団体との連携ができ始めている。



社会福祉法人

南部

八重瀬町社会福祉協議会

事例概要 関係機関等との連携のもとに地域の支え合い体制を構築

カテゴリ 子どもの健全育成／まちづくり **TEL** 098-998-4000

【活動の内容】 地域における孤立解消に向けた取り組み、地域福祉の基盤づくり。

支え合い委員会設置／地域相談窓口の設置／地域福祉ネットワーク会議の設置／子ども居場所づくり／防災避難訓練

【活動の成果や周りへの影響】 個別支援や地域支援、支え合い委員会への後方支援をしてきた結果、住民の主体的な活動が芽生え、定着するとともに、社協の取り組みに住民が積極的に参加するようになった。

【他の団体や人材との関わり】 福祉施設や民間企業の見守りネットワークを拡げ、住民及び施設や企業の重層的な見守りを実施する。見守り協定を締結している事業所との情報共有や連携体制を強化。



南部

株式会社 沖縄ファミリーマート

事例概要 県産品の展示・販売棚を常設

カテゴリ 経済の活性化 **TEL** 098-867-2084

【活動の内容】 ファミリーマート那覇第2地方合同庁舎店にて、特産品の展示・販売を実施。

【活動の成果や周りへの影響】 お客様の利便性向上に繋がっている。

【他の団体や人材との関わり】 沖縄総合事務局沖縄市町村施策支援室との連携。



南部

バーキの里うくく会

事例概要 片手に竹の杖を持ってうくくの文化遺産を観ながらぶらぶら歩き、懐かしいひとときを過ごす。まち歩きうくくまーい。

カテゴリ 環境保全／経済の活性化／まちづくり **TEL** 098-947-6550

【活動の内容】 商工会からの予算で部落を整理し、マップも作成。せっかくなら多くの人に見てほしいと年に1回「うくくまーい」を開催。今では、予約があればいつでも対応している。

【活動の成果や周りへの影響】 初めは、人を呼ぶのに反対だった人も、褒められると嬉しくなる。花を植えたりするようになり、ウェルカム!な姿勢に。

【他の団体や人材との関わり】 訪れた人からも「この辺はステキ!」という声をもらっている。



南部

一般社団法人 南風原町観光協会

事例概要 南風原グルメマップ

カテゴリ 経済の活性化／まちづくり／観光交流 **TEL** 098-851-7273

【活動の内容】 webで飲食店情報と地域の紹介をしている。

【活動の成果や周りへの影響】 まだ立ち上げたばかりだが、掲載店舗からは喜びの声が届いている。

【他の団体や人材との関わり】 観光案内所で観光客に飲食店情報を聞かれることが多いので、このマップを案内している。

南部

おもろまち自治会

事例概要 「みんなの想火」イベント

カテゴリ まちづくり

【活動の内容】 那覇新都心の未来に向けたトークセッション。その後、竹あかりやランタンをともし、人々のつながりや街が持続的に発展するようにと願った。

【活動の成果や周りへの影響】 コロナ禍でも100名の地域住民が参加。

【他の団体や人材との関わり】 トークセッションには、映画監督の林弘樹氏、おせっかい協会会長の高橋恵氏をお招きし、繁多川公民館館長の南信乃介氏がコーディネート。ミュージシャン・中山春翠さんのライブもあった。

南部

八重瀬町字東風平エイサー保存会

事例概要 地域伝統資の継承をととしたコミュニティの活性化

カテゴリ スポーツ文化

受賞歴 令和元年度 沖縄県地域振興協会 地域活性化助成事業 特別賞

【活動の内容】 子ども達にエイサーや棒術の指導を行い、習得した成果を地域行事で披露する。

【活動の成果や周りへの影響】 子ども達の人材育成に寄与し、様々な世代の交流の輪を広げることができた。

【他の団体や人材との関わり】 老人施設等へ慰問公演を実施。

南部

マヒナジーモ854

事例概要 子どもの居場所マヒナジーモ学舎

カテゴリ 子どもの健全育成

TEL 098-854-3985

【活動の内容】 毎週水・土に子どもの居場所マヒナジーモ学舎を開いている。水は近くの高校や大学の学生さんが宿題をサポート。土は宿題や読書の後、みんなでお昼ごはんを囲む。

【活動の成果や周りへの影響】 専門職の視点から子どもたちのメンタルフォローも含め、地域の子育て世帯を支援するための活動となっている。

【他の団体や人材との関わり】 ボランティア会員は約20名。社会福祉士や看護師、ヘルパー、保育士、障がい者就労ジョブコーチ、福祉や教育の仕事を目指す学生さんも参加。

南部

新城自治会

事例概要 あらぐすくまちあるきマップ

カテゴリ まちづくり／スポーツ文化／人材育成

TEL 098-998-6952

受賞歴 令和3年度沖縄県地域振興協会 地域活性化助成事業 特別賞

【活動の内容】 地域の名所、旧跡、拝所の他、飲食店や企業などの情報を豊富に掲載したマップを作成。また、外国人にも対応できるように、英語版・中国語版も展開した。

【活動の成果や周りへの影響】 マップ作製をきっかけにWebサイトを立ち上げ情報発信力の強化を図るとともに、地域の多様なスキルを持つ人材を発掘活用することで、これからの地域を担う人材育成につなげている。

【他の団体や人材との関わり】 地域の人材、事業者等を巻き込みながら、活動を行っている。



宮古

美ざ島宮古グリーンネット

事例概要 防風林帯の植樹・育林活動

カテゴリ 環境保全 **TEL** 0980-73-8191

【活動の内容】防風林帯の植樹・育林活動を会員、関係機関、地域住民などで行う。

【活動の成果や周りへの影響】災害に強い島づくりへの基盤形成に向けた意識づくりや、防風林の重要性を再認識し、安定した生産活動の充実、そして地域の環境教育の場として普及啓発が図られている。

【他の団体や人材との関わり】植樹・育林後の維持管理等を地域住民の方々と協同で実施している。

宮古

博愛の里上野地域づくり協議会

事例概要 伝統行事継承、地域の祭りの開催、婚活行事の開催

カテゴリ まちづくり **TEL** 0980-79-7812(宮古市役場農村整備課)

【活動の内容】地域住民が集う「博愛の里上野まつり」や宮古島市内在住の二十歳以上の女性を募集して婚活パーティーなどを開催。

【活動の成果や周りへの影響】地域が活性化し、上野地域の人口下げ止まりに繋がった。

【他の団体や人材との関わり】地域の連帯感を高めるため、青年会、婦人会、子供連絡協議会等が連携して祭りを開催。

八重山

竹富町小浜集落

事例概要 製糖工場開業や、援農隊との交流、リゾート誘致

カテゴリ 環境保全／まちづくり／観光交流 **TEL** 0980-85-3156

【活動の内容】集落による製糖工場の買い上げによる開業。リゾートの誘致、共存、都市からの援農隊との交流。

【活動の成果や周りへの影響】定年Uターン者が小浜大豆を40年ぶりに復活。八重山農林高校と連携した大豆を使った地域おこしへの取り組み。H22に宇宙大豆プロジェクトに選ばれ、知名度が上昇している。

【他の団体や人材との関わり】リゾート企業と話し合い、地元優先雇用。地場産の農林水産物の調達。リゾート従業員の伝統行事参加。都市からの援農隊との交流。

八重山

平久保サガリバナ保存会

事例概要 サガリバナの維持管理活動

カテゴリ 環境保全／観光交流 **TEL** 090-9596-3746

【活動の内容】石垣島でもとくに原風景を今に残す平久保半島、その最北端の平久保川上流に「平久保サガリバナ植樹の森」がある。2005年平久保在住の米盛三千弘・邦子夫妻がサガリバナ群落を発見、保全活動を続けていた。それに共鳴した有志で2011年「平久保サガリバナ保存会」(米盛三千弘会長)を結成し、維持管理を行っている。

【活動の成果や周りへの影響】発見当初は自生約300本だったが今では植樹で約1000本に増え、車椅子でも近くで鑑賞できるとあって開花時には賑わいを見せている。

【他の団体や人材との関わり】平久保サガリバナ保存会主催の大清掃は、地元住民のみならず、石垣市や石垣市観光交流協会、各企業も加わり、定期的に実施している。2016年には「西表石垣国立公園」に編入された。

八重山 干立公民館

事例概要 干立憲章制定事業～住民による干立集落の保全と継承を目指して～

カテゴリ 環境保全／まちづくり **TEL** 0980-84-8484

【活動の内容】伝統的な集落の生活環境の保全（自然・伝統文化・風習等）を目的とした住民による地域憲章づくり。

【活動の成果や周りへの影響】住民合意の憲章制定に向けて住民参加型のワークショップを行って、地域の状況を住民が再認識して共有することができた。憲章を抑止力として観光開発の乱立を防ぐとともに、憲章により住民が地域の良さの共通認識を持つことで、集落の保全につながる。その結果、昔ながらの集落景観及び伝統行事等の継承を目指す。

【他の団体や人材との関わり】憲章を制定している竹富島や小浜島研修を通じて住民同士の交流が進んだ。

八重山 石垣市久宇良地区

事例概要 地域おこしと観光業者の乱立抑制

カテゴリ 観光交流

【活動の内容】観光事業の乱立抑制のため、観光事業（星空観測等）に対し、自治組織（公民館）が公認事業として認証する取り組み。

【活動の成果や周りへの影響】こういう仕組みが、地域を守り、観光業者としても問題が起きにくくなることを期待している。

【他の団体や人材との関わり】近隣の集落も動き始めている。

八重山 八重山ヒト大学

事例概要 島の魅力を発信する、フォトウォーク

カテゴリ まちづくり **MAIL** yaeyama.human.university@gmail.com

【活動の内容】実際にその足で歩き、その目で再発見した「島の魅力」を、「写真」というツールを通して発信する。

【活動の成果や周りへの影響】普段歩かない道を、違う視点を持つメンバーと歩くことで、コミュニケーションも楽しんでいる姿が見られた。イベント終了後も、休みの日に参加者同士でフォトウォークをしたりと新たな活動にも繋がっている。

【他の団体や人材との関わり】写真展は、テレビや新聞で取り上げられ、老若問わず、地元出身者が多く足を運んでくれた。

八重山 石垣島ニライキャンパス（石垣市公営塾）

事例概要 未来へはばたくためのキャリア教育

カテゴリ 環境保全／まちづくり／人材育成

【活動の内容】石垣島から未来に羽ばたいていく自立型人材の育成と、個々の進路サポートを行っている。（島そうじプロジェクト、島の農家さんお助けプロジェクト等）

【活動の成果や周りへの影響】ここでの取り組みの中で、それぞれが気づきや学びを得て、自分の進路（未来）へ飛び立っている。

【他の団体や人材との関わり】映画監督や元アナウンサーなど、様々なキャリアを持つ講師陣がサポートしている。

Contents

地域づくりに役立つ施策

- 72 民間の施策
- 74 市町村の施策
- 79 国の施策
- 82 県の施策

地域づくりに役立つ施策

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
民間 1	地域活性化 助成事業	①第1部 県内の地域づくり団体等が行うワークショップ・フォーラム・セミナー等、地域の振興及び活性化を目的に、地域づくりの担い手となる人材の育成及び地域づくりに関する情報の活用を図るための事業を募集し、応募されたものの中から所定の審査を経て選定された事業に対し助成を行う。 ②第2部 県及び市町村が行う大規模地域プロジェクトの取り組みを支援するため、応募されたものの中から所定の審査を経て選定された事業に対し助成を行う。	①営利を目的としない民間団体（自治会、NPO、青年会、PTA、任意団体等） ②沖縄県及び県内市町村	①90%以内、最大30万円 ②90%以内、最大100万円	公益社団法人 沖縄県地域振興協会 098-862-9390 http://oflp.jp/business
民間 2	地域振興事業	①地域の特性を活かした個性豊かな地域づくりを促進し、住民の健康で文化的な生活の確保に資するため、市町村等が自主的に行っているソフト事業等を対象に次の6事業に対し助成を行う。 「地域活性化推進事業」「地域産業振興事業」「地域環境保全推進事業」「地域文化振興事業」「地域国際交流推進事業」「地域情報化推進事業」 ②地域振興のための長期的な人材育成の観点から、児童・生徒の学力向上をさせるために地域が行う学習支援等に対して助成する「地域学力向上支援事業」を行う。	・市町村 ・広域市町村圏事務組合	①80%以内、最大150万円 ②80%以内、最大180万円（人口規模：20万人以上）等	公益社団法人 沖縄県地域振興協会 098-862-9390 http://oflp.jp/business
民間 3	コミュニティ 活動促進事業	地域住民が自主的に行うコミュニティ活動の充実を図るための事業（備品の購入）を募集し、応募されたものの中から所定の審査を経て選定された事業に対し助成を行う。	県内市町村	90%以内、最大50万円	公益社団法人 沖縄県地域振興協会 098-862-9390 http://oflp.jp/business
民間 4	地域振興 研究助成事業	沖縄県における地域の振興及び文化の高揚に寄与する調査研究を自主的に行おうとする県内の法人及び団体等を支援するため、その研究企画を募集し、提案されたものの中から所定の審査を経て選定された政策提案型の研究に対し助成を行う。	県内に主たる事務所を有する法人または団体。	90%以内、最大50万円	公益社団法人 沖縄県地域振興協会 098-862-9390 http://oflp.jp/business
民間 5	寄付と助成の プログラム たすく	NPOが市民・社会に対して積極的に情報を発信し、共感を得ることにより、市民・社会からの支援（寄付）を得られるよう、自ら積極的に活動しようとするNPOを支援するもの。同時に、信頼できる寄付先として、寄付による社会貢献を考える人々に提示することにより、NPOへの寄付を促進し、市民が互いに支え合う地域社会の実現をめざしている。	・沖縄県内に事務所を置くNPO・市民活動団体（法人格の有無は問わない。） ・団体の情報を積極的に公開していること。	助成団体の希望する金額。	公益財団法人 みらいファンド沖縄 098-884-1123 https://miraifund.org/
民間 6	りゅうぎん ユイマール 助成会 一般公募	沖縄県において県民のための社会福祉活動、環境保全活動を実施している個人・NPO法人ならびに任意団体への助成事業。	・助成対象のうち、公的助成を受けていないか、または公的助成の少ない団体等。 ・1年以上の活動実績がある個人、特定非営利活動法人、任意団体。 ※当基金から既に助成を受けた団体等は選考対象上、後順位となる。	最大20万円／1団体	りゅうぎんユイマール 助成会 098-860-3787 https://www.ryugin.co.jp/
民間 7	子ども居場所 づくりイベント 事業助成金	沖縄県において子ども居場所づくり等を実施している団体への助成事業。	・沖縄県内の子どもたちを対象に誕生日会、夏祭り、クリスマス会、もちつき大会など子どもたちが中心となり実施するイベント。 ・6カ月以上の活動実績がある非営利目的の団体・個人。	最大3万円／1団体	りゅうぎんユイマール 助成会 098-860-3787 https://www.ryugin.co.jp/
民間 8	お年玉募金による ボランティア 団体援助金	“世界の子どもたちの権利が守られ、平和に、健やかに成長できること”を願い、県内のボランティア団体に援助金を贈呈する取り組み。	ボランティア団体（沖縄県全域） ボランティア団体とは概ね、沖縄県の児童福祉（障がい児、要保護児童、母（父）子家庭、子育て支援に関わり、子ども（概ね18歳以下）を対象に支援を主たる目的に行う団体。	5万円／1団体	生活協同組合コープ おきなわ 098-879-1144 https://www.okinawa.coop/
民間 9	ろうきん・わした シマづくり運動	夢と活力に満ちた地域づくりを目的に、沖縄県内で経済、福祉、環境、文化等に関わる活動に取り組む非営利団体等を支援する運動。沖縄ろうきんATM、または提携するイオン銀行・セブン銀行ATMのお取り引き（お引き出し、ご入金）に応じて寄付金額を積み立て、地域で活躍する非営利団体等へ寄付することで、その活動を支援している。	原則として、主たる事業所が沖縄県内にある非営利団体等。	最大10万円 （2020年度選定団体9団体） 2020年度21団体へ総額130万円	沖縄県労働金庫 098-861-1196 https://www.okinawa-rokin.or.jp/

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
民間 10	おきぎん ふるさと 振興基金	沖縄県の産業振興、伝統文化、学術研究に励む人々を支援する目的で、年1回(当行創立記念日)助成金を授与している。	該当分野において功績・実績があるか、研究中で将来性があるか、と認められる個人、団体、企業商店会、事業組合等。又はSDGsの達成に資する取り組みを行っている個人・団体等。	最大100万円	おきぎんふるさと 振興基金(沖縄銀行 総合企画部内) 098-869-1253 https://www.okinawa-bank.co.jp/opf/index.html
民間 11	りゅうちゃん 子どもの希望 募金助成事業	貧困等を理由に地域から孤立しがちな子どもたちの育ちと学びを支援することを目的に、琉球新報社と協働で、赤い羽根共同募金の一環として「りゅうちゃん子どもの希望募金」を実施。集まった募金は、子供や子育て世帯を支える取り組みを行う民間団体に助成している。	子どもや子育て世帯を支える取り組みを行う民間団体。	最大50万円	社会福祉法人 沖縄県共同募金会 098-882-4353 https://www.okishakyo.or.jp/ 株式会社 琉球新報社 098-865-5111
民間 12	赤い羽根 共同募金	共同募金へ寄せられた募金を活用し、地域福祉の推進を図るため、地域福祉活動、更生保護事業、その他社会福祉を目的とする事業を行う民間団体に助成を行う。	非営利組織(社会福祉法人、公益法人、一般社団・財団法人、NPO、任意団体)	最大200万円	社会福祉法人 沖縄県共同募金会 098-882-4353 https://www.okishakyo.or.jp/
民間 13	NHK歳末 たすけあい募金	誰もが安心して新たな年を迎えることができるよう県民参加の共同募金運動の一環として実施。集まった募金は、民間団体による支援活動や児童養護施設入所児童の就学・就職の支度費として助成を行う。	非営利組織に限る(NPO法人、任意団体等)	最大10万円 ※募金状況によって助成額の変動あり。	社会福祉法人 沖縄県共同募金会 098-882-4353 https://www.okishakyo.or.jp/
民間 14	提案公募型 普及啓発事業	脱炭素社会の構築のイベント、循環型地域社会の構築(地域の環境整備など)、河川愛護活動、ピーチクリーンなど、団体、地域主体の活動に対して、提案公募型で推進する。	・市民団体 ・地域、自治会 ・アジェンダ21県民会議会員	1団体概ね20万円を上限とし、審査会を通して採択。	一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会 098-945-2686 https://koeikyo.com/
民間 15	NPO等環境 ボランティア 活動支援事業	環境保全活動を目的とするボランティア活動で、個人でも参加エントリーできる小口の助成事業。	・市民団体 ・地域、自治会 ・アジェンダ21県民会議会員 ・沖縄県地球温暖化防止活動推進員	概ね5万円を上限とする。 (簡易型)1回 5,000円。	一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会 098-945-2686 https://koeikyo.com/
民間 16	社会福祉振興 基金 地域福祉活動 モデル事業	地域福祉のニーズに対応した先駆的、開拓的な取組に対し、「地域福祉活動モデル事業」として地域団体へ2年間助成。	・社会福祉法人 ・一般社団法人 ・一般財団法人 ・公益社団法人 ・公益財団法人 ・特定民放法人 ・特定非営利活動法人 ・任意団体 ・市町村社会福祉協議会	2年間上限100万円まで/1団体。	沖縄県社会福祉協議会 いきいき長寿センター 098-887-1344 https://www.okishakyo.or.jp/
民間 17	社会福祉振興 基金 地域福祉活動 モデル事業 「社会的孤立 対策モデル事業」	社会的孤立ゼロに向けた運動について、地域での支え合い体制を構築し、事業の柱となる市町村社協が取り組む事業等のほか、地域の特性に応じた事業・活動を実施する団体へ3年間助成。	市町村社会福祉協議会	1団体 ・3年間総額 1,500万円以内 ・1年間上限500万円まで	沖縄県社会福祉協議会 いきいき長寿センター 098-887-1344 https://www.okishakyo.or.jp/
民間 18	学校と産業界 の交流事業	・学校への「出張授業」(講師として授業に参加) ・先生方の研修会・勉強会やPTA会合等での講演 ・その他(講演会・勉強会等の講師 他)	沖縄県内の小学校高学年、中学校、高等学校の生徒・教師・PTA等	依頼のあった学校に講師を無料で派遣。	公益社団法人 沖縄県工業連合会 098-859-6191 http://www.okikouren.or.jp/gyo-u-school.html

地域づくりに役立つ施策

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
民間 19	学P	大学生の実践型インターンシップ事業として、県内7大学から約50名を受入れる。期間は約3か月。商品企画・開発、品質管理、販売企画、SNSマーケティングまで、トータルでプロチームが全面的にサポートし、実体験してもらう。学生のプロデュースする商品のことを「学P」といい、県内全店で発売され、実際にお客様の評価を受ける。 ※2020、2021年度はコロナの影響で開催中止。	・沖縄大学 ・沖縄国際大学 ・沖縄キリスト教学院大学 ・琉球大学 ・名城大学 ・沖縄女子短期大学 ・沖縄県立農業大学校 (2019年実績)	大学生の企業体験。人材育成として当社からの講義及びサポートなど。	沖縄ファミリーマート 広報マーケティング室 098-867-2420 https://gakup.jp/
民間 20	沖縄離島戦略的 情報発信支援	離島をPRする事業。特産品をブランドWECKの瓶につめたオシャレな商品にして、弊社の県内観光立地の一部店舗で販売。	・石垣島 ・久米島 ・伊江島 ・来間島 ・多良間島 ・伊良部島 ・粟国島 ・沖縄本島	商品化及び商品流通におけるサポート。一部店舗での販売。	沖縄ファミリーマート 商品部 098-867-2420 https://okinawaselection.jp/
民間 21	渡名喜村観光 協会「地域おこし 協力隊」制度	地域外から人材を受け入れ、その経験や技術力、アイデア等を活かして地域力の強化・地域振興を図るもの。	・市町村 ・県	県・市町村が、予算措置をして地域おこし協力隊員の経費を負担した場合、1人あたり470万円(令和3年度現在)を上限として国が特別交付税措置を行う。	渡名喜村役場 総務課 098-989-2002 https://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/index.html
那覇市 1	頑張るマチグー 支援事業／ 那覇市地域 商店街等支援事業	那覇市の中心商店街その他の商店街の活性化に向けた事業を行う者の、創意工夫による積極的な取組を支援することを目的とする。	・商店街振興組合 ・商店街振興組合連合会 ・任意の商店街及び通商 ・NPO法人	・商店街の環境整備等に30万から500万円 ・イベント事業に上限100万円 ・マップ作成や研修会などに上限30万円	那覇市 なはまち振興課 地域商店街活性化G 098-867-5260 https://www.city.naha.okinawa.jp/business/syokougou/R3matiguwasien.html https://www.city.naha.okinawa.jp/business/syokougou/tiikisyoutenngai.html
那覇市 2	校区まちづくり 協議会支援事業	互いが知り合い、顔が見える関係づくりなどを行うことによって、地域住民相互の理解と信頼関係を築き、地域へ良い効果をもたらすことを目的としている。	那覇市内36小学校区内で活動する自治会、PT(C)A及び地域で活動する個人・企業・事業所等、地域の全ての方々が構成する団体が、それぞれの目的や活動を尊重し合い、地域の課題解決を図っていくことを目的として設立された、校区まちづくり協議会及び同準備会。	準備会： 240,600円 (上限) 協議会： 834,600円 (上限)	那覇市 市民文化 まちづくり協働推進課 協議会推進G 098-861-3846 https://www.city.naha.okinawa.jp/kurasitetuduki/collabo/matidukuri/kouku/index.html
宜野湾市 1	地域 コーディネーター 養成講座	講義やフィールドワーク、ワークショップなどを通して地域の課題や資源を発見し、地域課題解決や地域活性化について考える講座。 【目的】協働によるまちづくりの実現に向け、地域の多様な人や組織、地域の資源や魅力を繋ぐ地域コーディネーターや、地域で活躍する地域リーダーの発掘・育成。様々な団体の協働で事務局を運営。(市、教育委員会、社会福祉協議会、NPO、企業など)	SDGsや地域づくりに興味のある方。(住所要件なし)	参加費無料	宜野湾市 企画部 市民協働推進課 098-893-4411 https://www.city.ginowan.lg.jp/soshiki/kikaku/3/1/2/3/8871.html
宜野湾市 2	地域づくり 進助成事業	主体的に地域づくりを行う市民団体等を育成・支援することを目的に、事業に必要な経費を助成する。	宜野湾市内で活動する2名以上の団体。	上限50万円	宜野湾市 企画部 市民協働推進課 098-893-4411 https://www.city.ginowan.lg.jp/soshiki/kikaku/3/1/2/3/1202.html
宜野湾市 3	ICTを活用した 地域課題解決策を 学ぶ講座	市民自らが、地域課題を考え、ICTを活用した地域課題解決策を学ぶ市民参画型の講座。(シビックテック・ハッカソン・アイデアソンなど) 【目的】 ・ICTを活用して地域課題を解決する動きを創りだす。 ・「地域課題」と「ICTを活用した課題解決策」を学ぶ。 ・参加者同士の交流を図り、自発的な市民活動の動きを促す。	ICTや地域づくりに興味のある方。(住所要件なし)	参加費無料	宜野湾市 企画部 市民協働推進課 098-893-4411 https://www.city.ginowan.lg.jp/soshiki/kikaku/3/1/2/3/9385.html

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
宜野湾市4	学生がデザインするまちづくり講座	琉球大学との包括連携協定に基づき、琉球大学の「地域企業(自治体)お題解決プログラム」において、宜野湾市と琉球大学が連携協力して実施するまちづくり講座。高大連携事業として高校生も参加し、高校生、大学生、社会人が共にまちづくりを考える。若い人材の発掘・育成。地域の住民と学生の交流を図ることを目的としている。	琉球大学生、高校生、社会人など。	琉球大学生は授業として参加。 沖縄県教育委員会が指定する公開授業のため高校生の受講は無料。 社会人は受講料有。	宜野湾市 企画部 市民協働推進課 098-893-4411 宜野湾市 https://www.city.ginowan.lg.jp/soshiki/kikaku/3/1/2/3/7107.html 琉球大学 https://chiiki.skr.u-ryukyu.ac.jp/?page_id=1117%E%BC%89
石垣市1	石垣市北部地域移動販売事業	主に石垣市の北部地域に住む過疎地単身高齢者等の買い物支援及び見守りを兼ねて、移動販売車両(HOBO)を活用することにより、買物弱者に対して支援を行うことが目的である。	石垣市北部地域に在住の方。	石垣市北部地域において、HOBO運営支援員による移動販売車で移動が困難な住民を中心に注文形式で商品を販売する。 また、月会費(500円)による買物代行支援も行う。	石垣市 農政経済課 0980-82-1307
石垣市2	石垣市空き家バンク補助金	石垣市空き家バンクに登録した空き家物件の改修に係る費用を補助する。	石垣市空き家バンクに登録した空き家物件。	空き家バンクに登録した物件の改修費用(上限50万円)を助成する。	石垣市 企画部 企画政策課 地域創生係 0980-82-1350 https://ishigaki-ijyu.com/
石垣市3	学び遊び学級実施委託事業	青年会や婦人会、老人クラブ等の社会参加促進を目的に自発的学習意欲向上を図るため、学級開設及び学習プログラムを団体に委託する。	石垣市社会教育関係団体登録制度に関する要綱の規定により、登録された団体及び文化・サークル団体、県立高等学校、大学及び研究所、その他教育委員会が適当と認めた団体、石垣市自治公民館連絡協議会に加盟している団体。	予算の範囲内において、1団体あたり8万円を上限に補助する。	石垣市教育委員会 いきいき学び課 0980-83-0373 https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/ikiiki/2/2/710.html
石垣市4	社会教育団体補助金	市民の学校教育、スポーツ・レクリエーション、芸術・文化活動、社会教育の向上に寄与する等、公益性を有する団体が実施する事業に対し、補助金を交付する。	規約を有し、会計機能を有する団体。	事業費の内、対象経費の1/2。	石垣市教育委員会 いきいき学び課 0980-83-0373 https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/ikiiki/2/2/712.html
浦添市1	浦添市まちづくりプラン助成金交付事業	市民協働によるまちづくりの推進及び良好な都市環境の形成に寄与する事業を実施する者に対し助成。	地域づくり団体	最大50万円/1件	市民部 市民協働・男女共同 参画課 098-874-5711 https://www.city.urasoe.lg.jp/article?articleId=609e70af3d59ae2434bfd8f6
浦添市2	浦添市商店街振興奨励補助金	本市の商業団体等が行う商店街振興事業に対して補助し、商店街の振興発展を図ることを目的とする。 【対象事業】 1. 共同施設整備事業 2. 共同事業(イベント、調査・情報発信、等) 3. 団体育成事業(視察研修、講演会、等)	市内通り会等(商店街振興組合等)	125万円/団体全体	産業振興課 098-876-1299
沖縄市1	文化によるまちづくり推進事業(文化、音楽)	文化による地域づくりを推進するため、沖縄市内の文化団体等が実施する文化活動経費の一部を補助する。	①文化による地域づくり活動支援事業 広く公開される創造的な文化芸術活動で、かつ沖縄市内の文化芸術の振興に寄与できると認められる舞台公演事業。 ②音楽によるまちづくり推進事業 沖縄市内で開催する音楽イベント等で、魅力ある音楽鑑賞機会の提供と音楽のまちのブランド化を推進する公演事業。	①文化による地域づくり活動支援事業 対象経費の4分の3以内(上限100万円) ②音楽によるまちづくり推進事業 対象経費の4分の3以内(上限100万円)	沖縄市 経済文化部 文化芸能課 098-939-1212 https://www.city.okinawa.okinawa.jp/

地域づくりに役立つ施策

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
豊見城市 1	豊見城市市民 団体活動 支援事業	市民団体等が自主的、主体的に企画及び実施する事業に対し、事業費の一部を補助する。	市民団体等	1団体：事業費の90%以内、20万円まで	豊見城市 協働のまち推進課 協働のまち推進班 098-850-0159
豊見城市 2	生ごみ自己処理 奨励金 (普及啓発活動)	生ごみの堆肥化・減量化促進に関する普及啓発活動を行う団体に対し、奨励金を交付する。	市内に事務所、事業所等を有している団体。	5,000円／1件	豊見城市 市民部 生活環境課 098-850-5520 https://www.city.tomigusuku.lg.jp/living/74/272
うるま市 1	うるま市地域 活動支援助成 事業	うるま市内に在する団体が地域で実施するまちづくり活動に対して交付することで、主体的な地域課題の解決と、地域が主役のまちづくりに向けた市民意識の高揚と市民参画を図り、市民協働(パートナーシップ)によるまちづくりを推進することを目的とする。	うるま市内に在する団体等	40万円まで／1団体	うるま市 市民協働課 098-973-5487 https://www.city.uruma.lg.jp/tiiki/151/1420/1479
宮古島市 1	地域づくり 支援事業	地域の個性及び資源を活かした「自主的で個性豊かな宮古島市」を推進する地域づくり団体等が行う事業に対して補助金を交付。	地域づくり団体等	50万円まで／1団体	宮古島市 地域振興課 地域振興係 0980-73-4905
南城市 1	南城市上がり 太陽プラン事業	自治会・区やNPO及びボランティア団体等をはじめとする市民活動団体から提案事業を募集し、優秀な提案事業を行う団体に対し、事業実施に係る経費の一部又は全部を助成金として交付する。	・南城市内に活動拠点がある団体であること。 ・5人以上で構成され、その構成員の過半数が南城市に在住・在勤又は在学する者の団体であること。	【自由提案型、テーマ設定型】 50万円まで／1団体 【こども提案型】 25万円まで／1団体	南城市 まちづくり推進課 地域振興・交流推進係 098-917-5394 https://www.city.nanzo.okinawa.jp/top/
南城市 2	南城市地域 コミュニティ 計画策定事業	地域住民が主体となり、「地域の現状や課題」「地域づくりの目標」「目標を実現するための取組」などの方向性を位置づけた地域コミュニティ計画を策定しようとする、区・自治会に助成金を交付する。	区・自治会	対象経費の10/10、上限105万円	南城市 まちづくり推進課 地域振興・交流推進係 098-917-5394 https://www.city.nanzo.okinawa.jp/top/
国頭村 1	国頭村 地域づくり 促進助成事業	地域住民の創意を生かした自主的・主体的な取り組みを促進するため、定住促進及びコミュニティ活性化を目的とした地域づくり事業。	・各字自治会(各区) ・地域づくり団体、NPO法人 ・産業団体	助成額上限 ・定住促進事業 300万円 ・コミュニティ活性化事業 200万円	国頭村 企画商工観光課 0980-41-2622
今帰仁村 1	今帰仁村花 いっぱい運動 支援事業	美しい村づくりに資するため、花いっぱい運動事業を実施する村内の団体に対し、花いっぱい運動に要する経費に対して予算の範囲内で補助金を交付するものとし、環境美化及び地域コミュニティの促進を図り、村民との協働によるむらづくりを推進する。	地縁団体、社会教育及び福祉団体、その他村長が認める団体	上限10万円／1件	今帰仁村 総務課 行政係 0980-56-2101 https://www.nakijin.jp/
宜野座村 1	景観形成活動 助成制度	宜野座村景観むらづくり条例に基づき、景観むらづくり活動団体と認められた団体が行う、良好な景観形成に対して支援する制度。 【例】 ・道路沿いの花植え等の緑化活動 ・地域のごみ拾い等の美化活動	景観形成団体として認められた団体。	5万円以内／1団体	宜野座村 企画課 098-968-5100 https://www1.g-reiki.net/vill.ginoza/reiki_honbun/q918RG00000789.html

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
金武町 1	金武町ふるさと創生事業	地域の特性を生かした自主的、主体的な地域づくりを図るため、個人又は団体が行う事業に要する経費に対し、予算の範囲内で補助金を交付するもの。 【内容】 ・人材育成交流事業 ・地域づくり事業	・金武町内に住所を有する個人又は団体。 ・高校生及び大学生等で保護者が金武町内に住所を有する者。	対象事業によって異なる。 例：「人材育成に係る研修に関すること」においては、事業費の75%以内、1人あたりの限度額250万円。	金武町 企画課 企画係 098-968-6262
読谷村 1	字別構想推進事業	村民と行政が協働により策定した「読谷村字別構想」の実現に向けた「字(自治会)」の活動を支援するための措置を講ずることにより、本村の「字(自治会)」という地域活動の主体を生かした住民自治の育成、地域の創意工夫やその特性に則した事業の振興を図り、もって豊かで活気ある協働によるまちづくりに資することを目的とする。	村内23自治会	最大300万円／1自治会 総事業費の90／100以内	読谷村 ゆたさむら推進部 企画政策課 企画調整係 098-982-9205
読谷村 2	「ノーベル平和賞を夢みる村民基金」収益金運営事業	「村民が自ら考え自ら行う地域づくり」を目指し、歴史・伝統・文化・産業の分野でさらなる発展をめざす事業やユニークな事業の募集を行っている。	村内に居住する個人又は団体。 (NPO団体も含む)	項目ごとに異なる。	読谷村 ゆたさむら推進部 企画政策課 企画調整係 098-982-9205 https://www.vill.yomitani.okinawa.jp/sections/finance2/post-892.html
嘉手納町 1	嘉手納町公共施設美化ボランティア助成金	嘉手納町が管理する公園、道路等の施設の環境美化活動を自主的に行うものに対して助成金を交付することにより、町内公共施設の景観を改善し、地域協働によるまちづくりを推進することを目的とする。	町内に現に住所を有する、又は町内の事務所若しくは事業所に勤務する20歳以上の者で組織された団体であって、その構成人員が5名以上であり、助成対象作業を年4回以上行うもの。	10万円まで／1団体	嘉手納町 都市建設課 施設管理係 098-956-1111 https://www1.g-r-eiki.net/kadena/reiki_honbun/q924RG00000679.html
嘉手納町 2	嘉手納町地域活性化イベント補助金	町が指定するイベントを行う団体に対して補助金を交付することにより、町の賑わいを創出し、町の活性化に寄与することを目的とする。	・YOU・遊・比謝川実行委員会 ・嘉手納町エイサーまつり実行委員会 ・嘉手納町社交飲食業組合	・YOU・遊・比謝川河童まつり、嘉手納町エイサーまつり：100万円以内 ・社交業ピアフェスタ、社交業泡盛まつり：50万円以内	嘉手納町 産業環境課 商工振興係 098-956-1111 https://www1.g-r-eiki.net/kadena/reiki_honbun/q924RG00000741.html
嘉手納町 3	嘉手納町音楽によるまちづくり推進に関する補助金	本町が推進する音楽によるまちづくりに資すると認められる事業を実施する団体に対し、事業に係る補助対象経費の総額又は30万円のいずれか低い額を補助する。	町内要件を満たしている団体。	補助対象経費の総額又は30万円のいずれか低い額。	嘉手納町 産業環境課 商工振興係 098-956-1111 https://www1.g-r-eiki.net/kadena/reiki_honbun/q924RG00000818.html
北中城村 1	北中城村伝統芸能振興基金事業	村とイオンモール株式会社間で締結した村道の命名権販売契約(ネーミングライツ契約)による収入を主な原資とした基金から、村内の伝統芸能団体等へ補助金を交付し、活動の支援と伝統芸能の振興・後継者育成を推進する。	伝統芸能の保存団体、伝統芸能の後継者育成に資する活動に取り組む団体等。	最大50万円／1件(助成額の上限については、今後、柔軟な対応を検討予定。)	北中城村教育委員会 生涯学習課 098-935-3773 http://www.vill.kitanakagusuku.lg.jp/material/files/group/7/h30shoukai.pdf
与那原町 1	与那原町自主防災組織等活動補助金	与那原町が、各自主防災組織の活動等(防犯パトロール、防災訓練、防災資機材)に対して補助金を交付する。	各事象防災組織	各自主防災組織：上限額5万以内	与那原町 生活環境安全課 防災安全係 098-945-4688
与那原町 2	与那原町伝統文化活動支援補助金	地域の伝統文化の継承と、伝統文化活動を通して地域活性化を目的に実施される伝統行事に要する経費に対して、町の予算の範囲内において補助金を交付する。	町内自治会	対象事業経費の2分の1以内とし、10万円を補助限度額	与那原町 総務課 098-945-2201

地域づくりに役立つ施策

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
与那原町3	与那原町自治会等交付金	自治会等を支援することにより、自主的、主体的な地域活動の推進を図るとともに、自治会等との協働を円滑に進めるため、予算の範囲内において自治会等への交付金を交付する。	町内自治会	・交付金の交付率は、対象事業経費の2分の1以内。 ・交付金の限度額は、次に掲げる額の合計額。 ①均等割額 1自治会等につき5万円。 ②世帯割額 当該年度の4月1日現在における自治会等加入世帯数に100円を乗じて得た額。	与那原町 総務課 098-945-2201
座間味村1	座間味村地域活性化助成事業	地域振興や活性化のため、自主的に取り組む団体などを支援する。	村内の非営利団体、村外の団体で本村の活性化に有益な事業を行う団体。	最大50万円／1件	座間味村 総務・福祉課 098-987-2311
座間味村2	地域国際交流推進事業	村内中学生の中から優秀な人材を海外へ派遣し、村の発展に貢献できる人材の育成を図る。	村内中学生	派遣に要する費用の8割を補助。	座間味村教育委員会 098-987-2153
座間味村3	地域文化振興事業	村内中学2年生を対象に、姉妹村である群馬県嬬恋村へ派遣し、青少年の健全育成を図るための助成をする。	村内中学校2年生	事業費全額を補助。	座間味村教育委員会 098-987-2153
久米島町1	久米島町景観形成活動助成事業	良好な景観の形成のために、久米島町景観計画に沿った自主的な活動を行うものを町が認定し、支援する制度。 【例】 ・道路沿いの花植え等の緑化活動 ・地域のゴミ拾い等の美化活動	5名以上で構成された町内の団体。	20万円以内／1団体	久米島町 建設課 農林班 098-985-7125
久米島町2	久米島町緑化推進事業	町内の緑化活動を推進することを目的に、地域住民や各団体に対し無料で花苗の配布を行う。	・沿道での花づくりを行う個人 ・環境美化を推進する町内の団体（自治会、職場、その他団体等）	花苗の無料配布。	久米島町 環境保全課 環境保全班 098-985-7126
久米島町3	久米島町現代版組踊推進事業	島内の小・中・高生で構成される現代版組踊の継続的な舞台芸能活動を行うため、久米島現代版組踊りの推進を図る。 舞台芸能を通じて、生まれ育った地域の文化歴史に誇りを持ち、自らの身体と声でその素晴らしさを表現・発信することで、誇りと魅力を自発的に島内外へ発信していく人材育成を目的とする。	小・中・高生、OBで構成される団体。	運営費を支援。	久米島町 教育課 社会教育班 098-985-2287
竹富町1	一島一祭事業	本町の各島々で行われている伝統的民俗行事や地域を代表する各種行事を通じて地域の振興を図るため、各公民館に対し予算の範囲内において助成金を交付するものとし、その交付に必要事項を定めることを目的とする。	町内の各公民館	予算150万円のうち、交付決定された団体に対し、申請金額や国の重要無形文化財、人口によって調整して1団体約5万～15万円を交付。	竹富町 政策推進課 0980-83-0507
竹富町2	頑張る地域応援プロジェクト事業	地域が「6次産業化」に関する独自の施策を展開することにより、「魅力ある島々」「魅力ある地域」に創造するよう、地域独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む町内在住の個人、地域公民館、団体等に対し、プロジェクト支援金を交付し、農林水産業と食と地域のくらしの発展に貢献する機会を提供することにより、住民自治の発展、更なる地域活性化に資することを目的とする。	町内在住の個人、地域公民館、団体等。	・個人：上限10万円 ・団体：上限50万円	竹富町 政策推進課 0980-83-0507

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
竹富町3	竹富町 地域おこし 協力隊制度	地域外の人材を積極的に誘致し、その定住及び定着を図り、もって地域力の維持・強化並びに地域の活性化に資することを目的とする。	市町村	440万円を上限／1人 (特別交付税措置)	竹富町 政策推進課 0980-83-0507 https://www.facebook.com/taketo-mi.chiikiokoshi
竹富町4	竹富町 集落支援員制度	人口減少及び高齢化が進行する本町において、地域の実情及び課題を把握し、住民と行政の協働のもと、コミュニティ機能の維持・活性化を推進することを目的とする。	市町村	430万円を上限／1人 (特別交付税措置)	竹富町 政策推進課 0980-83-0507 https://www.facebook.com/taketo-mi.chiikiokoshi
竹富町5	竹富町 地域プロジェクト マネージャー制度	本町における重要プロジェクトの現場における責任者として、関係者間を適切に調整及び橋渡ししながら当該プロジェクトを推進するとともに、人材育成や体制整備などプロジェクトの自走化に向けた手立てを講じることを目的とする。	市町村	650万円を上限／1人 (特別交付税措置)	竹富町 政策推進課 0980-83-0507
本部町1	本部町 コミュニティ 助成事業	住民が自主的に行うコミュニティ活動の促進を図り、地域の連帯感に基づく自治意識を盛り上げることを目指す。	・市町村 ・広域連合 ・一部事務組合	コミュニティ活動に直接必要な設備等の整備を行う。	本部町 企画商工観光課 0980-47-2702 https://www.jichisogo.jp/wp/wp-content/uploads/2020/08/R3comi-yoko.pdf
多良間村1	多良間村 コミュニティ 活動促進事業	コミュニティ活動の充実を図るために必要な備品等の購入に対し助成を行うことにより、コミュニティ活動の促進に寄与する事を目的とする。	市町村	助成率90%以内 限度額50万円以内	多良間村 総務財政課 0980-79-2011
中部広域1	地域間連携・ 交流イベント 助成事業	中部広域圏(沖縄市・うるま市・宜野湾市・北谷町・嘉手納町・西原町・読谷村・北中城村・中城村)の個性豊かな地域特性をすべて「資源」としてとらえ、それらを有機的に連携させ、50万人都市圏にふさわしい中部広域圏の活性化に繋げていくことをめざし、中部広域圏内で連携・交流を行うイベントに対して助成する事業。	市町村	1市町村:21万円	中部広域 総務課 広域事業係 098-929-1685 http://maichu.jp/aboutus/page5_kouiki_02_4.php
国1	農業次世代人材 投資事業 ①準備型 ②経営開始型	次世代を担う農業者となることを志向する49歳以下の者に対し、就農準備や経営開始時の早期の経営確立を支援する資金を交付。	①就農に向けて必要な技術等を習得するために研修を受ける者。 ②次世代を担う農業者となることを目指し、独立・自営就農する認定新規就農者。	①交付額:最大150万円/年 (最長2年間) ②交付額:経営開始1～3年目150万円/年、経営開始4～5年目120万円/年	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 経営課普及・就農係 098-866-1628 https://www.maff.go.jp/j/new_farmers/n_syunou/roudou.htm
国2	農の雇用事業 ①雇用就農者育成・ 独立支援タイプ ②新法人設立 支援タイプ ③次世代経営者 育成タイプ	青年の雇用就農及び研修後の独立就農を促進するため、農業法人等が労働環境を改善しつつ行う49歳以下の新規就業者への実践研修や多様な人材の確保、新たな法人設立に向けた研修等を支援するとともに、農業法人等による従業員等の派遣研修を支援。	①②就農希望者を新たに雇用して研修を実施する農業法人等。 ③職員等を異業種の法人・先進的な農業法人へ派遣研修する農業法人等。	①年間最大120万円、最長2年間等 ②年間最大120万円、最長4年間等 ③月最大10万円、最長3ヶ月～最長2年間	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 経営課普及・就農係 098-866-1628 https://www.maff.go.jp/j/keiei/nougyou_jinzaiikusei_kakuho/koyou.html
国3	機構集積協力金 交付事業のうち 地域集積協力金	人・農地プランを実質化し、まとまった農地を農地バンクへ貸し付けて、担い手への農地集積・集約化等に取り組む地域に対して協力金を交付します。	人・農地プランを実質化し、地域内の農地の一定割合以上を農地バンクへ貸し付けた地域。	交付対象農地に対する交付単価は、一般地域の場合、10アール当たり最大2.2万円を交付。(交付単価は、地域区分や農地バンクの活用率に応じて変動。)	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 経営課農地集積・耕作放棄地対策係 098-866-1628 https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/kikou/attach/pdf/index-247.pdf

地域づくりに役立つ施策

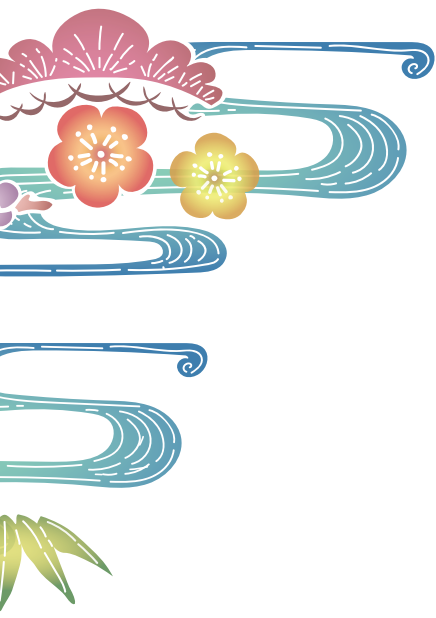
施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
国 4	農山漁村振興 交付金	地域の創意工夫による活動の計画づくりから就業の場の確保、所得向上や雇用の増大に結びつける取組を発展段階に応じて総合的に支援。 ①地域活性化対策(活動計画策定事業) ②地域活性化対策(農山漁村地域づくり事業体形成支援事業) ③農泊推進対策 ④農福連携対策	・地域協議会 ・農林水産業を営む法人 ・社会福祉法人 等	①活動計画策定事業:定額 ②農山漁村地域づくり事業体形成支援事業:定額、1/2 ③農泊推進対策:定額、1/2 ④農福連携対策:定額、1/2 ※上限額は取組メニューや要件によって異なる。	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 農村振興課 農村活性化推進室 098-866-1652 https://www.maff.go.jp/j/nousin/soumu/yosan/R2_hojyo/attach/pdf/index-61.pdf
国 5	日本型直接支払 交付金(多面的 機能支払交付金)	農業農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援。	・活動組織(農業者のみ、または農業者及び地域住民や団体などで構成) ・広域活動組織	【沖縄県の畑の場合】 ・水路、農道等の維持活動:1,380円/10a ・施設の軽微な補修、農村環境保全活動:720円/10a ・水路、農道の補修・更新等:2,000円/10a	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 農村振興課 農村活性化推進室 098-866-1652 http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html
国 6	日本型直接支払 交付金(中山間 地域等直接支払 交付金)	農業の生産条件が不利な地域(傾斜地や沖縄の離島)における耕作放棄地の発生を防止することを目的として、集落等で締結された協定に従って行われる営農活動等を支援。	集落等を単位とする協定を締結し、5年間農業生産活動を継続する農業者等。	【緩傾斜地の交付単価】 ・田:8,000円/10a ・畑:3,500円/10a ・草地:3,000円/10a	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 農村振興課 農村活性化推進室 098-866-1652 http://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai_seido/index.html
国 7	強い農業・担い手 づくり総合支援 交付金	産地の収益力強化と担い手の経営発展のため、産地・担い手の発展の状況に応じて必要な農業用機械・施設の導入を支援するとともに、地域農業者の減少や労働力不足等生産構造の急速な変化に対応するための、新たな生産事業モデルや農業支援サービス事業の育成を支援。	県等	1/2、3/10等	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課 生産総合指導係 098-866-1653 https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r3kettei_pr12.pdf
国 8	茶・薬用作物等 支援対策	茶や薬用作物、甘味資源作物等の地域特産作物について、高品質生産、産地の規模拡大及び担い手の育成などを強力に推進するため、地域の実情に応じた生産体制の強化、需要の創出など生産から消費までの取組を総合的に支援。	民間団体等	定額、1/2以内	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課 園芸振興係、さとうきび係 098-866-1653 https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r3kettei_pr09.pdf
国 9	土づくり・ 有機農業の推進	土壌診断等を通じた科学的データに基づく土づくりを推進する環境の整備を図るとともに、有機農業に取り組む人材の育成、実需者ニーズも踏まえたオーガニックビジネスの拠点的な産地づくり等を通じた国際水準の有機農業の取組を推進します。	県等	定額、1/2	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課 特産振興係 098-866-1653 https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r3kettei_pr13.pdf
国 10	食料産業・ 6次産業化 交付金	6次産業化の推進に向けて、農林漁業者と多様な事業者が連携して行う地域資源を活用した新商品開発や販路開拓等の取組、加工・販売施設等の整備及び新たな高付加価値商品等の創出・事業化に必要な技術実証、マーケティング等を支援。	・県 ・市町村 ・民間団体等	定額、1/2以内、 1/3以内等	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 食料産業課 食料産業班 098-866-1673 https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r3kettei_pr42.pdf
国 11	水産多面的機能 発揮対策事業 (交付金)	環境・生態系の維持・回復や安心して活動できる海域の確保など、漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能発揮に資する活動を支援。	地域協議会	多面的機能発揮に資する事業に要する経費を対象に交付金を助成。 定額(活動メニューごとの上限単価内。)	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 林務水産課 漁政係 098-866-1674 https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_thema/sub391.html

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
国 12	森林・山村多面的 機能発揮対策	地域住民等による森林の保全、森林資源の利活用、森林環境教育等の取組を支援。	・地域協議会 ・活動組織（地域住民、森林所有者、自治会等で構成する組織）	景観保全・整備活動、侵入竹の伐採・除去活動、しいたけ原木等の伐採・搬出、森林環境教育、路網の補修・機能強化、資材・機材の整備等。 補助率：定額、1/2以内	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 林務水産課 林務班 098-866-1674 https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanso/n/tamenteki.html
国 13	地域商業機能 複合化推進事業	来街者の消費動向等の調査分析や、新たな需要の創出につながる魅力的な機能の導入など、商店街等組織又は民間事業者が実施する、最適なテナントミックスの実現に向けた仕組みづくり等に取り組む事業に対し、地方公共団体とともに補助する。	地方公共団体 ※商店街等組織又は民間事業者は間接補助事業者（地方公共団体からの補助金交付対象）となる。	・消費動向等分析・テナントミックス構築事業 補助率：地方公共団体が間接補助事業者に交付する額の4/5 補助金額：上限400万円 ・商店街等新機能導入促進事業 補助率：地方公共団体が間接補助事業者に交付する額の2/3 補助金額：上限4,000万円 ※上記はいずれも国から地方公共団体に対する補助率及び補助金額。	内閣府沖縄総合事務局 経済産業部 商務通商課 098-866-1731 https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/2021/210325kino_fukugo.html
国 14	農工商等連携 事業	農林漁業者と中小企業者が共同で行う新たな商品やサービスの開発等に係る計画について国が認定を行い、この計画に基づく事業に対し、政府系金融機関による低利融資、信用保証の特例等の支援を行うことにより、農林漁業と商工業等の産業間連携を強化して地域経済を活性化する取組。	・農工商等連携により新たな事業活動を展開しようとする農林漁業者と中小企業者。 ・中小企業者と農林漁業者との交流機会の提供、中小企業者等に対する農工商連携に関する指導等を行う、一定の要件を満たす一般社団・財団法人又はNPO法人。 ※いずれも「農工商等連携促進法」に基づき農工商等連携支援事業計画を作成し、国の認定を受けた者。	・専門家による支援 ・政府系金融機関からの低利融資 ・信用保証の特例 ・農業改良資金の活用 ・設備投資減税	内閣府沖縄総合事務局 経済産業部 中小企業課 098-866-1755 https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/noushoko/index.html
国 15	JAPANブランド 育成支援等事業	海外展開やそれを見据えた全国展開のために、新商品・サービスの開発・改良、ブランディングや、新規販路開拓等の取組を中小企業者が行う場合に、その経費の一部を補助することにより、地域中小企業の域外需要の獲得を図るとともに、地域経済の活性化及び地域中小企業の振興に寄与することを目的としている。	・商工会 ・商工会議所 ・組合 ・NPO法人 ・中小企業、小規模事業者等	補助金額：500万円以内（下限200万円） ※複数者による連携体の場合最大2,000万円以内 補助率：1、2年目：2/3以内 3年目：1/2以内 ※3年以内に海外展開を行うことを明確に示した案件は、国内販路開拓に係る部分について補助率1/2以内とする。	内閣府沖縄総合事務局 経済産業部 中小企業課 098-866-1755 https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/chiiki/japan_brand/2021/21041502Jbrand-koubu.html
国 16	地域力活用新事業 ∞全国展開 プロジェクト	本事業は、地域の小規模事業者が商工会、商工会議所等と協力・連携して、地域資源を活用して行う新たな特産品・観光商品の開発、その販路拡大などの地域をあげた取り組み（通称：地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト）を支援するもの。また、地域発商品の販路開拓・拡大を目指す小規模事業者に対して、共同展示・商談会などへの出展を通じ、新たな商機を創出することを目的としている。	・商工会 ・商工会議所	補助対象 ・調査研究事業（事業可能性調査（F/S）） ・本体事業（特産品開発、観光開発など）	内閣府沖縄総合事務局 経済産業部 中小企業課 098-866-1755 https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/chiiki/
国 17	地域・企業共生型 ビジネス導入・ 創業促進事業 （補助事業）	地域内外の中小企業等が、地方公共団体等の地域内の関係主体と連携しつつ、地域・社会課題解決と収益性との両立を目指す取組を支援する。	中小企業等	①通常型（5市町村以上の地域で実証する事業） ・補助率：2/3以内 ・補助上限額3,500万円（下限額100万円） ②広域展開型（10市町村以上の地域で実証する事業） ・補助率2/3以内 ・補助上限額4,500万円（下限額100万円）	内閣府沖縄総合事務局 経済産業部 企画振興課 098-866-1727 http://www.chiki-lb.jp/
国 18	地域・企業共生型 ビジネス導入・ 創業促進事業 （委託事業）	少子高齢化、過疎化が進行する中、地域住民に必要な日常生活サービス機能を維持・継続するためには地域内外の関係主体の連携体制の構築が重要である。連携体制の中で中心となる組織（オーガナイザー）立ち上げの事業計画を策定し、モデルとして提示することにより、オーガナイザーを中心とした連携体制構築を促進する。	中小企業等	上限1,000万円	内閣府沖縄総合事務局 経済産業部 企画振興課 098-866-1727 https://www.meti.go.jp/information/publico/offer/kobo/2021/k210510001.html

地域づくりに役立つ施策

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
国 19	新たな沖縄観光サービス創出支援事業	新型コロナウイルス感染症の拡大防止との両立を図りつつ、沖縄の自然、歴史、文化、食などの資源を生かした、観光客の消費単価や滞在日数の向上に資する観光サービスの開発等を行う事業に要する経費を補助することにより、沖縄の観光産業の収益力向上を図る。	沖縄県内に本社または営業所を有する法人で旅行業（又は旅行業者代理業）の登録を受けている者等。	当局が交付決定した執行団体が補助事業者を募集。 ・補助率：8/10以内 ・1団体あたりの補助上限額：1,600万円	内閣府沖縄総合事務局 運輸部 企画室 098-866-1812 https://www.ocvb.or.jp/topics/3655
国 20	地域公共交通確保維持改善事業	生活交通の存続が危機に瀕している地域等において、地域の特性・実情に最適な移動手段が提供され、また、バリアフリー化やより制約の少ないシステムの導入等、移動に当たっての様々な障害（バリア）の解消等がされるよう、地域公共交通の確保・維持・改善を支援する。	協議会における議論を経た生活交通確保維持改善計画に事業実施予定者として定められた交通事業者等。	・地域公共交通確保維持事業：1/2等 ・地域公共交通バリア解消促進等事業：1/3等 ・地域公共交通調査等事業：1/2	内閣府沖縄総合事務局 運輸部 企画室 098-866-1812 http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000041.html
国 21	新モビリティサービス推進事業	MaaSなどの新たなモビリティサービスにより、都市部における道路混雑や、地方部における少子高齢化に伴う交通サービスや移動そのものの縮小、更にはドライバー不足など、交通サービスの様々な課題を解決することを目指し、多様なサービスを結合し、地域間・業種間の垣根を越えた日本型 MaaS の共通基盤の実現に向けた検討や実証実験の支援、オープンデータ化の推進に向けた実証実験を行う。 ※MaaS：出発地から目的地までの複数の移動手段等を一つのサービスとして捉える概念。シームレスでニーズに最適な移動を提供する。	地方公共団体と連携した民間事業者又はこれらを構成員とする協議会等。	・日本版MaaS推進・支援事業：1/2 ・新型輸送サービス導入支援事業：1/3 ・地域交通キャッシュレス決済導入支援事業：1/2～1/3 ・地域交通データ化推進事業：1/2 ・混雑情報提供システム導入支援事業：1/2 ・新モビリティサービス事業計画策定支援事業：1/2	内閣府沖縄総合事務局 運輸部 企画室 098-866-1812 https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000163.html https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000164.html
県 1	水源環境保全活動支援事業	水源環境の保全や環境教育活動を実施する水源都市町村及びNPO等に対して助成	・市町村 ・NPO等	1補助事業者：10～100万円の範囲で助成。	企業局 配水管理課 配水班 098-866-2810 http://midorihana-okinawa.jp/?page_id=3451
県 2	花のゆりかご事業（事業主体：県）	農林高校生等によって生産した苗を地域の緑化に役立てることで、以下のことを目的としている。 ・緑化コミュニティの核づくりや住民参加型の緑化活動の支援 ・小中高校における学校緑化の推進、支援 ・農林高校生等が社会活動へ参加することによる、地域で生きる若い担い手の育成 ※公益社団法人沖縄県緑化推進委員会に委託。	県内の学校、緑化活動団体等（但し、生産校に直接受け取りに行ける方に限定）。	農林高校等の生徒が生産した苗の提供。	環境再生課 緑化推進班 098-866-2064 （公益社団法人沖縄県緑化推進委員会 098-987-1644）
県 3	緑化センター事業（事業主体：県）	・緑化の普及啓発を図るため、緑化の相談窓口を開設し、広く相談・照会への対応及び指導業務を行う。 また、緑化教室を年2回開催する。 ・公益社団法人沖縄県緑化推進委員会に委託して実施。	一般及び公共機関等、広範な範囲を対象としている。	・専門家による相談対応（電話、メール等） ・専門講師による緑化教室の開催 ・その他必要に応じて樹木医の紹介	環境再生課 緑化推進班 098-866-2064 （公益社団法人沖縄県緑化推進委員 098-987-1644） http://www.midorihana-okinawa.jp/?page_id=105
県 4	みどりを活用した地球環境保全推進事業（事業主体：県）	・緑化活動の実施に必要な知識や実践力の習得を目的とした技術講習会の開催。 ・緑化活動の実施に必要な苗木等の配布。 ・公益社団法人沖縄県緑化推進委員会に委託して実施。	対象となる緑化活動団体は、道路、河川、公園その他公共施設等で緑化活動を行う地域住民等で構成された団体とする。	・技術講習会の開催：県内5地区において、各地区1回以上で計10回以上開催。 ・苗木等の配布：上記の技術講習会において、緑化活動の実施に必要な苗木等の配布を行い、当該苗木等を用いて、緑化活動を実践する。	環境再生課 緑化推進班 098-866-2064 （公益社団法人沖縄県緑化推進委員 098-987-1644）

施策	事業名	事業内容等	対 象	支援内容	連絡先・URL
県5	緑の募金公募事業(事業主体:公益社団法人沖縄県緑化推進委員会)	緑の募金を財源とし、地域の緑化活動に対する支援を行っている。(補助金の交付) 【補助対象】 ・森林整備事業:造林・保育一式 ・緑化推進事業:植樹・保育・管理一式、苗木配布費 ・普及啓発事業:イベント開催費、広報活動費、調査研究費 ・その他事業:運営協議会で認められた事業	・県内の地方公共団体 ・県内の民間の非営利団体 ・以下の①②の要件を満たす県内の団体 ①規約等で名称、事務所、役員、役員、事業計画等が規定され、適正な事業執行が確実と認められる団体 ②営利を目的としない団体	補助金の限度額 ・森林整備(50万円/団体) ・緑化推進(25万円/団体)	環境再生課 緑化推進班 098-866-2064 (公益社団法人沖縄県緑化推進委員会 098-987-1644) https://www.oki-green.or.jp/?page_id=32
県6	ふるさと農村活性化基金事業	農地・土地改良施設の多面的機能の良好な発揮や地域活性化を図ることを目的に、維持管理活動や普及啓発イベント等の地域共同活動に対して支援を行う。	・地域振興五法の指定地域 ・上記の地域と一体として事業を推進することが効果的であると認められる地域等	1地区につき年間100万円未満。	農林水産部 村づくり計画課 農村活性化推進班 098-866-2263 https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/norin/muradukuri/hurusatokikin.html
県7	「沖縄、ふるさと百選」認定事業	豊かな景観を持ち、癒しや安らぎを与えてくれる等、多面的機能を有する農山漁村のもつ魅力を県民に広く紹介し、農山漁村に対する理解を進めるために、地域が誇れる魅力あるふるさとづくりを行う地域・団体を「沖縄、ふるさと百選」として認定・顕彰する。	地域・団体	認定証・パネルの作成 パネル展開催やHP等によるPR。	農林水産部 村づくり計画課 農村活性化推進班 098-866-2263 https://www.pref.okinawa.jp/site/norin/muradukuri/kassei/hyakusen.html
県8	スポーツツーリズム(スポーツイベント支援事業)	沖縄でその種目を行う明確な優位性や理由があり、事業の継続性及び発展性が見込まれるスポーツイベントに対して助成。	・地方公共団体(市町村、一部事務組合) ・民間団体 ・NPO法人	・スポーツイベント新規事業 最大10,000千円(補助率3分の2以内) ・スポーツイベント定着化枠 最大8,000千円(補助率2分の1以内)	スポーツ振興課 スポーツ企画班 098-866-2708 https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/sports/index.html
県9	サッカーキャンプ誘致戦略事業	誘致におけるインフラ整備として、サッカーキャンプには「良好な芝生環境」が求められることから、グラウンドの芝生環境の向上に取組み、プロの練習に耐えられる芝生環境の整備を行う。	・市町村 ・県	グラウンド巡回支援事業 県内のサッカーキャンプをするグラウンドを巡回し、管理指導や情報交換。	スポーツ振興課 スポーツ企画班 098-866-2708 https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/sports/index.html
県10	都市防災総合推進事業	・災害危険度判定調査 地震等による都市災害を対象として、防災上重点的かつ緊急に整備を要する地域を明確にするための市街地の災害危険度判定に関する調査に対して補助を行う。 ・住民等のまちづくり活動支援 大都市等の防災上危険な密集市街地や地方都市等の中心市街地において、住民等のまちづくり活動を活性化するために、行う地区住民等に対する啓発活動、まちづくり協議会活動への助成、地区のまちづくり方針の作成に対して補助を行う。	・県 ・市町村 ・防災街区整備推進機構	【国事業】 各事業の施行地区の要件に該当する地区における調査・活動支援に要する費用の3分の1以内を国が補助する。	都市計画・モノレール課 市街地整備班 098-866-2408 (所管:国土交通省) https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_tobou_uk_000008.html
県11	市街地再開発事業の活用等に関するご相談(空洞化再生等相談窓口)	社会経済情勢や商業環境の変化等を背景に、地方都市の駅前等の拠点的なエリアの建築物(再開発ビル等)には、空き床の増加など空洞化が進んだ又は進みつつあるものが見受けられることから、その空洞化の再生・防止に向けて活用できる制度や事例の紹介、これらに関する知見を有する専門家の派遣等を行う。	・地方公共団体 ・地方公共団体の紹介を受けた非営利団体等	【国事業】 ・相談窓口への電話・メール・来訪による相談を踏まえた専門家紹介。 ・専門家を現地へ招聘した勉強会等(費用は相談者負担)。	都市計画・モノレール課 市街地整備班 098-866-2408 (所管:国土交通省) https://www.mlit.go.jp/toshi/city/sigaiti/toshi_urbanmainte_uk_000069.html
県12	区画整理支援業務(専門家等派遣)	まちづくりや区画整理についての専門家や経験者を当該機構の費用負担で現地に派遣し、指導助言を行う。 ・まちづくりについての勉強会 ・区画整理をはじめための勉強会 ・区画整理実施段階での相談会や勉強会 ・区画整理に関係する税金についての相談会や勉強会 ・保留地等の土地利用についての相談会や勉強会	・県 ・市町村 ・組合・準備組合等 ・区画整理関係団体	【法人事業】 専門家等の派遣に要する費用(謝金、旅費及び宿泊費)。	都市計画・モノレール課 市街地整備班 098-866-2408 (所管:公益財団法人区画整理促進機構) https://www.sokin.or.jp/support/senmon.html



復帰50周年記念事業
うちなー地域づくり事例・施策集

発行	2023年1月発行 沖縄県
編集	沖縄県企画部 地域・離島課 〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 TEL(098)866-2370 FAX(098)866-2068



